

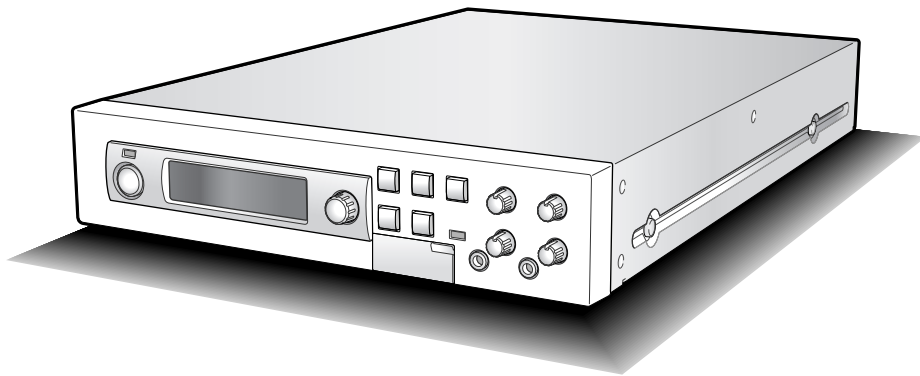
Panasonic®

取扱説明書

工事説明付き

デジタルICプレーヤー
デジタルICレコーダー

WZ-DP150
品番 WZ-DP250



上手に使って上手に節電



保証書別添付

このたびは、デジタルICプレーヤー、デジタルICレコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」(7~9ページ)は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

本書について

本書は、再生専用機のデジタルICプレーヤー（WZ-DP150）と、録音再生機のデジタルICレコーダー（WZ-DP250）共通の取扱説明書です。

デジタルICレコーダー専用の機能説明には、**DP250** という表示をしています。

デジタルICプレーヤー専用の機能説明には、**DP150** という表示をしています。

商品概要

本機は内蔵メモリー・SDメモリーカードを使用した業務用放送機器です。

内蔵メモリー・SDメモリーカードに音声（アナウンス）や音楽などを録音・再生できます（録音機能はデジタルICレコーダーのみ）。

- ・SDメモリーカード（動作確認済み）：パナソニック株式会社製（64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB）
- ・SDHCメモリーカードには対応していません。

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）	1冊	CD-ROM*	1枚
保証書	1式	操作ガイド	1枚

※CD-ROMには、設定支援ソフトと取扱説明書（PDFファイル）が収められています。

付属CD-ROM内の取扱説明書（PDFファイル）をご覧になるには、アドビシステムズ社のAdobe® Reader®（バージョン5以上）が必要です。

- ・SDメモリーカードは付属していません。

以下の付属品は取付工事に使用します。

ACアダプター	1個	電源ケーブル	1本
ユーロブロックソケット	1個	束線バンド	3本

商標および登録商標について

- ・Microsoft、Windows、DirectXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Intel、インテル、Pentiumは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標または登録商標です。
- ・Adobe、Adobe Reader、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の登録商標または商標です。
- ・SDロゴは商標です。
- ・その他、本文中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

ソフトウェアの著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、ならびに輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ① 本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ② お客様の故意、誤使用や不注意による損害または本商品の破損など
- ③ お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④ 本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、放送ができないなどで被る不便・損害・被害
- ⑤ 第三者の機器と組合せたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
- ⑥ 取付方法の不備など、本商品の不良によるもの以外の事故に対する不便・損害・被害
- ⑦ 登録した情報内容が何らかの原因により消失してしまうこと

著作権のある音楽の利用手続きについて

- ・店舗などでCDやテープなどの録音物から著作権のある音楽を「BGM（店内放送）」として利用する場合は、社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）とご契約いただき、使用料のお支払いが必要となります。
- ・JASRACと契約している音源提供事業者から供給を受ける音楽については、個別にご契約いただく必要はありません。詳しい内容については、音源提供事業者におたずねください。
- ・福祉施設・病院・教育機関での利用、事務所・工場などでの主として従業員を対象とした利用については当分の間、使用料が免除されています（著作権法第38条第1項により）。詳しい内容については、JASRAC本部または最寄りの支部にお問い合わせください。

用語について

本書で使用する用語について説明します。

- ・メッセージ SDメモリーカードや本機内蔵メモリーに録音されている音声や音楽をメッセージと表現しています。
- ・放送イベント メッセージを放送するための動作を放送イベントと表現しています。
たとえば、前面パネルのボタン操作による放送や接点制御入力による放送を放送イベントと呼びます。
- ・組合せメッセージ 複数のメッセージを組合せて1つの放送イベントで連続して放送するように設定したものを組合せメッセージと表現しています。
- ・プログラムメッセージ 複数のメッセージを組合せて1種類の放送イベントで次々と放送するように設定したものをプログラムメッセージと表現しています。詳しくは、「組合せメッセージ/プログラムメッセージとは」(53ページ)をお読みください。
- ・ステップ 組合せメッセージやプログラムメッセージの1つの単位を指します。メッセージと無音区間をまとめてステップと表現しています。
- ・メッセージ番号 SDメモリーカードや本機内蔵メモリーに録音されているメッセージには、番号がつけられており、その番号をメッセージ番号と表現しています。
- ・プロテクト メッセージの変更を禁止し、誤操作によるメッセージの削除や設定変更を防止する機能です。
- ・運用データ 本機が動作するために必要なデータのことです。各種設定情報やメッセージなどを含めて、運用データと表現しています。
- ・動作中出力 メッセージの再生中にメイク (ON) される本機後面の端子です。

その他

- ・ MPEG Audio Layer3 音声圧縮技術は、Fraunhofer IIS およびThomson multimedia からライセンスを受けています。
- ・ GPLについて
本製品についてはGNU General Public License (GPL)、GNU Lesser General Public License (LGPL) その他に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。
お客様は当該ソフトウェアのソースコードを入手し、GPLまたはLGPLにしたがい、複製、頒布および改変ができます。
当該ソフトウェアに関する詳細は、本製品付属CD-ROM内の「readme.txt」をご参照ください。
なお、ソースコードの内容などについてのご質問にはお答えできません。あらかじめご了承ください。

記号のみかた



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

はじめに

本書について	2
商品概要	2
付属品をご確認ください	2
商標および登録商標について	2
ソフトウェアの著作権について	3
免責について	3
著作権のある音楽の利用手続きについて	3
用語について	4
その他	4
記号のみかた	4
安全上のご注意	7
取り扱い上のお願ひ	10
使用上のお願ひ	10
各部のなまえと働き（前面パネル）	12
機能一覧	14

操作のしかた

本機に共通した操作について	16
画面構成について	16
画面表示と操作	17
メッセージとファイルについて	19
運用データについて	22
SDメモリーカードの取り扱いについて	23
メッセージの再生のしかた	27
メッセージの録音のしかた <small>DP250</small>	28
メッセージの確認のしかた	33
タイマーを使った再生のしかた	35
接点制御入力信号による再生	35
通信接続による再生	43
こんな使いかたもできます	44
繰り返し再生の設定のしかた	44
ミキシング放送のしかた	46
メッセージ名の編集のしかた	49
メッセージの削除のしかた	50
メッセージのプロテクトのしかた	51
組合せメッセージ/プログラムメッセージの使いかた	53
シャッフル再生の使いかた	63
メッセージのチェックのしかた	66
キーロックの設定/解除のしかた	67
フェードアウト時間の設定のしかた	68
機能ボタンを使った再生のしかた	69

電源投入時自動再生設定のしかた	71
再生遅延設定のしかた	72
液晶ディスプレイ (LCD) バックライトの点灯設定のしかた	73
設定支援ソフトについて	74
設定支援ソフトでできること	74
インストール方法	75
アンインストール方法	76
運用データについて (応用編)	77
音源データのクリーンアップ	77
運用データのセーブ、バックアップ、ロードの方法	78
内蔵メモリーについて (応用編)	82
内蔵メモリーの録音空き容量を増やす方法	82
工場出荷時のメッセージをリストアする方法	84

設置・設定

取り扱い上のお願い	86
設置上のお願い	86
各部のなまえと働き (後面パネル)	87
ラックへの取り付けかた	88
接続のしかた	89
ACアダプターとの接続	89
外部DC電源との接続	89
ケーブルの処理について	91
音楽再生機器との接続	91
アンプとの接続	92
プログラムコントローラーとの接続	93
制御入力端子の接続	95
前面へのマイク・音源機器の接続	96
アンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンとの接続	97

必要なとき

故障かな!?	98
仕様	102
保証とアフターサービス	105



安全上のご注意

必ずお守りください



はじめに

お使いになる人やほかの人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因になります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異物を入れない



禁止

水や金属が内部にはいると、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



分解禁止

火災や感電の原因になります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いが出るなど、そのまま使用すると火災の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

不安定な場所に置かない



禁止

落下などでけがの原因になります。

ACアダプターの電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く



コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

⚠ 警告

ACアダプターは指定のものを使う



指定以外のものを使うと、火災・感電のおそれがあります。

- 必ず付属のACアダプターをご使用ください。

ACアダプターの電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

ACアダプターの電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない



禁止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ACアダプターの電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

(傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、束ねたりしない)



禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

ぬれた手で、ACアダプターの電源プラグの抜き差しはしない



ぬれ手禁止

感電の原因になります。

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない



水ぬれ禁止

水などが中に入った場合、火災や感電の原因になります。

- ただちに電源プラグを抜いて、販売店にご連絡ください。

雷のときは工事、配線をしてはいけない



禁止

火災や感電の原因になります。

取り付けねじは、しっかりとしめる



落下などで、けがの原因になります。

- 取付工事は販売店に依頼してください。

⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に設置しない



火災や感電の原因になります。

禁止

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない



耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

取り扱い上のお願い

使用上のお願い

⚠ 警告、⚠ 注意に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

●使用電源は、AC 100 Vです。(ACアダプター使用時)

消費電力の大きな機器（複写機、空調機器など）と同じコンセントから電源をとらないでください。

●使用温度範囲は、0℃～+45℃です。(ACアダプターのみ 0℃～+40℃)

この温度範囲以外で使用すると、内部の部品に悪影響を与え、故障または誤動作の原因となります。

●電源スイッチについて

電源スイッチを「切」にしただけでは、電源は遮断されません。電源を遮断するときは、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、外部DC電源使用時は外部DC電源の電源を切ってください。

●使用場所について

- ・本機は室内専用機器です。
- ・水滴または水しぶきのかからない状態で使用してください。
- ・花瓶など液体の入ったものを本機の上に置かないでください。

●結露について

結露は、故障の原因になりますので注意してください。

以下のようなときに結露が発生しやすくなります。

- ・湿度が高いとき
- ・冷たい場所から、温度や湿度の高い場所に移動したとき

結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

●お手入れについて

汚れたときは、電源を切り、乾いた柔らかい布で拭いてください。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはがれることがありますので避けてください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。

●ACアダプターをお使いの場合

- ・ACアダプターおよび電源コードは、必ず本機に付属のものを使用してください。
- また、本機以外の機器に付属のACアダプターおよび電源コードを使用することはできません。
- ・本機の電源スイッチがOFFの状態でも、約0.5 Wの電力を消費しています。

●表示について

本機の識別、定格およびそのほかの表示は、本機底面のラベルをお読みください。

●長期間使用しない場合

電源スイッチを「切」にして、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

●SDメモリーカード（別売）について

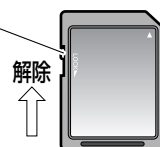
- ・SDメモリーカードの抜き差しの方法は23ページをお読みください。

- **重要** ● フォーマットすると、SDメモリーカード内のすべてのデータが失われます。
- 本機では下記のSDメモリーカードを使用してください。

SDメモリーカード（動作確認済み）：パナソニック株式会社製（64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB）

- ・SDメモリーカードは書き込み禁止スイッチを備えています。本機で使用するときは必ず「LOCK」を解除してください。本機は動作上必要なデータをSDメモリーカードに書き込みます。

書き込み禁止スイッチ



- ・ miniSDカード、microSDカード、SDHCメモリーカード、マルチメディアカードは使用できません。
- ・ 分解や改造をしないでください。
- ・ 強い衝撃を与える、曲げる、落とす、水にぬらすなどしないでください。
- ・ 金属端子部を手や金属で触れないでください。
- ・ 貼られているラベルをはがしたり、新たにラベルやシールを貼らないでください。
- ・ 温度が高くなる場所（閉めきった自動車内や直射日光のあたるところなど）に放置しないでください。
- ・ 湿度の高いところや、ほこりの多いところに放置しないでください。
- ・ 静電気や電磁波が発生するところに置かないでください。
- ・ 使用するSDメモリーカードの取扱説明書をお読みいただき、その注意書きにしたがって使用してください。

■SDメモリーカードを破棄／譲渡するときのお願ひ

- ・ 本機やPCの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、SDメモリーカード内のデータは完全に消去されません。
- ・ SDメモリーカードを廃棄や譲渡される場合は、SDメモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のPC用データ消去ソフトなどを使用してSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。SDメモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。

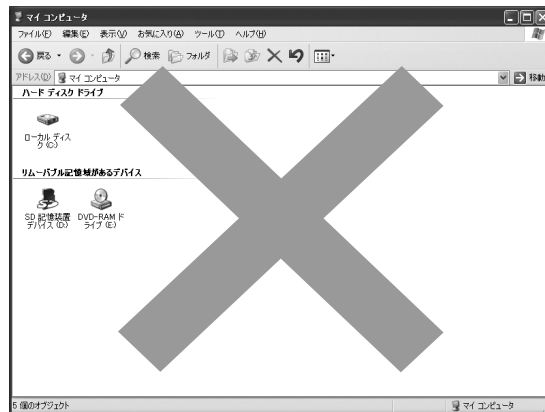
■SDメモリーカードを使用してデータの変更などを行うときは、必ず「WZ-DP150／250 設定支援ソフト」(CD-ROMに付属)を使用してください。

Windowsの機能を使って以下のことを行うと正常に動作しません。

- ・ メッセージのファイルを入れ替える
- ・ ファイル名を変更する
- ・ ファイル内のデータを変更する



付属の「WZ-DP150／250設定支援ソフト」
を使用してください



Windowsの機能は使用しないでください

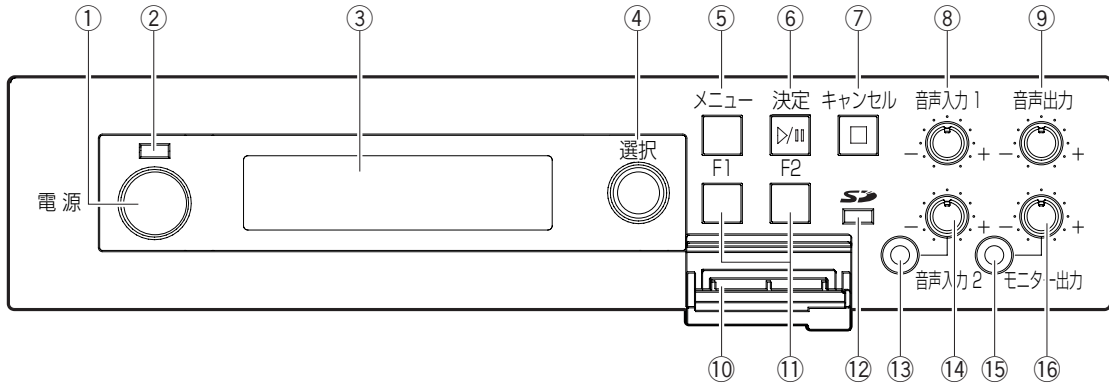
■SDメモリーカードを使用して本体の内蔵メモリーのデータを変更するときは、合計サイズの上限にご注意ください。

メッセージの合計サイズの上限は、各種設定情報と合計して8 MBです。合計サイズは「WZ-DP150／250 設定支援ソフト」で確認できます。確認のしかたについては、「WZ-DP150／250設定支援ソフト」取扱説明書（CD-ROMに付属）の「設定情報やメッセージの合計サイズの確認方法について」をお読みください。

■SDメモリーカードをフォーマットするときはWindowsのフォーマット機能は使わないでください。

- ・ 新規に購入したSDメモリーカードはそのままお使いいただけます。
- ・ Windowsのフォーマット機能でSDメモリーカードをフォーマットしてしまった場合は、SD規格に準拠した「SDメモリーカードフォーマットソフトウェア」を使用して再フォーマットしてください。「SDメモリーカードフォーマットソフトウェア」はSDメモリーカードメーカーのウェブサイトなどで入手してください。

各部のなまえと働き (前面パネル)



※イラストはWZ-DP150/250共通です。

- ① **電源スイッチ** [電源]
本機の電源を「入/切」します。
- ② **電源表示灯**
電源スイッチを「入」にすると、緑色に点灯します。
- ③ **液晶ディスプレイ (LCD)**
本機の状態・設定メニューを表示します。
- ④ **選択ダイヤル** [選択]
メッセージや各設定値を選択します。
- ⑤ **メニューボタン** [メニュー]
メニューを表示します。
- ⑥ **決定、再生/一時停止ボタン** [決定、▶/||]
各設定値を決定したり、音楽などの再生/一時停止を行います。
- ⑦ **キャンセル、停止ボタン** [キャンセル、■]
各設定内容をキャンセルしたり、1つ前に戻したり、再生している音楽の停止を行います。
- ⑧ **音声入力1つまみ** [音声入力1]
音声入力1の音量を調節します。
右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。左に回しきっても音量は0にはなりません。中央のクリック位置で、定格入力レベル-10 dBVになります。一般的なラインレベルの機器を入力する場合は、中央の位置をおすすめします。
- ⑨ **音声出力つまみ** [音声出力]
音声出力の音量を調節します。
右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。中央のクリック位置で、定格出力レベル-10 dBVになります。
- ⑩ **SDメモリーカードスロット**
SDメモリーカード(別売)を挿入します。
- ⑪ **機能ボタン** [F1、F2]
組合せメッセージやメッセージを割り当てて、再生できます。
- ⑫ **SDメモリーカードアクセス表示灯** [SD]
SDメモリーカードを読み書きしているときに点灯します。



●SDメモリーカードアクセス表示灯点灯中は、SDメモリーカードの抜き差しをしないでください。誤動作の原因となったり、データが破壊される場合があります。

⑬ 音声入力2端子 [音声入力2]

φ3.5の複式フォンジャック、バランス入力です。

WZ-DP250の場合 **DP250**

- ・この端子にマイクなどを接続して、本機で録音することができます。外部入力1から入力した音声とミキシングして録音することもできます。
- ・外部入力の音声とミキシングしながらの放送もできます。
- ・マイクと、CDプレーヤーなどのラインレベルの機器の両方を接続できます。なお、工場出荷時には入力2はマイクレベルの設定となっており、ラインレベルの機器を接続する場合は設定を変更する必要があります。いったん録音の画面に入り、入力レベルの設定を変更してください。(→28ページ5.録音レベルを選択する)ここで設定したレベルは、録音以外の場合でもそのまま反映されます。

WZ-DP150の場合 **DP150**

- ・マイクを接続できます。ライン機器には対応していません。
- ・外部入力の音声とミキシングしながらの放送ができます。



● **DP250**

ステレオ音声の音源機器を接続する場合は、市販のステレオミニプラグーモノラルミニプラグ変換コードやアダプターによって、ステレオ音声をモノラルに変換したあとにモノラルミニプラグで本機に接続してください。ステレオミニプラグを直接接続すると、本機に正しく音声を入力できません。(例：音楽で、ボーカル音だけが聞こえにくくなるなど)

⑭ 音声入力2つまみ [音声入力2]

音声入力2の音量を調節します。

右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。左に回しきっても音量は0にはなりません。

WZ-DP250の場合 **DP250**

- ・入力レベルの切り換え機能と組み合わせると、ラインレベル-10 dBV~マイクレベル-65 dBVの範囲の音声入力に対応できます。入力レベルをマイクにした場合は右回しきりで-65 dBVに、入力レベルをラインにした場合は左回しきりで-10 dBVになります。

WZ-DP150の場合 **DP150**

- ・マイクレベルの音声入力に対応できます。右回しきりで-65 dBVに、左回しきりで-35 dBVになります。

⑮ モニター出力端子 [モニター出力]

φ3.5の複式フォンジャック、モノラル出力です。

16 Ω以上のヘッドホンに対応しています。ステレオヘッドホンを接続すると、両チャンネルにモノラル音声が出力されます。アンプ内蔵スピーカーなどのライン機器を接続することもできます。

⑯ モニター出力つまみ [モニター出力]

モニター出力の音量を調節します。

右に回すと音量が上がり、左に回すと音量が下がります。

ヘッドホンをお使いの場合は、耳を傷めないように適切な音量に調節してお使いください。

機能一覧

本機の主な機能は以下の通りです。

- SDメモリーカードで録音・再生ができます。(録音はWZ-DP250のみ)
音質・圧縮率が異なる3つのモードに対応しています。また再生のみ、MP3フォーマットにも対応しています。
- 内蔵メモリーに「ウェストミンスターの鐘」などのメッセージがあらかじめ8種入っており、SDメモリーカードなしですぐに使えます。
- 外部タイマーを使うと、自動再生をすることができます。後面の接点制御入力やRS-232Cを使います。
- 本機前面の機能ボタンによく使うメッセージの再生を割り付けることができます。
- その他、多彩な再生機能を持っています。
 - ・特定のメッセージを繰り返して再生することができます。
 - ・本機の再生音声と、後面の音声入力1からの音声とをミキシングして放送することができます。
本機で再生していないときには、前面の音声入力2にマイクをつないでミキシング放送することも可能です。
 - ・複数のメッセージを組み合わせてひとつのメッセージとして放送することができます。(組み合わせメッセージ機能) 単語を組み合わせたり、チャイムとアナウンス放送を組み合わせたりといった使いかたができます。
 - ・複数のメッセージを再生したい順に並べ、外部タイマーで後面の接点制御入力をメイクするたびに順番に再生することができます。(プログラムメッセージ機能) 制御出力が1系統のタイマーで自動放送を行う場合に便利です。
 - ・複数のメッセージの再生順序をシャッフルして再生することができます(シャッフル再生機能)
 - ・メッセージ再生中に別のメッセージを割り込んで再生させるときに、前のメッセージをフェードアウトさせながらメッセージを切り替えることができます。(フェードアウト終了)
 - ・電源投入時に指定したメッセージを自動的に再生することができます(電源投入時自動再生)。
 - ・再生を開始するときに自動的に一定時間遅れてメッセージを再生させることができます。(再生遅延)
- 付属の設定支援ソフトを使うと、本機の設定、SDメモリーカードへのメッセージの登録と削除、組み合わせメッセージやプログラムメッセージの作成などがPCで簡単に行えます。
- 使用する機能によっては本機のみで操作できるもの、設定支援ソフトのみで操作できるものがありますので早見表であらかじめご確認ください。

機能と参照先の早見表

大項目	小項目	概要	参照先	
			本機	設定支援ソフト※
メッセージの録音	WZ-DP250を使った録音	内蔵メモリーやSDメモリーカードにメッセージを録音します	P28	×
メッセージの編集	組合せメッセージ	組合せメッセージを作成・編集します	P54,58	○
	プログラムメッセージ	プログラムメッセージを作成・編集します	P56,59	○
	繰り返し回数設定	メッセージ、組合せメッセージ、プログラムメッセージの繰り返し回数を設定します。	P44	○
	メッセージの削除	メッセージ、組合せメッセージ、プログラムメッセージを削除します	P50	○
	メッセージ名の編集	メッセージに名称を付与します	P49	○
メッセージの設定	機能ボタンの設定	機能ボタンを押したときに再生するメッセージを設定します	P69	○
	接点制御入力の設定	接点制御入力をマークしたときに再生するメッセージを設定します	P35	○
	メッセージのプロテクト	誤操作によるメッセージの変更を防止するためにプロテクトの設定を行います	P51	○

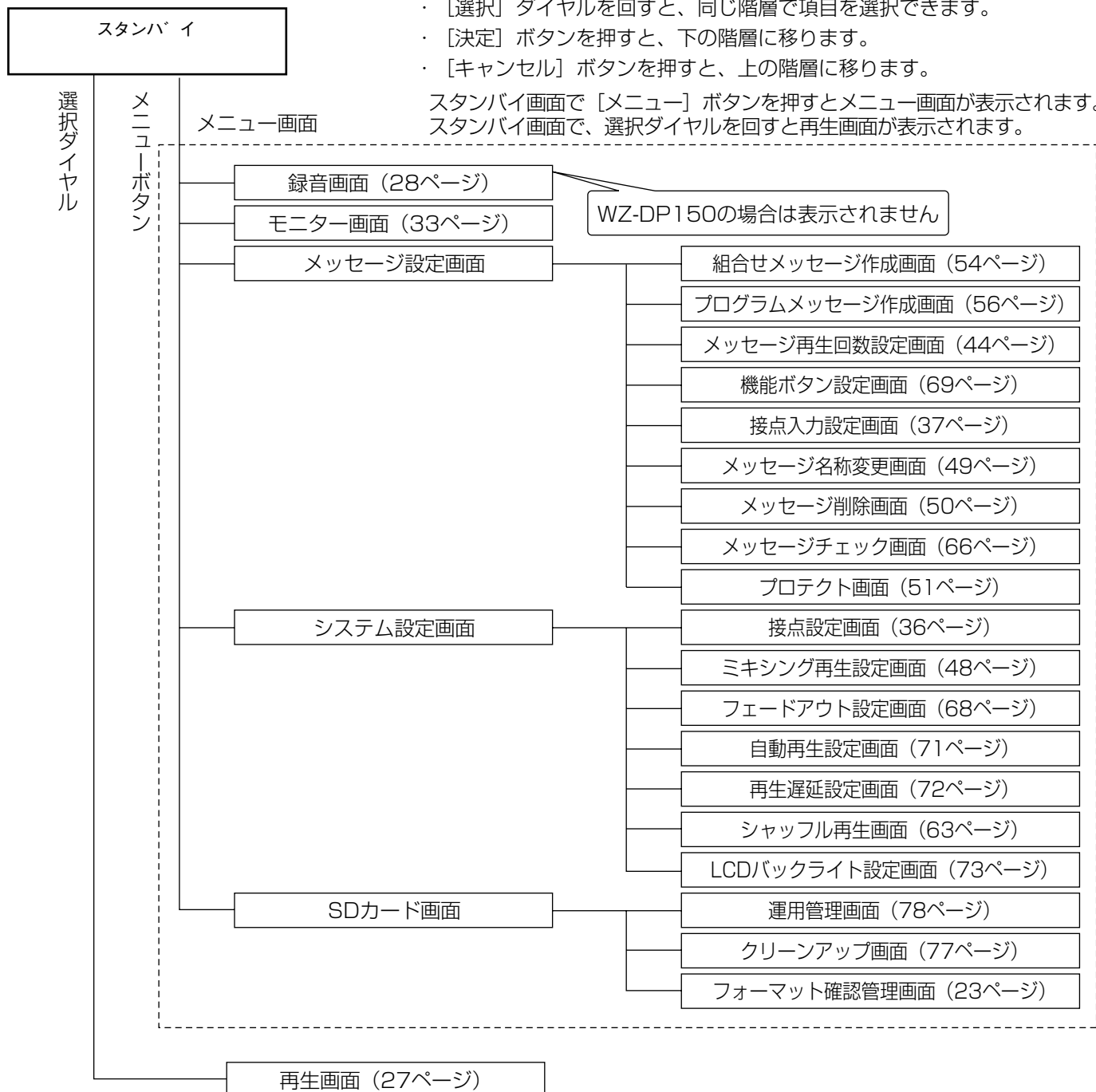
大項目	小項目	概要	参照先	
			本機	設定支援ソフト※
メッセージの設定	メッセージの整合性チェック	音源ファイルとメッセージの関連付けを精査し、メッセージの整合性を確認します	P66	○
	メッセージの整合性修正	メッセージの整合性チェックで不備があった場合に、音源ファイルとメッセージの関連付けを正しい姿に修正します	×	○
メッセージの再生	本機の画面操作による再生	[選択]ダイヤルを使ってメッセージを再生します	P27	×
		機能ボタンを使ってメッセージを再生します	P70	×
	タイマーを使った再生	接点制御入力を使ってメッセージを再生します	P40	×
プログラムタイマーと通信接続してメッセージを再生します		P43	×	
メッセージの試聴	メッセージの音声確認	実際にメッセージを放送せずにメッセージの内容を確認します	P33	○
運用データ	SDメモリーカードのクリーンアップ	使用していない音源ファイルを削除し、内蔵メモリーやSDメモリーカードの空き容量を増やします	P77	×
	運用データのセーブ	本機の内蔵メモリーに保存された設定情報やメッセージをSDメモリーカードに書き出します	P22,78	×
	運用データのバックアップ	本機で実行中の運用データをSDメモリーカードにバックアップします	P22,79	×
	運用データのロード	SDメモリーカードにある設定情報や内蔵メモリー用メッセージを本機の内蔵メモリーに読み込みます	P22,80	×
	バックアップした運用データの復元	SDメモリーカードにバックアップした運用データを復元し、再度本機で使用します。	×	○
	内蔵メモリー容量の確認	内蔵メモリーに書き込まれている設定情報やメッセージの合計サイズを確認します。	×	○
音源加工	音源ファイルのトリミング	WZ-DP250で録音した音声の開始位置と終了位置を指定し、指定した区間の音源ファイルを新たに作成します	×	○
	音源ファイルのモード変換	WZ-DP250で録音した音声のファイル形式(圧縮形式)を変換し、音源ファイルを新たに作成します	×	○
システム設定	接点制御入力の動作設定	接点制御入力を使ってメッセージを再生する場合のメッセージ指定方式を設定します	P35	○
	ミキシング設定	メッセージと音声入力1端子に接続した機器の音声とのミキシング方法について設定します	P46	○
	シャッフル再生の設定	シャッフル再生の再生対象を設定します	P63	○
	キーロックの設定	前面パネルのボタンが誤って押されても影響がないようにボタン操作を無効にします	P67	×
	フェードアウト時間の設定	再生中のメッセージを停止したときにフェードアウトする時間を設定します	P68	○
	再生遅延時間の設定	動作中出力をメークしてからメッセージを再生するまでの間隔を設定します	P72	○
	電源投入時の自動再生設定	本機の電源を投入したときに自動的に再生するメッセージを設定します	P71	○
	液晶ディスプレイのバックライト点灯設定	液晶ディスプレイのバックライト点灯動作を設定します	P73	○

※設定支援ソフトでの操作は、設定支援ソフトの取扱説明書を参照してください。

本機に共通した操作について

画面構成について

スタンバイ画面



操作のしかた

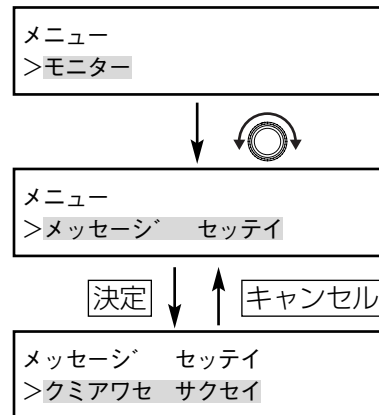
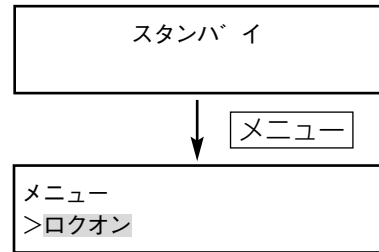
画面表示と操作

■メニュー画面の表示と終了

メニューを表示する場合は、「スタンバイ」と表示されていることを確認して、[メニュー] ボタンを押します。

メニュー操作を終了する場合は、左上に「メニュー」と表示されていることを確認して、[キャンセル] ボタンを押します。

右図はWZ-DP250の画面です。WZ-DP150の場合は、「ロックオン」ではなく「モニター」と表示されます。



■メニュー画面での項目の選びかた

メニューを表示している場合、[選択] ダイアルを回すと、項目を選択できます。現在選択されている項目は点滅します。本書では網かけしています。

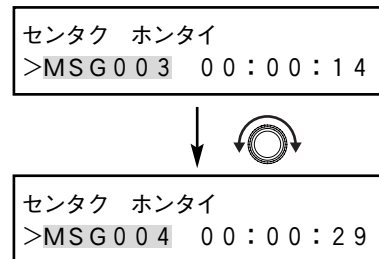
項目を決定する場合は、[選択] ダイアルで項目を選択して、[決定] ボタンを押します。

[キャンセル] ボタンを押すと、1階層上の画面に戻ります。(16ページ)

■メッセージの選択方法

メッセージを選択する場合、液晶ディスプレイにメッセージ番号が表示されます。[選択] ダイアルを回すと、1メッセージずつメッセージ番号が切り換わります。

画面は、「選択ダイアルを使った再生のしかた」(27ページ)の例です。

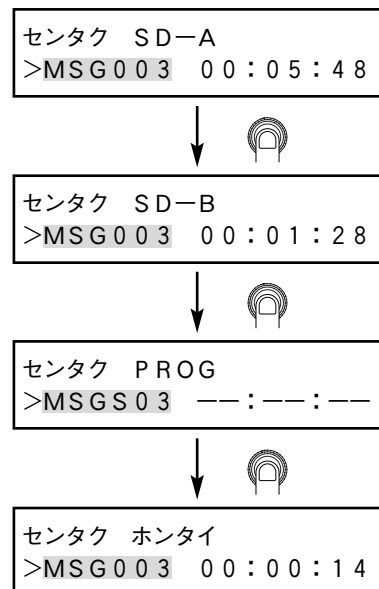


■メッセージ領域の切り換え

メッセージを保存している領域は、内蔵メモリーとSDメモリーカードの2つです。

右図は、「選択ダイアルを使った再生のしかた」(27ページ)でのメッセージ保存領域の切り換え画面です。

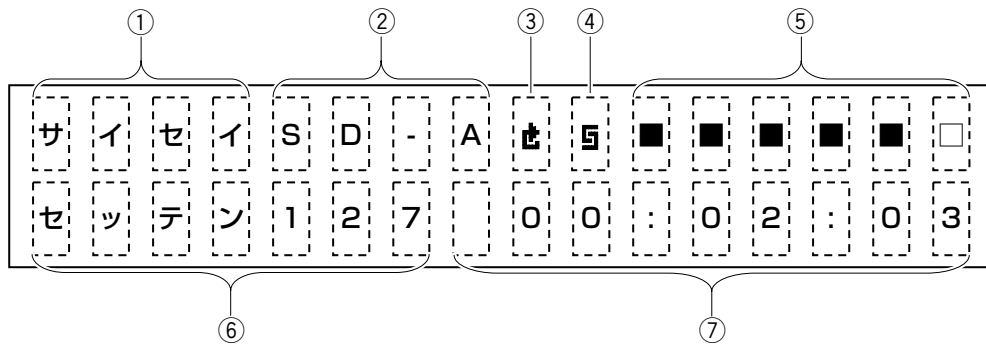
[選択] ダイアルを押すと、メッセージを保存している領域の切り換えができます。SDメモリーカードを挿入している場合は、[選択] ダイアルを押すと、選択可能なメッセージ領域はSDメモリーカードA面→SDメモリーカードB面→プログラム→内蔵メモリーの順に切り換わります。SDメモリーカードを挿入していない場合は、内蔵メモリーのみ選択できます。



本機に共通した操作について

■メッセージ再生時の液晶ディスプレイ表示について

本機では、メッセージを再生した場合、次のように液晶ディスプレイに表示されます。



- ① 再生時に、「サイセイ」と表示します。
 - ② 再生しているメッセージの領域を表示します。
 - ・「ホンタイ」：内蔵メモリー
 - ・「SD-A」：SDメモリーカードA面
 - ・「SD-B」：SDメモリーカードB面
 - ・「PROG」：組合せメッセージ／プログラムメッセージ
 - ③ 再生するメッセージが繰り返し再生設定されている場合、繰り返し再生を示すマークを表示します。
 - ④ シャッフル再生設定をしているときに、シャッフル再生を示すマークを表示します。
 - ⑤ レベルメーターを表示します。
 - ⑥ 再生方法と再生しているメッセージ番号を表示します。再生方法の次に再生しているメッセージ番号を表示します。
 - ・「MSG／MSGS／PROG」：選択ダイヤルを使った再生（27ページ）
 - ・「セッテン」：接点制御信号による再生（37ページ）
 - ・「232C」：通信接続による再生（43ページ）
 - ・「F1、F2」：機能ボタンを使った再生（69ページ）。メッセージ番号は表示されません。
 - ⑦ 再生時間または再生残時間を表示します。表示の切り換えかたは、27ページをお読みください。
- 上記の例は、接点制御信号により、SDメモリーカードA面のメッセージの127番を再生している画面です。

メッセージとファイルについて

■メッセージの構成について

本機では、メッセージ番号でメッセージを管理しています。メッセージは、音源ファイル（音源データ）とメッセージ名称より構成されています。

メッセージ番号（例：MSG0001）

ファイル名（例：CHIME）

メッセージ名（例：チャイム4オン）

名称	機能
メッセージ番号	<ul style="list-style-type: none">● メッセージを識別するための番号です。● メッセージ種別、番号の2つで構成されています。メッセージ種別は以下のとおりです。 メッセージ：MSG 組み合わせメッセージ：MSGS プログラムメッセージ：PROG 例：MSG015. メッセージの15番● 本機で再生する曲を選択する際には、この番号が液晶ディスプレイに表示されます。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none">● メッセージをSDメモリーカードに保存する際のファイル名となります。● WZ-DP250の場合は、音声を録音する際に自動的に6けたの数字のファイル名が付与されます。（変更することもできます。）● 英大文字または数字が使用可能、最大8文字です。拡張子は音声データ形式によって自動的に付与されます。● 本機ではこのファイル名を使って曲を指定することはできませんが、本機の設定支援ソフトを使う場合は、ファイル名を参照できます。
メッセージ名	<ul style="list-style-type: none">● メッセージを識別するための名称です。● 英大文字、英小文字、記号、数字、カタカナが使用可能。最大15文字です。● 本機ではこのファイル名を使って曲を指定することはできませんが、本機の設定支援ソフトを使う場合、このメッセージ名称を参照できます。

■メッセージの保存領域について

本機のメッセージは、別売りのSDメモリーカードと、本機内部の内蔵メモリーに保存できます。

SDメモリーカード

本機では、SDメモリーカードに仮想的にA面／B面という2つの領域を持たせています。日頃使うメッセージ（たとえば、BGMなど）はSDメモリーカードのA面に、一時的に使うメッセージ（1回のみ使用するアナウンスなど）をB面に保存をするという使いかたができます。

内蔵メモリー

本機内部の内蔵メモリーにも録音、再生ができます（録音はWZ-DP250のみ）。SDメモリーカードがない状態でも音声の再生ができます。

工場出荷時には、内蔵メモリーに8種類のメッセージが入っています。（21ページ）

電源がOFFの状態でも、録音された音声は保存されています。

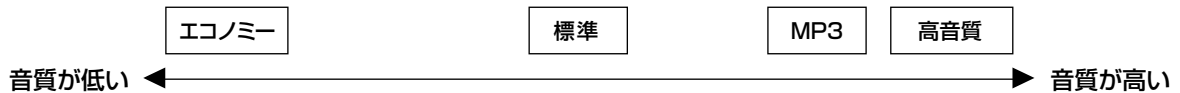
メッセージとファイルについて

■音声データ形式について

本機では、4種類の音声データ形式に対応しています。WZ-DP250では録音・再生が、WZ-DP150では再生のみ可能です。(MP3のみ、WZ-DP250でも再生のみとなります。)

形式	液晶ディスプレイ表示	解説
高音質	コウオンシツ	● 非圧縮です。高音質での録音、再生ができます。
標準	ヒョウジュン	● 本機独自の、音声圧縮による音声データ形式です。
エコノミー	エコノミー	● 本機独自の、音声圧縮による音声データ形式です。標準 よりも、圧縮率が高くなっています。
MP3 (MPEG Audio Layer3)		● 128 kbps/44.1 kHzステレオ、64 kbps/44.1 kHz モノラルに対応しています。ステレオの場合は、本機内部でモノミックスして出力します。 ● 本機では再生にのみ対応しています。

各形式の音質比較の目安



SDメモリーカード、内蔵メモリーでの蓄積時間の目安

形式	SDメモリーカード 1 GBあたりの蓄積時間	内蔵メモリーでの 最大蓄積時間※
高音質	約3.3時間	約1.5分
標準	約13時間	約6分
エコノミー	約19時間	約9分
MP3 (MPEG Audio Layer3) (再生のみ)	128 kbps/44.1 kHz ステレオ	約18時間
	64 kbps/44.1 kHz モノラル	約36時間

※内蔵メモリー内のメッセージを全て削除した状態での最大蓄積時間

■内蔵メモリーのメッセージについて

本機では、工場出荷時には、内蔵メモリーにメッセージが保存されています。

- ・工場出荷時は、本機後面の接点制御入力端子「1」～「8」には下記のMSG001～MSG008がそれぞれ割り当てられています。メッセージ番号に対応した接点入力端子をメイクすることにより、これらのメッセージを再生することができます。

メッセージ番号	音源	メッセージ名称
MSG001	ウェストミンスターの鐘	ウェストミンスター
MSG002	ウェストミンスターの鐘+重音	ウェストミンスタージュウオン
MSG003	重音	ジュウオン
MSG004	おもいで	オモイデ
MSG005	ラジオ体操第一	ラジオタイソウダイイチ
MSG006	蛍の光	ホタルノヒカリ
MSG007	コールサイン上り	コールサインノボリ
MSG008	コールサイン下り	コールサインクダリ

内蔵メモリーのメッセージの音源ファイルは、付属のCD-ROMに収められています。

工場出荷時は、内蔵メモリーのメッセージにはプロテクトがかかっています。(51ページ)



- 内蔵メモリーのメッセージは、本機で使用する場合のみ、使用許諾されています。そのほかの用途では使用しないでください。

■内蔵メモリーについて

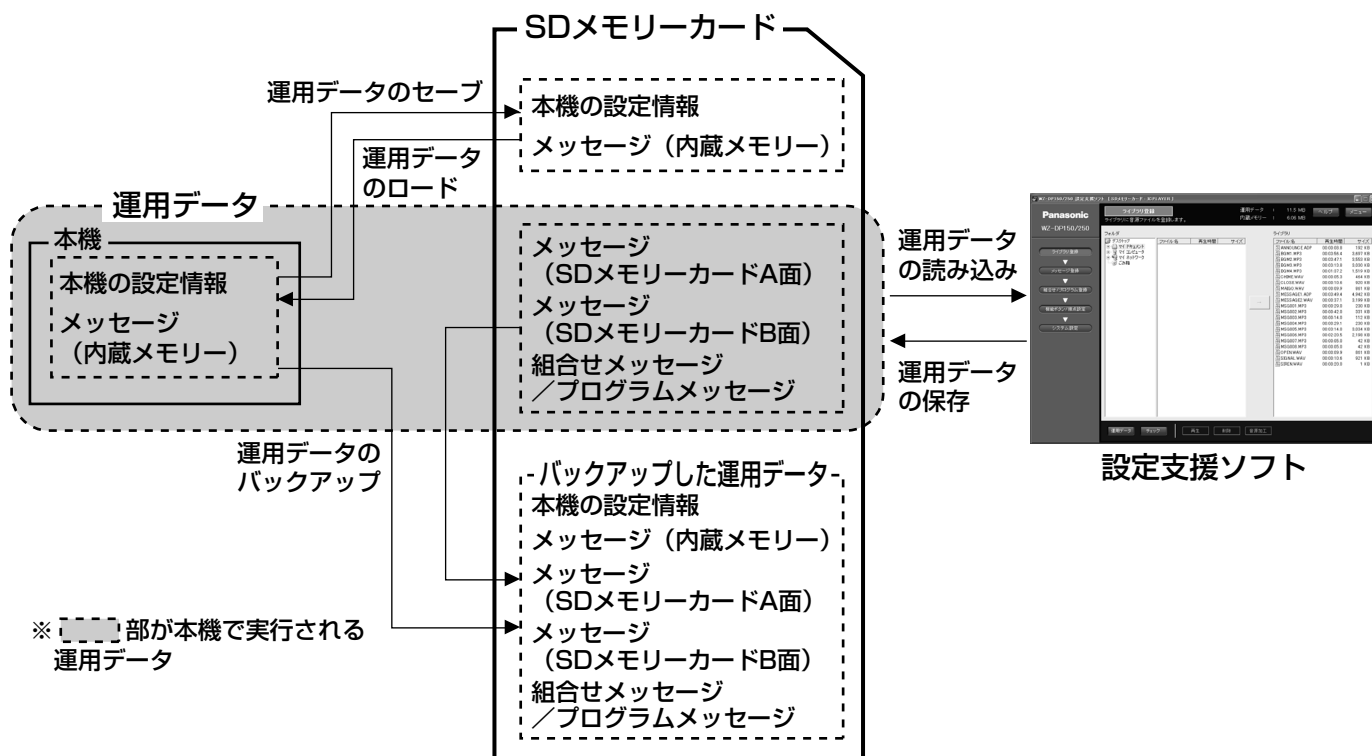
- ・内蔵メモリーには設定情報およびメッセージを合計して最大8 MBまで書き込むことができます。
- ・設定情報が0.5 MB、メッセージ用の音源ファイルは約7.5 MBが目安です。
- ・内蔵メモリーに書き込むデータのデータサイズを正確に確認したい場合は、設定支援ソフトで確認してください。詳細は設定支援ソフト取扱説明書の「設定情報やメッセージの合計サイズの確認方法について」を参照してください。

運用データについて

運用データとは、本機で動作するために必要なデータのことです。システム設定情報やメッセージデータなどを含めて運用データとして扱います。

運用データは、本機内部の設定情報と内蔵メモリーのメッセージ、SDメモリーカード内のメッセージから構成されています。

操作のしかた



■運用データのセーブ

- ・本機の内蔵メモリーに保存された設定情報やメッセージをSDメモリーカードに書き出します。
- ・本機で変更した運用データを設定支援ソフトで編集する場合や、運用データを他のWZ-DP150/250で使用する場合は、必ず「運用データのセーブ」を実施してください。
- ・「運用データのセーブ」の操作方法は、「運用データのセーブのしかた」(78ページ)をお読みください。

■運用データのロード

- ・SDメモリーカードにある設定情報や内蔵メモリー用メッセージを本機の内蔵メモリーに読み込みます。
- ・設定支援ソフトや他のWZ-DP150/250で設定した運用データを使用する場合は、必ず「運用データのロード」を実施してください。
- ・「運用データのロード」の操作方法は、「運用データのロードのしかた」(80ページ)をお読みください。

■運用データのバックアップ

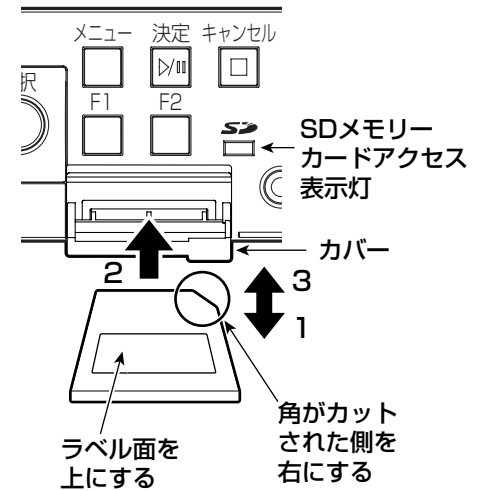
- ・本機で実行中の運用データをSDメモリーカードにバックアップします。
- ・設定支援ソフトを使用すると、バックアップした運用データを再び本機で実行することができます。
- ・「運用データのバックアップ」の操作方法は、「運用データのバックアップのしかた」(79ページ)をお読みください。
- ・本機でバックアップした運用データのリストア方法については、設定支援ソフト取扱説明書の「本体でバックアップした運用データのリストア方法について」をお読みください。

重要 バックアップしたファイルはSDメモリーカード上に保存されるため、バックアップを行うとSDメモリーカードの残り容量は減っていきます。メッセージを保存できる容量も減りますのでご注意ください。

SDメモリーカードの取り扱いについて

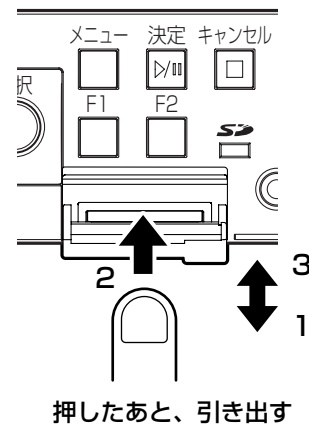
■差し込みのしかた

1. SDメモリーカードのカバーを開ける
本機前面のSDメモリーカードスロットのカバー右上に指をかけ、手前に引いて開けます。
2. SDメモリーカードを差し込む
メモリーカードをSDメモリーカードスロットにまっすぐ差し込み、「カチッ」と音がするまで押します。
3. SDメモリーカードスロットのカバーを閉める
本機前面のSDメモリーカードスロットのカバーをもとに戻します。



■抜き取りのしかた

1. SDメモリーカードスロットのカバーを開ける
本機前面のSDメモリーカードスロットのカバー右上に指をかけ、手前に引いて開けます。
2. SDメモリーカードを抜き取る
SDメモリーカードを「カチッ」と音がするまで押します。そのあとまっすぐに引き出します。
3. SDメモリーカードスロットのカバーを閉める
本機前面のSDメモリーカードスロットのカバーをもとに戻します。



操作のしかた

- 重要**
- SDメモリーカードアクセス表示灯点灯中は、SDメモリーカードの抜き差しをしないでください。正常に動作しなくなったり、データが破壊されることがあります。
 - 誤操作防止のため、SDメモリーカードの抜き差し以外のときは、SDメモリーカードスロットのカバーを閉めて使用してください。

■フォーマットのしかた

以下に本機でフォーマットする場合の手順を説明します。

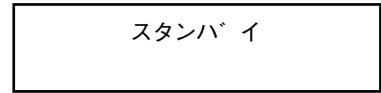
- 重要**
- SDメモリーカードを本機で使用する前に、本機で事前にフォーマットしてください。フォーマットをする
と、本機で使用する運用データも書き込まれます。

1. 本機の電源を入れる
電源スイッチを押して電源を入れてください。起動に約15秒かかります。

(⇒次ページへ続く)

SDメモリーカードの取り扱いについて

2. 液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されることを確認する



3. SDメモリーカードをSDメモリーカードスロットに差し込む

SDメモリーカードのラベル面を上にして、「カチッ」と音がするまで押し込みます。詳しくは、「差し込みのしかた」（前ページ）をお読みください。

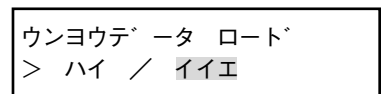


- 書き込み禁止スイッチは解除してください。書き込み禁止スイッチがLOCKの状態の場合、フォーマットすることができません。

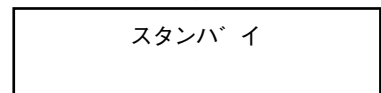
4. 運用データの自動ロードが表示される

[選択] ダイアルを回して、「イエ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

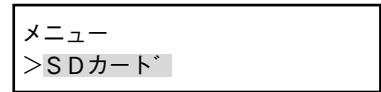
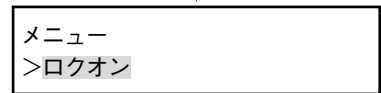
詳しくは、「運用データの自動ロード」（次ページ）をお読みください。



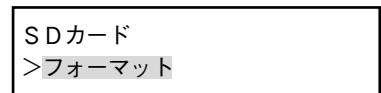
↓ 「イエ」で **決定**



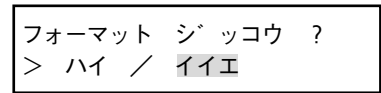
↓ **メニュー**



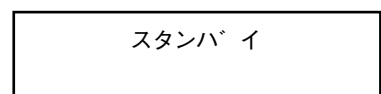
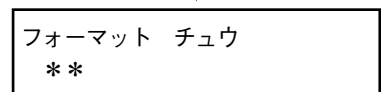
↓ **決定**



↓ **決定**



↓ 「ハイ」で **決定**



5. メニュー画面を表示する

液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されていることを確認して、[メニュー] ボタンを押す、メニュー画面を表示します。

6. 「SDカード」を選択する

[選択] ダイアルを左に1クリック回して「SDカード」を選択し、[決定] ボタンを押します。

7. 「フォーマット」を選択する

[選択] ダイアルを回して「フォーマット」を選択し、[決定] ボタンを押します。

続いて、フォーマット確認画面が表示されたことを確認し、[選択] ダイアルを回して「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。フォーマットを開始すると、液晶ディスプレイが「フォーマットチュウ」と表示されます。

フォーマットが終了すると、フォーマット選択画面に戻ります。



- フォーマットすると、SDメモリーカード内のすべてのデータが失われます。
- フォーマット中はSDメモリーカードを抜かないでください。



- フォーマットは10～20秒で終了します。

8. 「メニュー」を終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

SDメモリーカードの取り扱いについて

■運用データの自動ロード

本機は、「スタンバイ」と表示されている状態か、「SDカードドライブレクダサイ」と表示されている状態で、運用データが入ったSDメモリーカードを挿入すると、本機の運用データを自動的にロードします。

1. SDメモリーカードを挿入する

「差し込みのしかた」(23ページ)をお読みください。

2. 「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押す

右図が表示されます。運用データを自動ロードする場合は、[選択]ダイヤルを回して、「ハイ」を選択したあと、[決定] ボタンを押してください。

運用データをロードしない場合は、「イイエ」を選択したあと、[決定] ボタンを押してください。手順9に進みます。

3. [決定] ボタンを押す

右図が表示されます。内蔵メモリーのメッセージはプロテクトされていますので、運用データを自動ロードする場合は、[決定] ボタンを押してください。

4. 「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押す

内蔵メモリーに運用データを上書きします。[選択]ダイヤルを回して、「ハイ」を選択したあと、[決定] ボタンを押してください。内蔵メモリーに運用データを上書きしない場合は、「イイエ」を選択し、[決定] ボタンを押すか、[キャンセル] ボタンを押してください。運用データのロードは、行われず手順9に進みます。

5. 今まで使用していた運用データをバックアップする

液晶ディスプレイに「マエノデータバックアップ?」と表示されていることを確認してください。

今まで使用していた運用データをバックアップする場合は、[選択]ダイヤルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。手順6に進みます。

今まで使用していた運用データをバックアップしない場合は、[選択]ダイヤルを回して、「イイエ」を選択し、[決定] ボタンを押します。手順8に進みます。



- 自動ロードでバックアップされる運用データは、本機の設定情報と内蔵メモリーのメッセージのみです。SDメモリーカードA面およびB面のメッセージや組合せメッセージ/プログラムメッセージはバックアップされません。

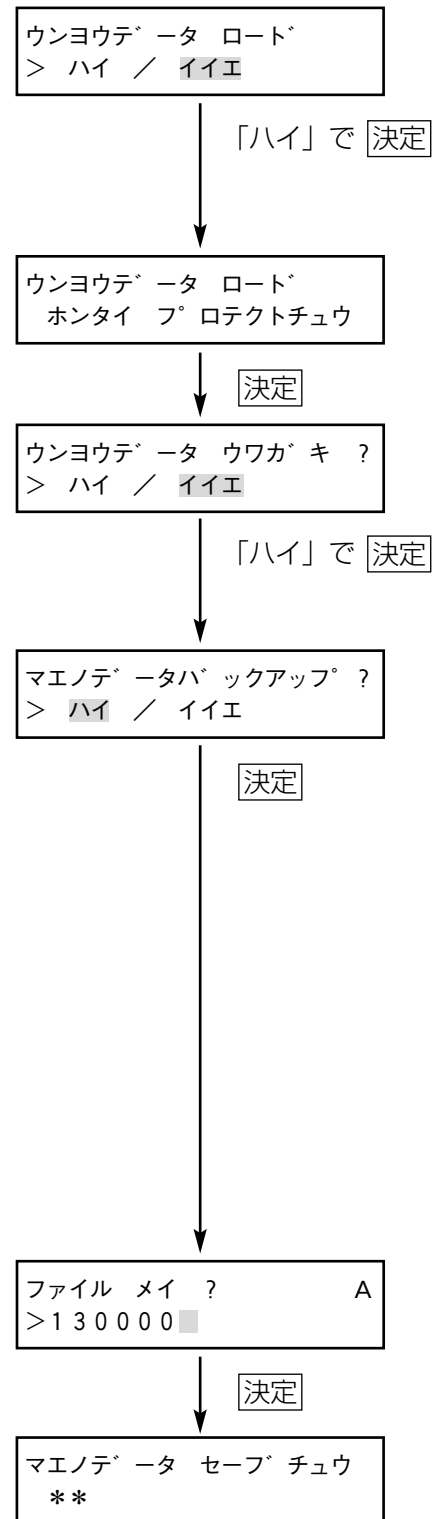
6. 音源データのバックアップファイルを入力する

6文字分の名称候補が表示されます。ファイル名を変えたい場合は、「文字入力」(31ページ)をお読みください。

ファイル名を決定したら、[決定] ボタンを押します。

7. 今まで使用していた運用データのバックアップが開始する

液晶ディスプレイの上段に「マエノデータセーブチュウ」と表示されます。バックアップ中は液晶ディスプレイの下段に「**」が表示され、右に移動します。



(⇒次ページへ続く)

SDメモリーカードの取り扱いについて

8. 運用データのロードが開始する

液晶ディスプレイの上段に「ウンヨウデータ ロードチュウ」と表示されます。運用データのロード中は液晶ディスプレイの下段に「**」が表示され、右に移動します。

ウンヨウデータ ロードチュウ
**

9. 運用データのロードが終了する

運用データのロードが終了すると、液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されます。

スタンバイ

■本機ではじめて使用するSDメモリーカードを挿入したとき

1. SDメモリーカードを挿入する

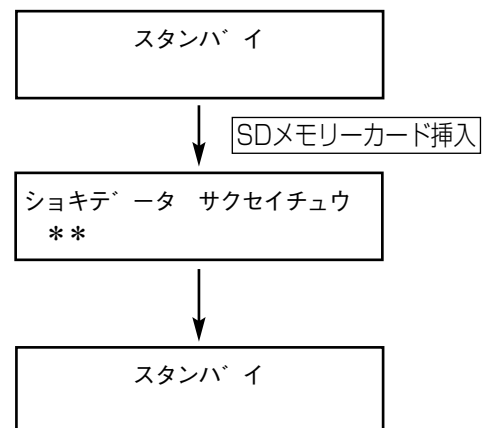
「差し込みのしかた」(23ページ)をお読みください。

2. SDメモリーカード初期データ作成画面が表示される

「ショキデータ サクセイチュウ」と表示されます。初期データ作成中は、液晶ディスプレイの下段に「**」が表示され、右に移動します。

3. SDメモリーカードの初期化が完了する

初期データの作成が完了すると、液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されます。「スタンバイ」画面になると、SDメモリーカードをご使用いただけます。



メッセージの再生のしかた

メッセージの再生のしかたには、次の4つの方法があります。

- ・ 選択ダイヤルを使った再生（本ページ）
- ・ 接点制御入力信号による再生（35ページ）
- ・ 通信接続による再生（43ページ）
- ・ 機能ボタンによる再生（69ページ）

ここでは基本的な再生の方法として、選択ダイヤルを使った再生のしかたについて、説明します。

■選択ダイヤルを使った再生のしかた

1. 液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されていることを確認する

「スタンバイ」以外が表示されているときは、[キャンセル] ボタンを何度か押して「スタンバイ」を表示させてください。

2. [選択] ダイヤルを回し、再生するメッセージ番号を選ぶ

液晶ディスプレイに、選択したメッセージ番号が表示されます。ここでは、内蔵メモリーに保存されているメッセージ番号003を選択します。

保存されているメッセージ領域を変更する場合は、[選択] ダイヤルを押します。詳しくは、「メッセージ領域の切り換え」（17ページ）をお読みください。

3. [決定] ボタンを押す

再生します。液晶ディスプレイには再生しているメッセージ番号、メッセージ領域、再生時間、レベルメータが表示されます。

再生中に、[選択] ダイヤルを押すと、再生残時間が表示されます。再度押すと、再生しているメッセージ名称を表示します。3回押すと、再生時間表示に戻ります。

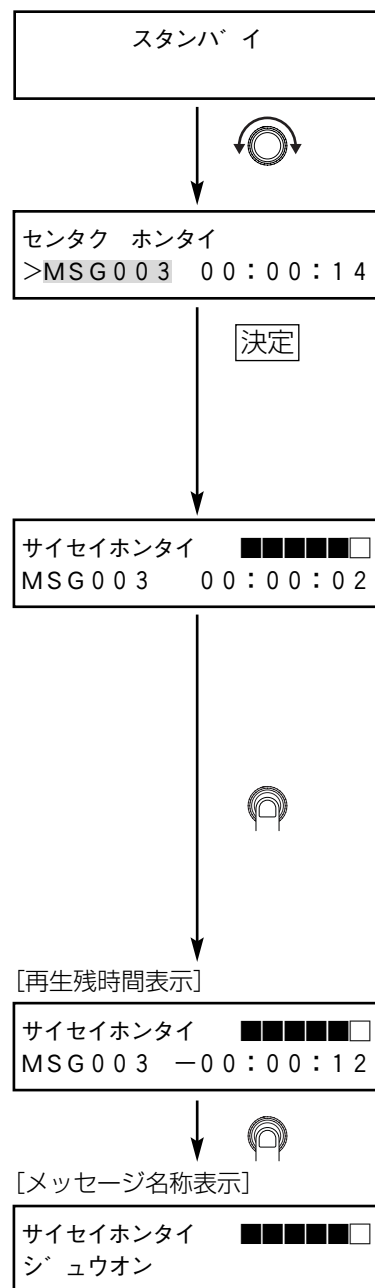
再生中に [決定] ボタンを押すと、一時停止状態になります。再度押すと、一時停止状態が解除されます。再生を途中で停止する場合は [キャンセル] ボタンを押します。

4. [音声出力] の音量を調節する

[音声出力] つまみを回して、音声出力端子から再生する音量を調節します。



- メッセージごとに個別の音量設定ができます。メッセージごとの再生音量のばらつきをおさえるのに便利です。「メッセージ個別の音量調節のしかた（34ページ）」をお読みください。



メッセージの録音のしかた DP250

WZ-DP250では、内蔵メモリーやSDメモリーカードにメッセージを録音することができます。内蔵メモリーに録音する場合、工場出荷時の録音空き容量はほとんどありません。内蔵メモリーの録音空き容量を増やす場合は、「内蔵メモリーの録音空き容量を増やす方法」(82ページ)をご覧ください。

1. メニュー画面を表示する

液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されていることを確認し、[メニュー] ボタンを押します。

2. [決定] ボタンを押す

[選択] ダイアルを回して、「ロクオン」と表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。

3. 録音するメッセージ番号を選ぶ

[選択] ダイアルを回して、録音するメッセージ番号を選択し、[決定] ボタンを押します。



- すでに録音されているメッセージを選ぶと、メッセージ番号の後ろにメッセージ録音時間が表示されます。
- 保護されているメッセージを選択すると、液晶ディスプレイに「プロテクト」と表示されます。[キャンセル] ボタンを押してください。
- [選択] ダイアルを押すと、録音先（内蔵メモリー／SDメモリーカード）の切り換えができます。

4. 音声の入力端子を選択する

[選択] ダイアルを回して、「ニューリョク2」／「ミキシング」／「ニューリョク1」を選択し、[決定] ボタンを押します。



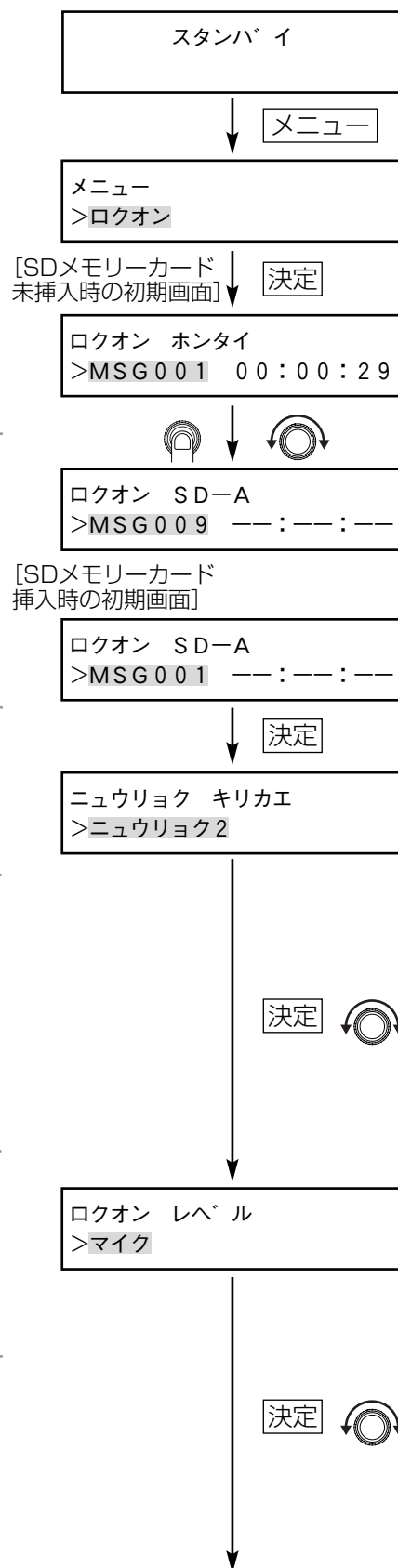
- 「ニューリョク2」を選択すると、音声入力2に接続された音楽やアナウンスを録音できます。
- 「ニューリョク1」を選択すると、音声入力1に接続された音楽やアナウンスを録音できます。
- 「ミキシング」を選択すると、音声入力1と音声入力2に接続された音楽やアナウンスをミキシングして録音できます。

5. 録音レベルを選択する

音声入力2端子にマイクを接続した場合は、「マイク」を選択します。CDなどの音響機器を接続した場合は、「ライン」を選択します。



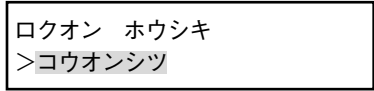
- 接続機器にあわせて、録音レベルを選択してください。録音レベルの選択を間違えた場合は、極端に大きな音や極端に小さな音が録音されます。
- 入力切り換え画面で、ニューリョク1を選択した場合は、録音レベル選択画面は表示されません。
- ミキシング放送のしかた(46ページ)で音声入力2のレベル変更をする場合でも、必ず手順7まで操作してください。手順7で変更内容が確定します。



6. 録音方式を選択する

[選択] ダイアルを回して、録音方式を選択します。
 選択後、[決定] ボタンを押してください。

本機には、3種類の録音方式があります。用途やSDメモリーカード／内蔵メモリーの容量によって、録音方式を選択します。同じ音声でも、録音方式によって音源データの容量が異なります。次表は録音方式ごとに録音可能な参考時間を示したものです。録音方式を選択する場合の目安としてご参照ください。



表示	録音方式	録音総時間		
		SDメモリーカード (1 GB当り)	内蔵メモリー (メッセージをすべて削除した場合)	内蔵メモリー (工場出荷時)
コウオンシツ	高音質	約3.3時間	約1.5分	約20秒
ヒョウジュン	標準	約13時間	約6分	約1.5分
エコノミー	エコノミー	約19時間	約9分	約2分



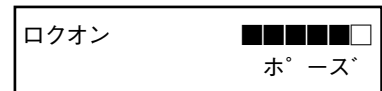
- 1メッセージの最大録音時間は、30分です。
- 録音した音源を加工したり流用したりする場合は、高音質（非圧縮）モードの使用をおすすめします。

7. 音声入力レベルの調節をする

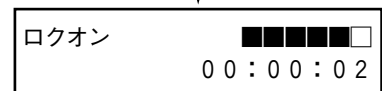
液晶ディスプレイ右下に「ポーズ」と表示されていることを確認して、[音声入力1]、[音声入力2] つまみで、適切な音量に調節してください。音が歪んでいる場合、液晶ディスプレイ右上のレベルメーターに□が表示されます。



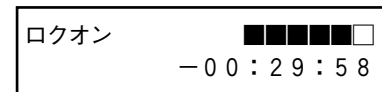
- 入力2から録音する場合で、入力2つまみを右に回しきってもレベルメーターがほとんど振れない場合や、左に回しきってもレベルメーターの右端に□が表示される場合は、録音レベルの選択が間違っている可能性があります。キャンセルボタンを2回押すと、手順5の「録音レベルの選択」に戻れますので、設定を確認してください。
- ラインレベル／マイクレベルの切り換えは、この画面で確定します。ミキシング放送のしかた(46ページ)で音声入力2のレベル変更をする場合も、この画面まで操作したあと、[キャンセル]ボタンを何回か押して、「スタンバイ」を表示させてください。



[決定]



[録音残時間表示]



[キャンセル]

8. 録音を開始する

[決定] ボタンを押すと、録音を開始します。



- [選択] ダイアルを押すと録音残時間が表示されます。
- 録音中に録音残時間およびSDメモリーカードや内蔵メモリーの残容量がなくなると、自動的に録音を停止します。
- 録音中は、モニター端子からのみ音声が出力されます。音声出力端子からは出力されません。また、動作中出力から信号は出力されません。

9. 録音を停止する

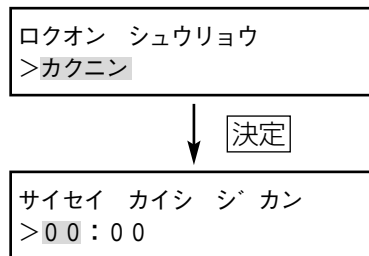
[キャンセル] ボタンを押すと、録音を停止します。

■録音後の操作

10. 録音した音声を試聴確認する

「カクニン」と表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押すと、録音した音声をモニター出力端子から確認できます。「サイセイ カイシ ジカン」と表示されていることを確認して、再生したい開始時間を選択します。[決定] ボタンを押すと、録音した音声再生されます。

確認後、保存するときは手順11に、削除するときは手順12に進みます。

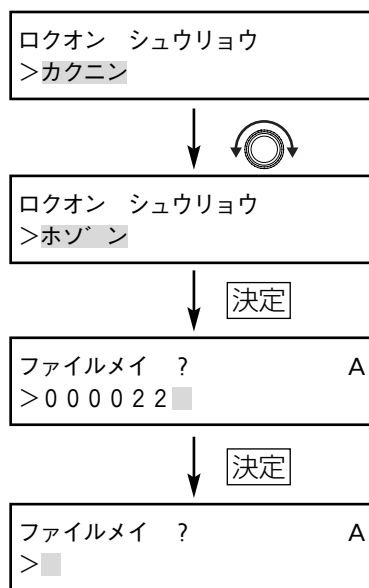


11. 録音した音声を保存する

[選択] ダイアルで「ホゾン」を選択し、[決定] ボタンを押すと、メッセージとして保存します。

メッセージとして保存する場合、ファイル名（8文字まで）を入力し、[決定] ボタンを押します。次に、メッセージ名（15文字まで）を入力し、[決定] ボタンを押します。文字入力の方法については、31ページをお読みください。

ファイル名は、自動で6けたの数字がつきます。本機で使用される場合は、そのまま [決定] ボタンを押してください。設定支援ソフトで運用データを管理するときは、お好みのファイル名に変更してください。なお、ファイル名に使用できる文字は、英大文字と数字の組合せです。



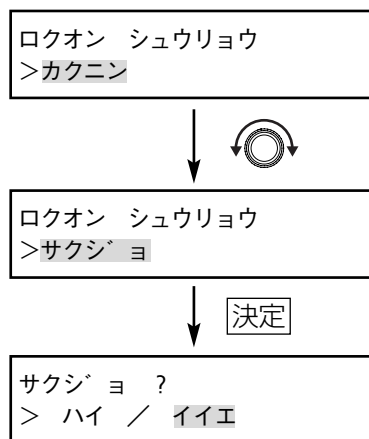
- すでに同じファイル名が存在する場合は、上書きするかを確認する画面が表示されます。
- ファイル名を上書きした場合、複数のメッセージ番号で、同じメッセージを再生します。たとえば、メッセージ番号001に録音していたファイル名と新規に作成したメッセージ番号040のファイル名を同じにした場合は、メッセージ番号001のメッセージは、メッセージ番号040のメッセージに書き替わります。

12. 録音した音声を削除する

音声レベルに問題があった場合など、録音した内容を削除できます。

[選択] ダイアルで「サクジョ」を選択し、[決定] ボタンを押すと削除確認画面が表示されます。

削除画面で [選択] ダイアルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。



13. 録音メニューを終了する

録音作業が終了したら、[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

■文字入力のしかた

本機では、録音したメッセージを登録するときや運用データをSDメモリーカードに保存する場合、文字入力ができます。

「メッセージの録音のしかた」(28ページ)、「メッセージ名の編集のしかた」(49ページ)、「運用データのバックアップのしかた」(79ページ)、「運用データのロードのしかた」(80ページ)もあわせてお読みください。

1. 入力文字種を変更する

[メニュー] ボタンを押して、文字種を選びます。押すたびに、英大文字→英小文字→記号→数字→カタカナ→英大文字の順に切り換わります。

選択している文字種は、液晶ディスプレイ右上に表示されます。



- ファイル名入力画面では、英大文字と数字のみ入力可能です。

■入力できる文字の一覧表

表示は、液晶ディスプレイの右上に表示される文字

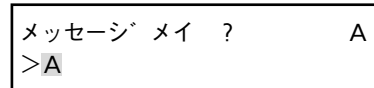
表示	文字の種類	入力可能文字種									
A	英大文字	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
		K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
		U	V	W	X	Y	Z				
a	英小文字	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j
		k	l	m	n	o	p	q	r	s	t
		u	v	w	x	y	z				
!	記号	!	"	#	\$	%	&	'	()	*
		+	,	-	.	/	:	;	<	=	>
		?	@	_	空白						
1	数字	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
ア	カタカナ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ
		サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
		ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
		マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ
		ル	レ	ロ	ワ	ヲ	ン				
		ア	イ	ウ	エ	オ	ヤ	ユ	ヨ	ツ	
		空白	-	°	゛						

操作のしかた

2. 文字を選択する

[選択] ダイヤルを回して、文字を選びます。1文字空白を入れるには、「入力できる文字の一覧表」の空白を選択します。

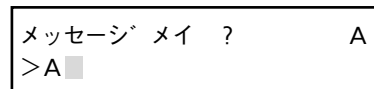
選択中の文字は点滅表示されます。



3. 文字を入力する

[選択] ダイヤルを押して、文字を入力します。

[選択] ダイヤルを押さずに、[決定] ボタンを押すと、文字入力は反映されません。



4. 文字を削除する

点滅中の文字を削除する場合は、[キャンセル] ボタンを押します。



- 文字入力の前の画面に戻るときは、[キャンセル] ボタンを押して、文字をすべて消したあと、[キャンセル] ボタンを押してください。入力内容は取り消されて、前の画面に戻ります。

(⇒次ページへ続く)

5. 文字入力を終了する

[決定] ボタンを押します。



- 濁点、半濁点は、表記可能なカタカナの後ろにだけ入力できます。濁点は、力行、サ行、タ行、八行のみ入力できます。半濁点は八行のみ入力できます。

メッセージの確認のしかた

保存しているメッセージ内容をモニター出力で試聴できます。モニター出力端子には、ヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーを接続します。

SDメモリーカードA面のメッセージ番号003を試聴する場合について説明します。

- 本機能では、モニター出力端子にメッセージが出力されます。音声出力端子には、メッセージは出力されません。また、動作中出力端子から信号は出力されません。
- ミキシング放送（46ページ）の設定で、メッセージ優先、音声入力1優先、優先設定なしに設定し、音声入力1端子より音声を入力すると、音声入力1の音声がミキシングされ出力されます。

■メッセージの試聴

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. モニター画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、モニター画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. [決定] ボタンを押す

モニター画面が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

4. 試聴するメッセージ番号を選択する

SDメモリーカードA面のメッセージ番号003を選択します。
[選択] ダイアルを回して、「MSG003」を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 再生開始時間を選択する

先頭から再生する場合は、[決定] ボタンを押します。

6. [モニター出力] つまみを調節する

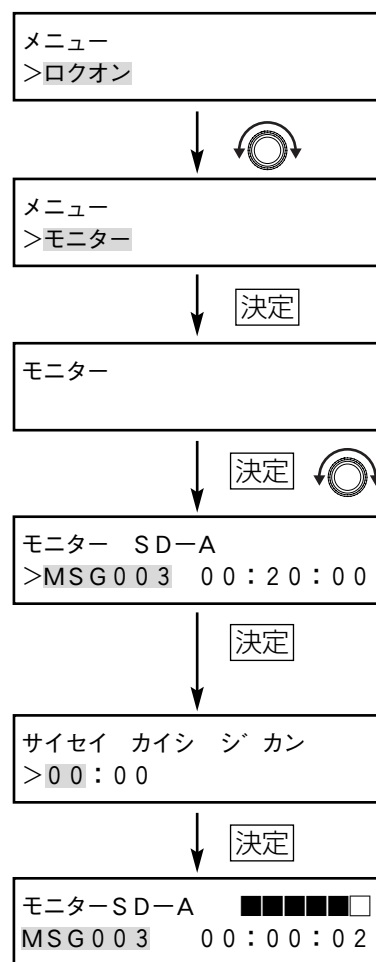
モニター出力端子に接続したヘッドホンやアンプ内蔵スピーカーから、メッセージが再生されます。[モニター出力] つまみを調節し、適切な音量レベルに設定してください。



- アンプ内蔵スピーカーやヘッドホンをお使いの場合、耳を傷めないようにモニター出力つまみで音量を適切に調節してお使いください。



- [選択] ダイアルを1回押すと、再生残時間が表示されます。再度押すと、メッセージ名称が表示されます。続いて[選択] ダイアルを押すと再生時間に戻ります。



(⇒次ページへ続く)

メッセージの確認のしかた

7. 試聴を終了する

試聴中に、[キャンセル] ボタンを押すと、試聴を終了します。または、試聴しているメッセージを最後まで再生すると、試聴を終了します。試聴を終了すると、手順4のメッセージ選択画面に戻ります。

8. メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- モニターに設定して、機能ボタンを押すと、機能ボタンに割り当てられたメッセージを試聴できます。同様に、接点制御入力や通信接続によるメッセージを試聴できます。

■メッセージの途中から試聴する場合

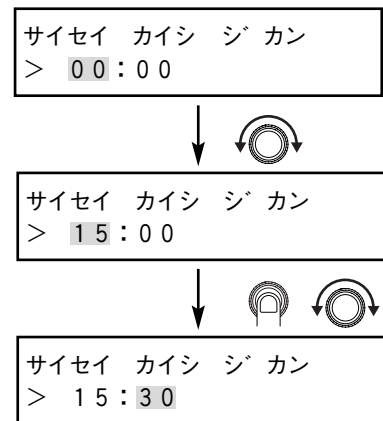
長時間のメッセージを試聴する場合、すべてを試聴せず、好きなところから試聴できます。ここでは、SDメモリーカードA面のメッセージ番号003を15分30秒から試聴する場合について説明します。手順1~4は「メッセージの試聴」(33ページ)と同じ操作になります。

5. 再生開始する時間を選択する

15分30秒から試聴する場合、[選択] ダイアルを回して、「15」を選択し、[選択]ダイアルを1回押します。続いて、[選択]ダイアルを回して、「30」を選択し、[決定]ボタンを押します。以上の操作で、15分30秒からメッセージを試聴します。



- 再生開始時間の選択領域は、[選択] ダイアルを押すと、分→秒の順に切り換わります。



■メッセージ個別の音量調節のしかた

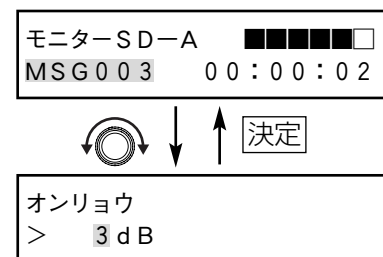
保存されているメッセージの再生音量を個別に調節できます。メッセージの音量ばらつきをおさえたり、特定のメッセージの音量を上げて再生するのに便利です。音量調節は、モニター機能で、音量を確認しながら行います。手順1~5は「メッセージの試聴」(33ページ)と同じ操作になります。

6. メッセージの音量を調節する

メッセージを試聴しながら [選択] ダイアルを回して、音量を調節し、[決定] ボタンを押します。[キャンセル] ボタンを押すと、「メッセージの試聴」(33ページ) 手順6の画面に戻ります。



- 音量の調節可能範囲は、-18 dB~+18 dBです。1 dB単位で調節できます。
- この設定で調節した音量は、通常のメッセージ再生時にも反映されます。
- メッセージの試聴中に、機能ボタン、通信接続、接点制御入力によって再生が始まった場合にも、モニター出力から音声が出力されますが、このときは音量調節はできません。



タイマーを使った再生のしかた

本機は、外部のタイマーで制御することによって、特定の時間にメッセージを再生できます。タイマーでの制御方法には、接点制御入力による方法と、RS-232Cを使った通信接続による方法があります。いずれも、後面の端子を制御することによって行います。

接点制御入力信号による再生

接点制御入力による再生では、本機の液晶ディスプレイで7種類のメッセージ指定方式を選択できます。

■制御入力端子とメッセージ再生動作の詳細（40ページ）、各部のなまえと働き（後面パネル）（87ページ）もあわせてお読みください。

	主な機能	メッセージ指定方式
ダイレクト、パルス 共通機能	<ul style="list-style-type: none"> 再生したいメッセージと接点制御入力端子を1対1で割り当てます。（以降、割り当てられた接点制御入力端子をメッセージ指定用接点と呼びます） 接点制御入力端子をメイク（ON）することにより、割り当てられたメッセージが再生されます。 	
ダイレクト 共通機能	<ul style="list-style-type: none"> メッセージの再生は、メッセージ指定用接点がメイクされた時点で始まります。 メッセージの再生中にメイクが解除されると、メッセージの最後まで再生して終了します。 	
スタート、ストップ制御なし	<ul style="list-style-type: none"> 接点制御入力端子の1～12をメッセージ指定用に使います。12個のメッセージが指定できます。 	「ダイレクト」
スタート、ストップ制御あり	<ul style="list-style-type: none"> 接点制御入力端子の1～10をメッセージ指定用に、11をスタート端子に、12をストップ端子に使います。10個のメッセージが指定できます。 再生中にスタート端子をメイクすると、すぐに、その時点で指定されているメッセージの再生を開始します。 再生中にストップ端子をメイクすると、メッセージを停止できます。 	「ダイレクト + スタート」
ダイレクト・フェードアウト終了 共通機能	<ul style="list-style-type: none"> メッセージの再生は、メッセージ指定用接点がメイクされた時点で始まります。 メッセージの再生中にメイクが解除されると、すぐにフェードアウトして再生を終了します。 	
スタート、ストップ制御なし	<ul style="list-style-type: none"> 接点制御入力端子の1～12をメッセージ指定用に使います。12個のメッセージが指定できます。 	「ダイレクトF. O.」
スタート、ストップあり	<ul style="list-style-type: none"> 接点制御入力端子の1～10をメッセージ指定用に、11をスタート端子に、12をストップ端子に使います。10個のメッセージが指定できます。 再生中にスタート端子をメイクすると、すぐに、その時点で指定されているメッセージの再生を開始します。 再生中にストップ端子をメイクすると、メッセージを停止できます。 	「ダイレクトF. O. + スタート」
パルス 共通機能	<ul style="list-style-type: none"> メッセージ指定用接点をパルス状にメイクすることにより、メッセージが再生できます。 	
スタート、ストップ制御なし	<ul style="list-style-type: none"> 接点制御入力端子の1～12をメッセージ指定用に使います。12個のメッセージが指定できます。 メッセージの再生は、メッセージ指定用の接点制御入力端子がメイクされた時点で始まります。 	「パルス」
スタート、ストップ制御あり	<ul style="list-style-type: none"> 接点制御入力端子の1～10をメッセージ指定用に、11をスタート端子に、12をストップ端子に使います。10個のメッセージが指定できます。 メッセージの再生は、スタート端子がメイクされた時点でのメッセージ指定用接点の状態にしたがって始まります。 ストップ端子をメイクすると、再生中のメッセージを停止できます。 	「パルス + スタート」
バイナリー	<ul style="list-style-type: none"> 再生するメッセージの指定を2進数で行います。 接点制御入力端子の1～7をメッセージ指定用に、8～9をメッセージの領域指定に、11をスタート端子に、12をストップ端子に使います。各領域で127個のメッセージが指定できます。 メッセージの再生は、スタート端子がメイクされた時点での端子1～9の状態にしたがって始まります。 ストップ端子をメイクすると、再生中のメッセージを停止できます。 	「バイナリ + スタート」

タイマーを使った再生のしかた

■メッセージ指定方式の設定のしかた

ここでは、「パルス」の設定方法を例に説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. システム設定画面を選択する

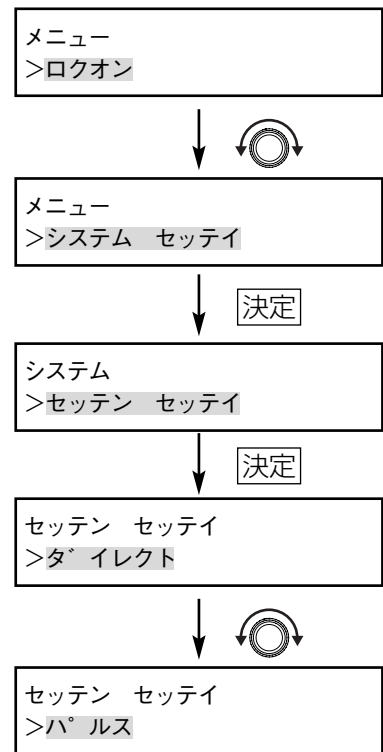
[選択] ダイヤルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 接点設定画面を選択する

「セッテン セッテイ」と表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

4. 接点制御入力の動作モードを「パルス」に設定する

[選択] ダイヤルを回して、「パルス」を表示します。続いて [決定] ボタンを押します。



5. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



● 優先順位について

本機では、放送イベントについて、以下のような優先順位を持ちます。

① 通信接続による制御、前面パネルからの操作

通信接続による制御と前面パネルからの操作は、あとから操作したものが有効となります。

② 接点制御入力「1」～「12」への入力

・ 同時に入力された場合の優先順位は、番号の小さい順になります。

・ 「ダイレクト」、「ダイレクト+スタート」、「ダイレクトF.O.」、「ダイレクトF.O.+スタート」設定において、接点制御入力による再生が終了した時点で、複数の接点制御入力が入力されていた場合は、以下の接点制御入力端子の優先順位にしたがい、動作します。

「1」→「2」→「3」→「4」→「5」→「6」→「7」→「8」→「9」→「10」→「11」→「12」→「1」

タイマーを使った再生のしかた

■再生のしかた

「パルス」方式で以下の内容の再生を行う場合を例に説明します。

再生スケジュール

10:00:00 メッセージ3 (SDメモリーカード A面)
12:00:00 メッセージ2 (SDメモリーカード B面)
15:00:00 メッセージ5 (内蔵メモリー)

接続

タイマーの出力端子	本機への接続と、メッセージの割り当て	
	入力端子	割り当てるメッセージ
1	9	メッセージ3 (SDメモリーカード A面)
2	10	メッセージ2 (SDメモリーカード B面)
3	11	メッセージ5 (内蔵メモリー)

操作のしかた

●タイマーのプログラム設定

出力端子の制御を、以下のようにプログラムします。プログラムの方法については、タイマーの取扱説明書をお読みください。

時刻	出力の制御
10:00:00	出力端子9 ON (メイク)
10:00:01	出力端子9 OFF
12:00:00	出力端子10 ON (メイク)
12:00:01	出力端子10 OFF
15:00:00	出力端子11 ON (メイク)
15:00:01	出力端子11 OFF



- 「パルス」の場合は、本機の入力端子をメイクする期間は、500 ms以上であれば、メッセージの長さに関係なく指定できます。この例では1秒にしています。

●本機での、メッセージと接点制御入力端子の割り当て

メッセージ指定方式で、「バイナリ+スタート」以外を選択したときには、メッセージと接点制御入力端子の割り当てを設定する必要があります。

工場出荷時には、接点制御入力端子1～8が、それぞれメッセージの1～8に割り当てられています。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

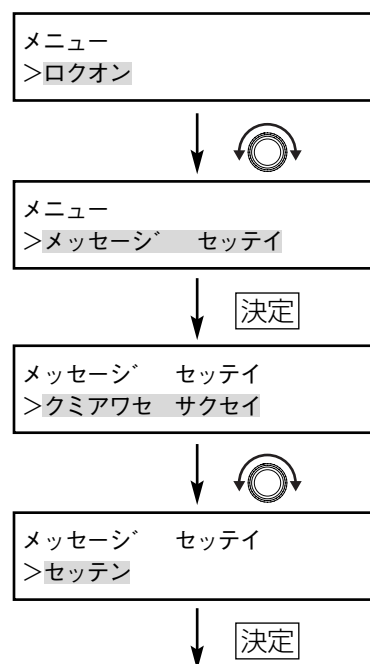
[選択] ダイヤルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 接点画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、接点画面を選択し、[決定] ボタンを押します。



- 工場出荷時、接点制御入力端子1～8は内蔵メモリーのメッセージ (21ページ) を割り当てています。
- 本機の接点制御入力に「バイナリ+スタート」に設定されている場合、「セッテイ デキマセン」と表示されます。[キャンセル] ボタンを押すと、接点画面に戻ります。



(⇒次ページへ続く)

タイマーを使った再生のしかた

4. 設定する接点制御入力端子番号を選択する

接点制御入力端子9を選択します。

[選択] ダイアルを回して、「セッテン9」を選択し、[決定] ボタンを押します。



- 本機の接点制御入力が「ダイレクト+スタート」、「ダイレクト F. O. +スタート」、「パルス+スタート」に設定されている場合は、接点番号11、12を設定できません。

5. 割り当てるメッセージ番号を選択する

SDメモリーカードA面のメッセージ番号003を割り当てます。

[選択] ダイアルを2回押します。続いて [選択] ダイアルを回して、「MSG003」を選択し、[決定] ボタンを押します。

6. 設定する接点制御入力端子番号を選択する

接点制御入力端子10を選択します。

「セッテン9」が表示されていることを確認し、[選択] ダイアルを回して、「セッテン10」を選択し、[決定] ボタンを押します。



- 一度設定した接点制御入力を解除するには、[選択] ダイアルを押して「セッテイナシ」を呼び出し、[決定] ボタンを押します。

7. 割り当てるメッセージ番号を選択する

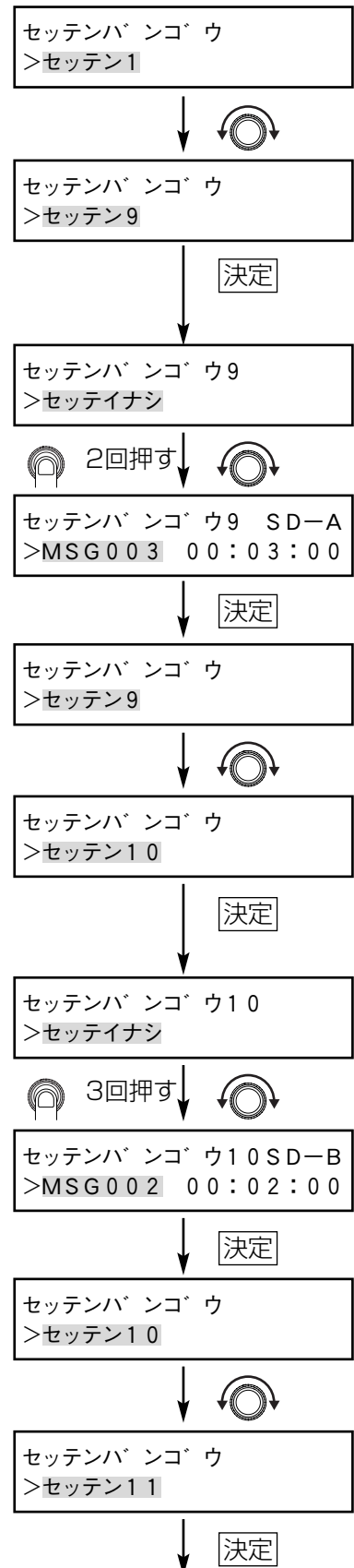
SDメモリーカードB面のメッセージ番号002を割り当てます。

[選択] ダイアルを3回押します。続いて [選択] ダイアルを回して、「MSG002」を選択し、[決定] ボタンを押します。

8. 設定する接点制御入力端子番号を選択する

接点制御入力端子11を選択します。

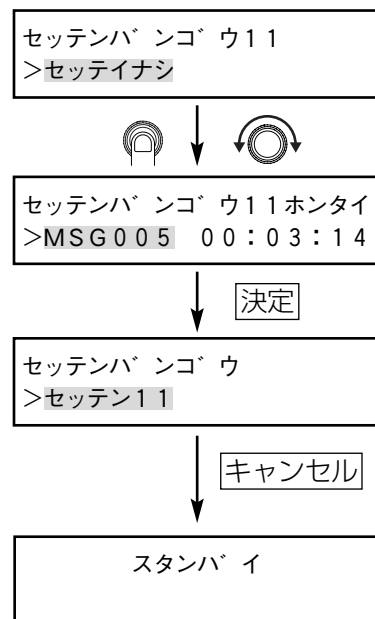
「セッテン10」が表示されていることを確認し、[選択] ダイアルを回して、「セッテン11」を選択し、[決定] ボタンを押します。



タイマーを使った再生のしかた

9. 割り当てるメッセージ番号を選択する

内蔵メモリーのメッセージ番号005を割り当てます。
[選択] ダイヤルを1回押します。続いて [選択] ダイヤルを回して、「MSG005」を選択し、[決定] ボタンを押します。

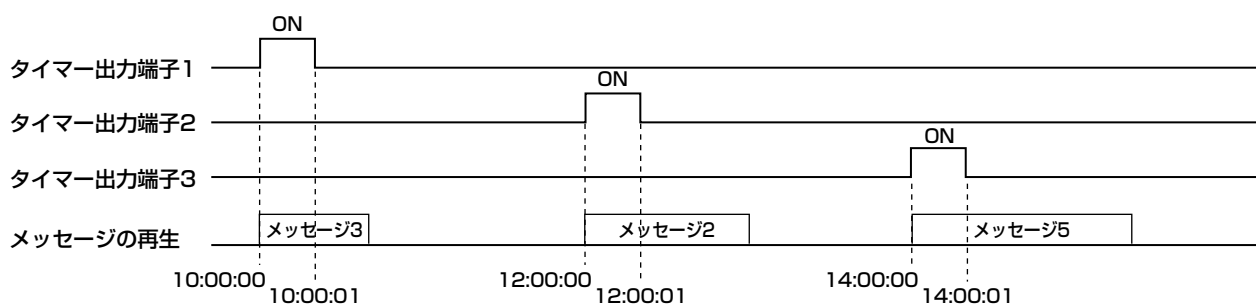


10. メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

●メッセージの再生

ここまでの設定によって、以下のように、タイマーでプログラムした時刻にメッセージが再生されます。

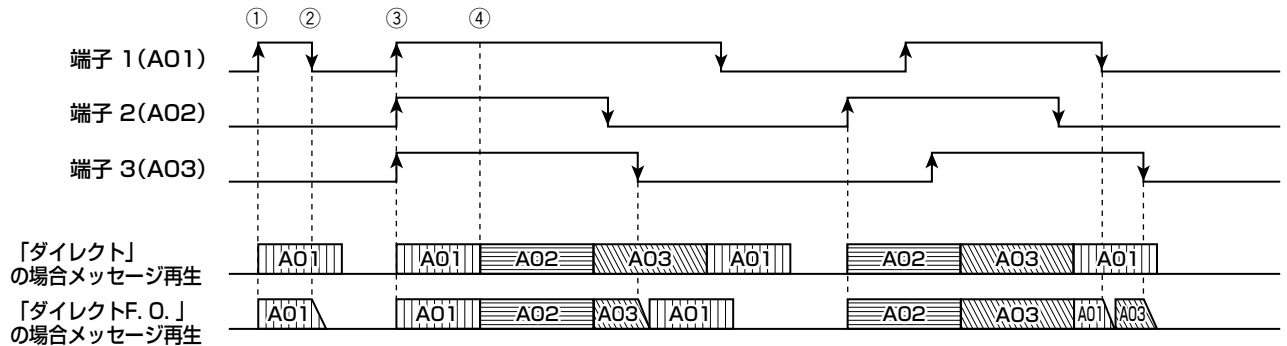


タイマーを使った再生のしかた

■制御入力端子とメッセージ再生動作の詳細

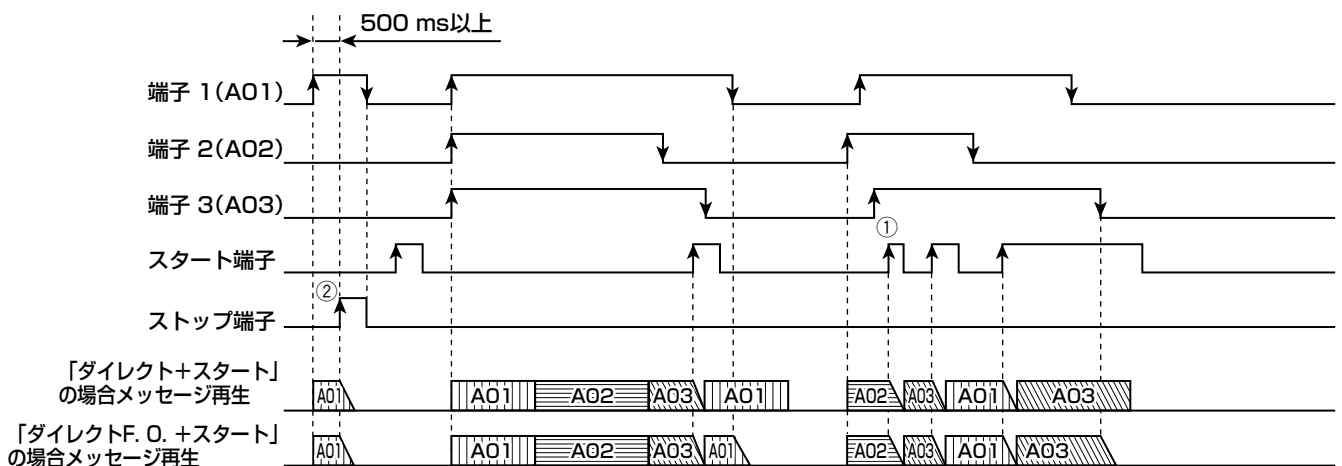
制御入力端子とメッセージ再生動作の関係について、接点制御入力端子1にメッセージ“A01”、接点制御入力端子2にメッセージ“A02”、接点制御入力端子3にメッセージ“A03”が割り当てられている場合を例に説明します。

●「ダイレクト」「ダイレクトF. O.」の場合



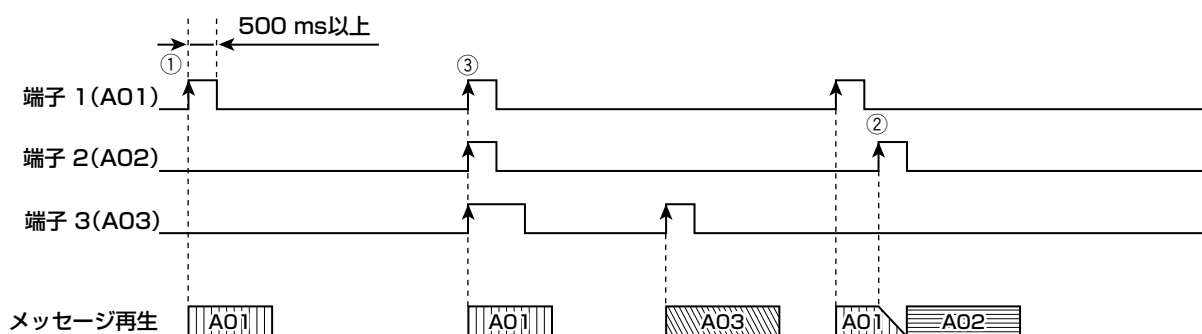
- ・メッセージに割り当てた接点制御入力端子をメイク（ON）することにより、メッセージ再生が始まります。（①）
- ・再生開始後、接点制御入力端子のメイクを解除すると（②）、「ダイレクト」の場合は再生中のメッセージをメッセージの最後まで再生して終了します。組合せメッセージの場合は、再生しているメッセージの最後まで再生して終了します。「ダイレクトF. O.」では再生中にメッセージ指定の端子のメイクが解除されると再生中のメッセージをフェードアウトしてすぐに終了します。フェードアウト時間は工場出荷時は0秒です。変更する場合は「フェードアウト時間の設定のしかた」（68ページ）をお読みください。
- ・複数のメッセージ指定用端子を同時にメイクしたときには（③）、端子の優先順位にしたがって再生が始まります。その場合、メッセージの放送が終了したときには、③の時点でメイクされていた端子のうち優先順位の高いものを再生します（④）。ただしこのときメイクが解除されていた場合は再生しません。

●「ダイレクト+スタート」「ダイレクトF. O. +スタート」の場合



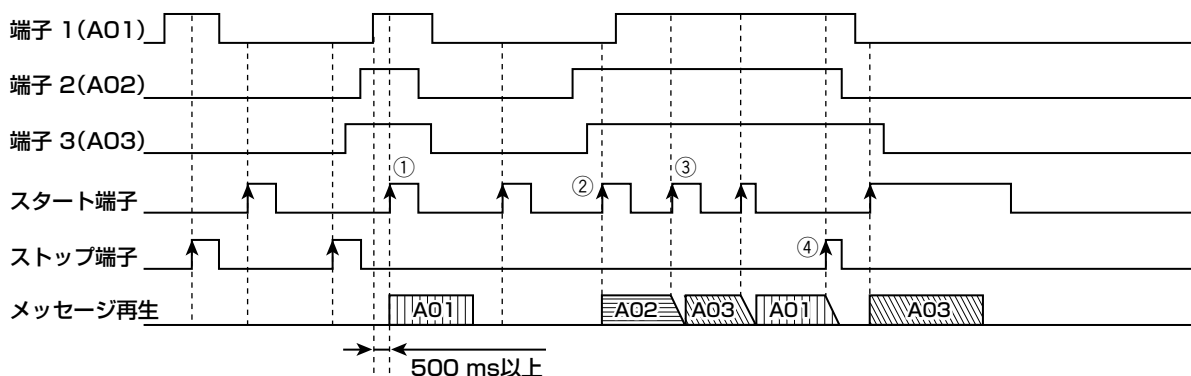
- ・スタート端子、ストップ端子を除く動作は、「ダイレクト」「ダイレクトF. O.」と同じです。
- ・あるメッセージの再生中にスタート端子をメイクすると（①）、再生中のメッセージを終了し、その時点でメイクされているメッセージ指定用端子の状態を見て、次に優先度の高いメッセージを再生します。次の優先度のメッセージが存在しない場合は再生を終了します。
なおメッセージ指定用端子のメイク状態は、スタート端子をメイクする500 ms前には確定させてください。
- ・あるメッセージの再生中にストップ端子をメイクすると（②）、再生中のメッセージを終了します。

● 「パルス」 の場合



- ・メッセージに割り当てた接点制御入力端子をパルス状にメイク (ON) することにより (①)、メッセージが再生できます。パルス幅は500 ms以上必要です。
- ・あるメッセージを再生中に別のメッセージ指定用端子をメイクすると (②)、再生中のメッセージはフェードアウトして終了し、指定したメッセージを再生します。フェードアウト時間は工場出荷時は0秒です。変更する場合は「フェードアウト時間の設定のしかた」(68ページ)をお読みください。
- ・複数のメッセージ指定用端子に同時にパルス信号を入力すると (③)、端子の優先順位にしたがってメッセージを再生します。
- ・再生回数を無限回に設定したメッセージを再生する場合、前面パネルの [停止] ボタン以外では停止できませんのでご注意ください。
- ・端子にプログラムメッセージを割り当てた場合、端子に信号が入力されるたびに、次のステップを再生します。

● 「パルス+スタート」 の場合



- ・スタート端子をメイクすると (①)、その時点のメッセージ指定用端子の状態に応じて、メッセージを再生します。メッセージ指定用端子をメイクしただけでは再生を開始しない点が、「ダイレクト+スタート」の動作と異なります。なおメッセージ指定用端子のメイク状態は、スタート端子をメイクする500 ms前には確定させてください。
- ・スタート端子に信号が入力されたとき、複数の端子に信号が入力されていると (②)、端子の優先順位にしたがって割り当てられたメッセージを再生します。
- ・あるメッセージの再生中にスタート端子がメイクされると (③)、再生中のメッセージはフェードアウトして終了し、そのあと、次の優先度のメッセージを再生します。フェードアウト時間は、工場出荷時は0秒です。変更する場合は「フェードアウト時間の設定のしかた」(68ページ)をお読みください。
- ・再生中にストップ端子がメイクされると (④)、再生中のメッセージは停止します。
- ・プログラムメッセージを割り当てた場合、スタートパルス信号が入力されるごとに、次のステップを再生します。

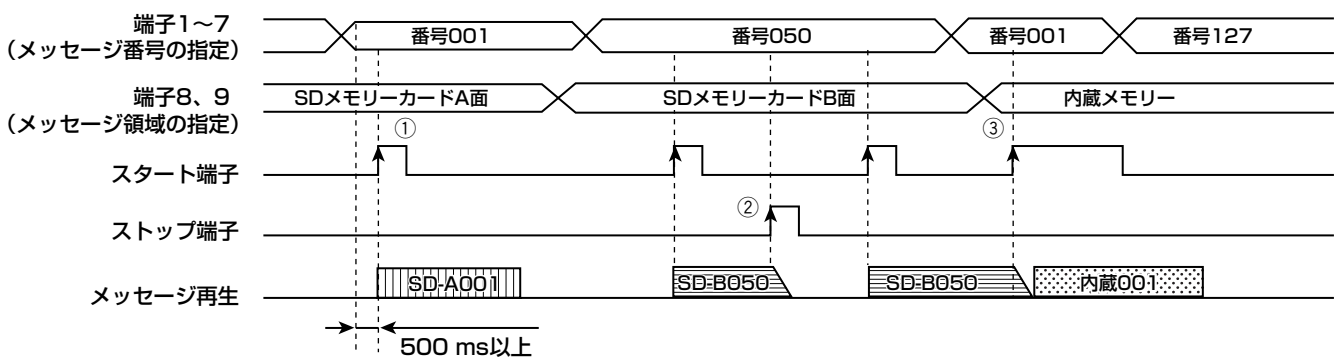
タイマーを使った再生のしかた

● 「バイナリ+スタート」 の場合

- ・ 接点制御入力端子1～7によってメッセージ番号を2進数で指定し、端子8、9をメッセージ領域の指定に、端子11をスタート端子に、端子12をストップ端子に使用します。各領域で127個のメッセージが指定できます。
- ・ メッセージ番号の指定、メッセージ領域の指定のしかたは、次のページの "バイナリーでのメッセージ番号の指定表"、"バイナリーでのメッセージ領域の指定表"をご覧ください。

たとえば、SDメモリーカードA面のメッセージ番号035を指定する場合は、

- (1) メッセージ番号035は、"バイナリーでのメッセージ番号の指定表 (43ページ)"では、"-6---21"となっています。端子6、2、1をメイクしてください。
- (2) SDメモリーカードA面は、"バイナリーでのメッセージ領域の指定表 (43ページ)"では、"-8"となっています。端子8をメイクしてください。



- ・ 端子1～7でメッセージ番号を、端子8～9でメッセージ領域の指定をしたあとにスタート端子をメイクすると (①)、メッセージを再生します。端子1～7、8～9のメイク状態は、スタート端子をメイクする500 ms前には確定させてください。
- ・ 再生中にストップ端子がメイクされると (②)、再生しているメッセージはフェードアウトして終了します。
- ・ 放送中にスタート端子がメイクされると、現在再生しているメッセージはフェードアウトして終了します。そのあと、その時点での端子1～7、8～9の状態にしたがってメッセージを再生します。(③)
- ・ プログラムメッセージを割り当てた場合、スタート端子がメイクされるごとに、次のステップを再生します。

タイマーを使った再生のしかた

バイナリーでのメッセージ番号の指定表

番号	制御入力端子パターン	番号	制御入力端子パターン	番号	制御入力端子パターン	番号	制御入力端子パターン
	- - - - - 1	032	- 6 - - - - -	064	7 - - - - -	096	7 6 - - - - -
001	- - - - - 2 -	033	- 6 - - - - 1	065	7 - - - - - 1	097	7 6 - - - - 1
002	- - - - - 2 1	034	- 6 - - - 2 -	066	7 - - - - 2 -	098	7 6 - - - 2 -
003	- - - - 3 - -	035	- 6 - - - 2 1	067	7 - - - - 2 1	099	7 6 - - - 2 1
004	- - - - 3 - 1	036	- 6 - - 3 - -	068	7 - - - 3 - -	100	7 6 - - 3 - -
005	- - - - 3 2 -	037	- 6 - - 3 - 1	069	7 - - - 3 - 1	101	7 6 - - 3 - 1
006	- - - - 3 2 1	038	- 6 - - 3 2 -	070	7 - - - 3 2 -	102	7 6 - - 3 2 -
007	- - - 4 - - -	039	- 6 - - 3 2 1	071	7 - - - 3 2 1	103	7 6 - - 3 2 1
008	- - - 4 - - 1	040	- 6 - 4 - - -	072	7 - - 4 - - -	104	7 6 - 4 - - -
009	- - - 4 - - 2	041	- 6 - 4 - - 1	073	7 - - 4 - - 1	105	7 6 - 4 - - 1
010	- - - 4 - 2 -	042	- 6 - 4 - 2 -	074	7 - - 4 - 2 -	106	7 6 - 4 - 2 -
011	- - - 4 - 2 1	043	- 6 - 4 - 2 1	075	7 - - 4 - 2 1	107	7 6 - 4 - 2 1
012	- - - 4 3 - -	044	- 6 - 4 3 - -	076	7 - - 4 3 - -	108	7 6 - 4 3 - -
013	- - - 4 3 - 1	045	- 6 - 4 3 - 1	077	7 - - 4 3 - 1	109	7 6 - 4 3 - 1
014	- - - 4 3 2 -	046	- 6 - 4 3 2 -	078	7 - - 4 3 2 -	110	7 6 - 4 3 2 -
015	- - - 4 3 2 1	047	- 6 - 4 3 2 1	079	7 - - 4 3 2 1	111	7 6 - 4 3 2 1
016	- - 5 - - - -	048	- 6 5 - - - -	080	7 - 5 - - - -	112	7 6 5 - - - -
017	- - 5 - - - 1	049	- 6 5 - - - 1	081	7 - 5 - - - 1	113	7 6 5 - - - 1
018	- - 5 - - 2 -	050	- 6 5 - - 2 -	082	7 - 5 - - 2 -	114	7 6 5 - - 2 -
019	- - 5 - - 2 1	051	- 6 5 - - 2 1	083	7 - 5 - - 2 1	115	7 6 5 - - 2 1
020	- - 5 - 3 - -	052	- 6 5 - 3 - -	084	7 - 5 - 3 - -	116	7 6 5 - 3 - -
021	- - 5 - 3 - 1	053	- 6 5 - 3 - 1	085	7 - 5 - 3 - 1	117	7 6 5 - 3 - 1
022	- - 5 - 3 2 -	054	- 6 5 - 3 2 -	086	7 - 5 - 3 2 -	118	7 6 5 - 3 2 -
023	- - 5 - 3 2 1	055	- 6 5 - 3 2 1	087	7 - 5 - 3 2 1	119	7 6 5 - 3 2 1
024	- - 5 4 - - -	056	- 6 5 4 - - -	088	7 - 5 4 - - -	120	7 6 5 4 - - -
025	- - 5 4 - - 1	057	- 6 5 4 - - 1	089	7 - 5 4 - - 1	121	7 6 5 4 - - 1
026	- - 5 4 - 2 -	058	- 6 5 4 - 2 -	090	7 - 5 4 - 2 -	122	7 6 5 4 - 2 -
027	- - 5 4 - 2 1	059	- 6 5 4 - 2 1	091	7 - 5 4 - 2 1	123	7 6 5 4 - 2 1
028	- - 5 4 3 - -	060	- 6 5 4 3 - -	092	7 - 5 4 3 - -	124	7 6 5 4 3 - -
029	- - 5 4 3 - 1	061	- 6 5 4 3 - 1	093	7 - 5 4 3 - 1	125	7 6 5 4 3 - 1
030	- - 5 4 3 2 -	062	- 6 5 4 3 2 -	094	7 - 5 4 3 2 -	126	7 6 5 4 3 2 -
031	- - 5 4 3 2 1	063	- 6 5 4 3 2 1	095	7 - 5 4 3 2 1	127	7 6 5 4 3 2 1

操作のしかた

バイナリーでのメッセージ領域の指定表

メッセージ領域	端子パターン
組合せメッセージ/プログラムメッセージを選択	- -
SDメモリーカードA面のメッセージを選択	- 8
SDメモリーカードB面のメッセージを選択	9 -
内蔵メモリーのメッセージを選択	9 8

通信接続による再生

本機では、プログラムコントローラー（WZ-610）とRS-232Cケーブル（クロスケーブル）で接続し、通信しながらプログラムした順にメッセージを再生できます。

接続方法については、「プログラムコントローラーとの接続」（93ページ）をお読みください。

プログラムコントローラーから、直接本機のSDメモリーカード内のメッセージを指定して再生できます。

プログラムコントローラーの設定（ディスク番号、チャンネル番号、曲番号）は以下のとおりです。

ディスク番号	1	SDメモリーカードA面のメッセージを指定します
	2	SDメモリーカードB面のメッセージを指定します
	3、4	使用しないでください
	5	組合せメッセージ/プログラムメッセージを指定します
チャンネル番号	0	本機では常に「0」に設定してください
	1~8	使用しないでください
曲番号	1~99	メッセージ番号を指定します

プログラムコントローラーのプログラムの設定方法については、プログラムコントローラーの取扱説明書をお読みください。

本機側では、通信接続による再生のための設定は必要ありません。プログラムコントローラーのプログラム順に、再生できます。

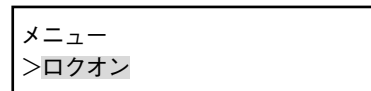
こんな使いかたもできます

繰り返し再生の設定のしかた

接点制御入力に割り当てたメッセージや前面パネルのボタン操作によるメッセージを繰り返し再生できます。ここでは、SDメモリーカードA面のメッセージ番号003の再生回数を、10回に設定する場合を例に説明します。

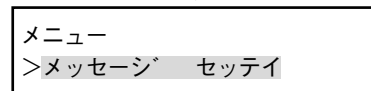
1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。



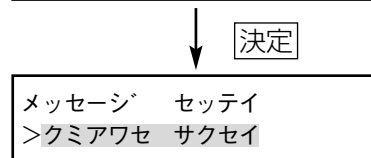
2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。



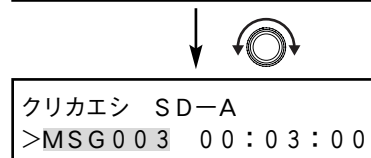
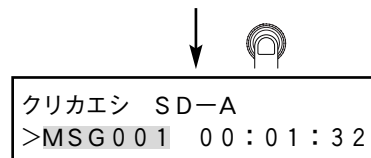
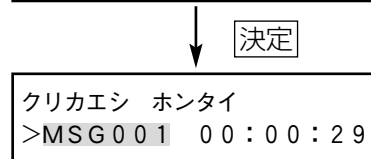
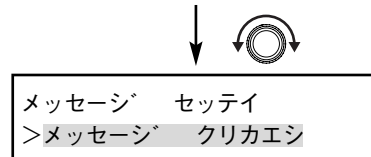
3. メッセージ繰り返し設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ繰り返し設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。



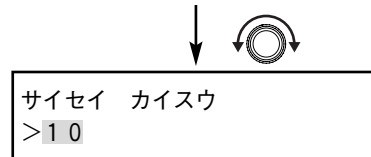
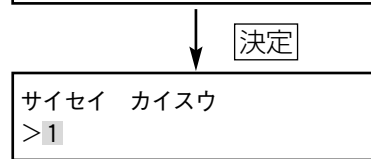
4. SDメモリーカードA面のメッセージ番号003を選択する

[選択] ダイアルを1回押して、メッセージ番号003を選択し、[決定] ボタンを押します。



5. 再生回数を10回に設定する

[選択] ダイアルを回して、「10」を選択し、[決定] ボタンを押します。

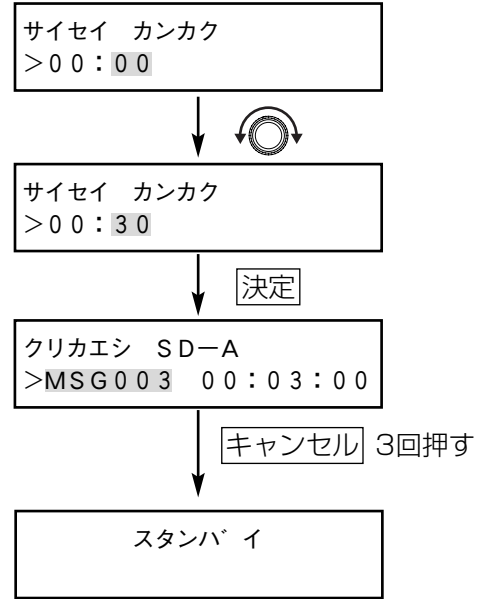


6. 再生間隔を設定する

繰り返し時の再生間隔時間を設定します。30秒に設定する場合、点滅領域が秒であることを確認して、[選択] ダイヤルを回して「00:30」に設定し、[決定] ボタンを押します。



- 再生間隔は、0秒～59秒（1秒間隔）、または1分～30分（1分間隔）を設定できます。1分以上は、1秒間隔の設定（たとえば、1分30秒）はできません。



操作のしかた

7. 編集メニューを終了する

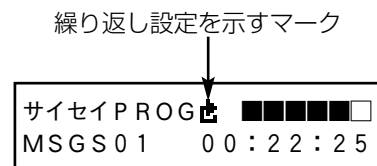
[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- 繰り返し設定は、メッセージごとに設定可能です。
- 再生間隔を30分に設定した場合、1つのメッセージを再生すると、30分間は放送されません。このとき、動作中出力信号は出力されません。30分を過ぎると、再びメッセージを再生します。
- プロテクト（51ページ）されているメッセージは、繰り返し再生設定ができません。一度、プロテクトを解除してから、設定してください。
- 再生回数は、1回～99回、無限回を設定できます。
- 繰り返し再生中に [キャンセル] ボタンを押すと、メッセージを停止できます。

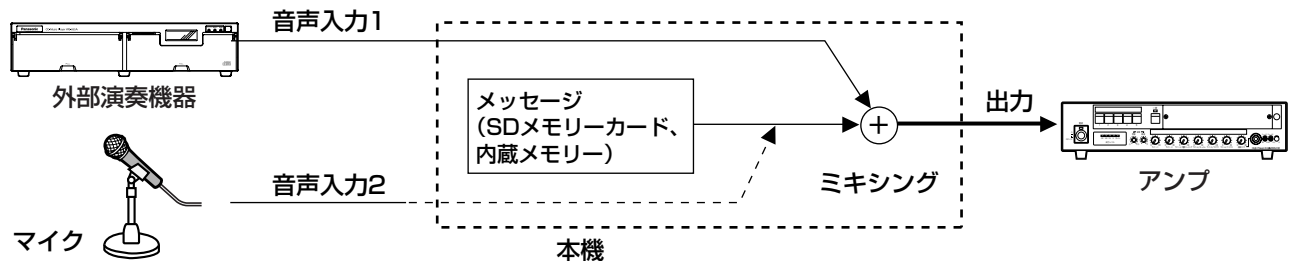
■繰り返し設定時の液晶ディスプレイ表示

繰り返し設定をしたメッセージを再生した場合、液晶ディスプレイに繰り返し設定を示すマークが表示されます。

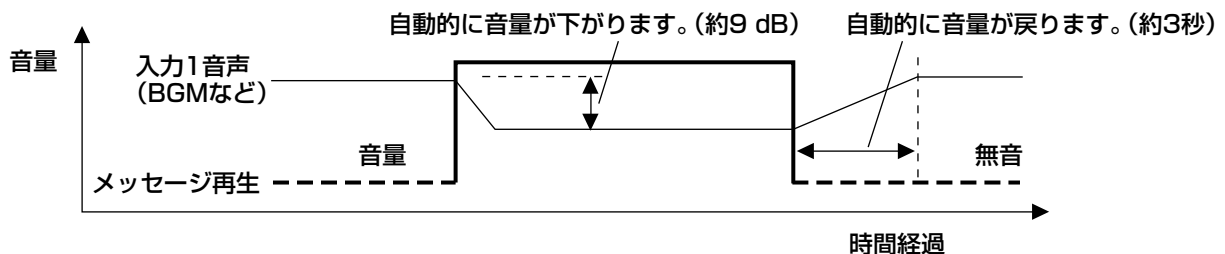


ミキシング放送のしかた

本機は、SDメモリーカードや内蔵メモリーのメッセージ再生と、音声入力1端子に接続した機器との音声をミキシングして放送できます。メッセージ再生と音声入力1のどちらかを優先して、自動的に一方の音量を下げることもできます。



メッセージ再生を優先して放送する場合の動作は、以下の図のようになります。



メッセージを再生していないときは、音声入力2の音声をミキシングすることもできます。メッセージの再生が始まると、自動的に音声入力2の音は止まり、メッセージに切り換わります。



- WZ-DP250の場合、音声入力2のマイクレベルとラインレベルの切り換えは、録音の画面で設定します。(28ページ メッセージの録音のしかた 手順1から手順7まで操作を行い、マイクレベルとラインレベルの切り換えをしてください。) **DP250**

WZ-DP150の場合、音声入力2はマイクレベル固定です。 **DP150**

- 音声入力1つまみと音声出力つまみを中央の位置にしておくと、外部演奏機器からの音声の音量をほとんど変えずに出力できます。
- 動作中出力は、メッセージの再生中にのみ出力されます。音声入力1や音声入力2からの放送中は出力されません。



- メッセージを再生する際に、メッセージの音声データ形式が、「高音質」、「標準」、「MP3」の場合から「エコノミー」に切り換わったとき、またその逆に切り換わるときには、入力1の音声が一瞬途切れます。ミキシング機能をお使いのときは、メッセージの音声データ形式を、「高音質」、「標準」、「MP3」と、「エコノミー」とで混在させないようにしてください。
- 再生するメッセージの音声データ形式が「エコノミー」の場合、入力1からミキシングされて出力される音声の周波数特性の上限は11 kHzまでとなります。
- 音声入力2にマイクを接続する場合、放送をしないときにはマイクの出力スイッチを切っておいてください。マイク周辺の騒音が放送されたり、「メッセージ優先」の場合はマイク周辺の騒音によって自動的に音声入力1の音量が下がる場合があります。

こんな使いかたもできます

機能名と 液晶ディスプレイ (LCD) の表示	動作内容	使いかたの例
ミキシングなし ミキシング ナシ	<ul style="list-style-type: none"> ● 音声入力1からの音声をミキシングしないでメッセージを再生します。 ● メッセージ再生していないときには音声入力2からの音声を放送可能です。音声入力2からの音声を放送中にメッセージ再生が始まると、音声入力2の音声はすぐにメッセージに切り換わり、メッセージ再生が終わると音声入力2の音声にすぐに切り換わります。 	ミキシング機能を使わない場合
メッセージ優先 メッセージ ユウセン	<ul style="list-style-type: none"> ● メッセージと音声入力1とを常時ミキシングします。メッセージ再生中は、音声入力1の音量は自動的に低くなります。メッセージ再生が終わると音声入力1の音量は自動的にもとに戻ります。 ● メッセージ再生していないときには音声入力2からの音声を放送可能です。音声入力2に音声が入ると、音声入力1の音量は自動的に低くなり、音声入力2の音声が止まると音声入力1の音量は自動的にもとに戻ります。 ● 音声入力2からの音声を放送中にメッセージ再生が始まると、音声入力2の音声はすぐにメッセージに切り換わり、メッセージ再生が終わると音声入力2の音声にすぐに切り換わります。 	本機で再生するアナウンスやチャイム音声を、外部のBGM演奏機器の音声にかぶせて放送する場合
音声入力1優先 ニューヨーク1 ユウセン	<ul style="list-style-type: none"> ● メッセージと音声入力1とを常時ミキシングします。音声入力1に音声が入ると、メッセージの音量は自動的に低くなります。音声入力1の音声が止まると、メッセージの音量は自動的にもとに戻ります。 ● メッセージ再生していないときには音声入力2からの音声を放送可能です。音声入力1に音声が入ると、音声入力2の音量は自動的に低くなり、音声が止まると音声入力2の音量は自動的にもとに戻ります。 ● 音声入力2からの音声を放送中にメッセージ再生が始まると、音声入力2の音声はすぐにメッセージに切り換わり、メッセージ再生が終わると音声入力2の音声にすぐに切り換わります。音声入力1に音声が入っている最中には、音量が低くなったまま音声入力2とメッセージ再生の切り換わり動作を行います。 	本機ではBGMの再生などを行い、外部機器からのチャイムやアナウンスなどの音声をかぶせて使用する場合
優先度設定なし ユウセンドセツテイ ナシ	<ul style="list-style-type: none"> ● メッセージと音声入力1とを常時ミキシングします。 ● メッセージ再生していないときには音声入力2からの音声を放送可能です。音声入力2からの音声を放送中にメッセージ再生が始まると、音声入力2の音声はすぐにメッセージに切り換わり、メッセージ再生が終わると音声入力2の音声にすぐに切り換わります。 	ミキシングの際に、自動的に音量を変えたくない場合

こんな使いかたもできます

■ミキシングの設定のしかた

ここでは、メッセージ優先に設定する場合を例に説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. システム設定画面を選択する


[選択] ダイヤルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. ミキシング再生設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、ミキシング再生画面を選択し、[決定] ボタンを押します。


4. 「メッセージ ユウセン」を選択する

[選択] ダイヤルを回して、「メッセージ ユウセン」を選択し、[決定] ボタンを押します。

 ●「ミキシングナシ」を選択し、[決定] ボタンを押すと、手順6に進みます。

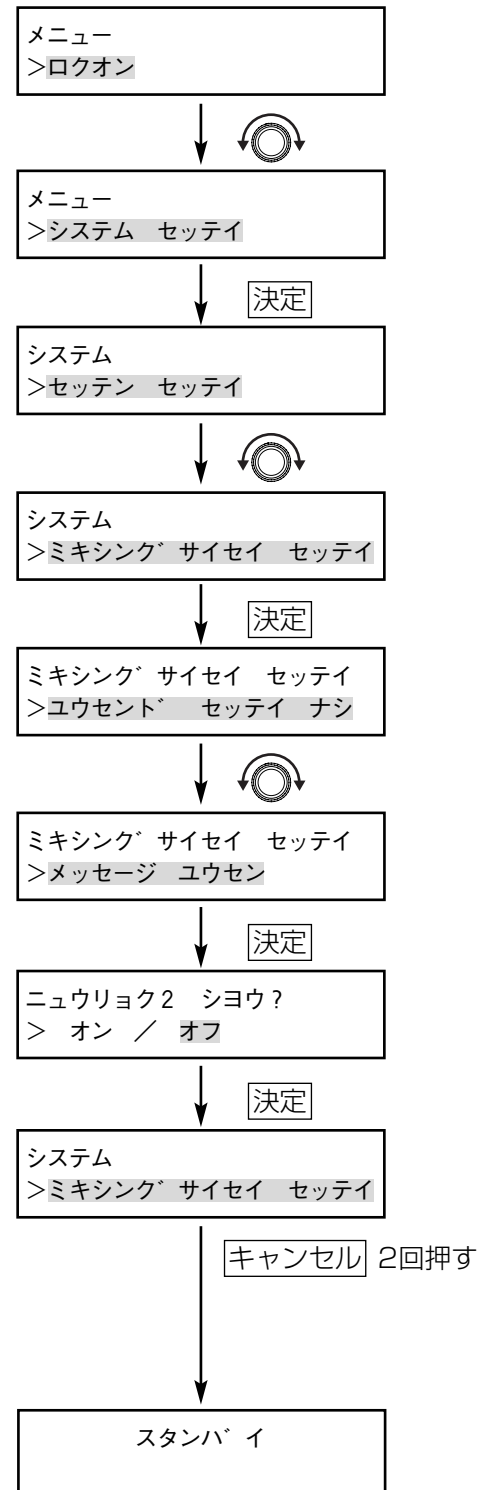
5. 音声入力2端子の有効／無効を選択する

音声入力2端子を使う場合は、[選択] ダイヤルを回して「オン」を、使わない場合は「オフ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

 ●マイクを使用しない場合は、「オフ」にすることをおすすめします。
●音声入力2のマイクレベルとラインレベルの切り換えは、メッセージの録音のしかた（28ページ）の手順1から手順7までの操作を行って、切り換えをしてください。

6. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



メッセージ名の編集のしかた

メッセージを録音したときに作成したメッセージ名称を編集できます。

ここでは、SDメモリーカードA面に保存しているメッセージ番号005のメッセージ名称を変更する場合を例に説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. メッセージ名称画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ名称画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. 編集するメッセージ番号を選択する

最初、画面上は、内蔵メモリーのメッセージ番号001が表示されています。[選択] ダイアルを1回押して、保存している領域をSDメモリーカードのA面に切り換えます。続いて [選択] ダイアルを回して、メッセージ番号005を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. メッセージ名称を編集する

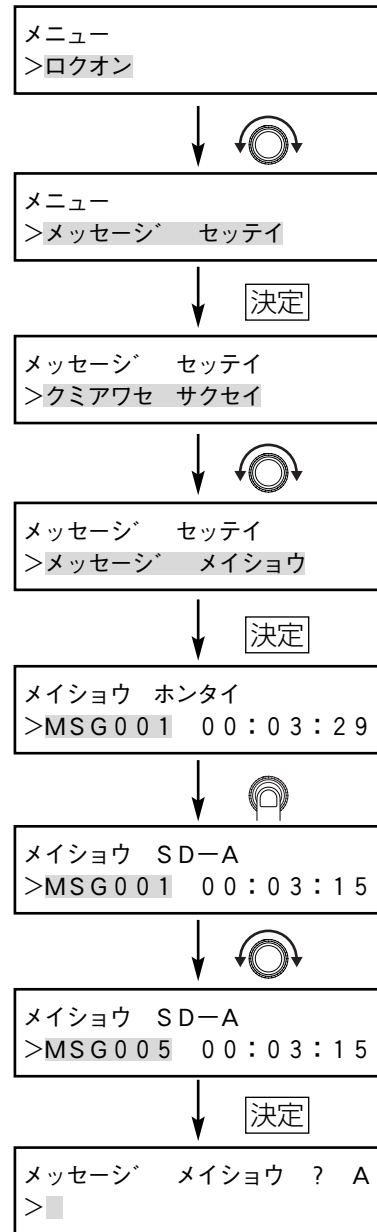
メッセージ名称を編集する場合、「文字入力のしかた」(31ページ)をお読みください。

6. メッセージ名称の編集を確定する

文字入力を終了する場合、[決定] ボタンを押します。メッセージ名称編集画面が終了し、メッセージ番号選択画面が表示されます。

7. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- メッセージ名称は、15文字まで入力可能です。

メッセージの削除のしかた

メッセージを保存する領域が不足したり、メッセージが不要になった場合、メッセージを削除できます。ここでは、SDメモリーカードB面に保存しているメッセージ番号080を削除する場合を例に説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 削除画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、削除画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. 削除するメッセージ番号を選択する

SDメモリーカードB面のメッセージ番号080を選択する場合、画面上は、内蔵メモリーのメッセージ番号001が表示されています。[選択] ダイアルを2回押して、保存している領域を切り換えます。続いて [選択] ダイアルを回して、メッセージ番号080を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 「ハイ」を選択する

メッセージ削除確認画面が表示されていることを確認して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

メッセージの削除を中止する場合は、「イイエ」を選択します。手順4の画面に戻ります。

6. ファイルの削除で「ハイ」を選択する

ファイルの削除確認画面が表示されていることを確認して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

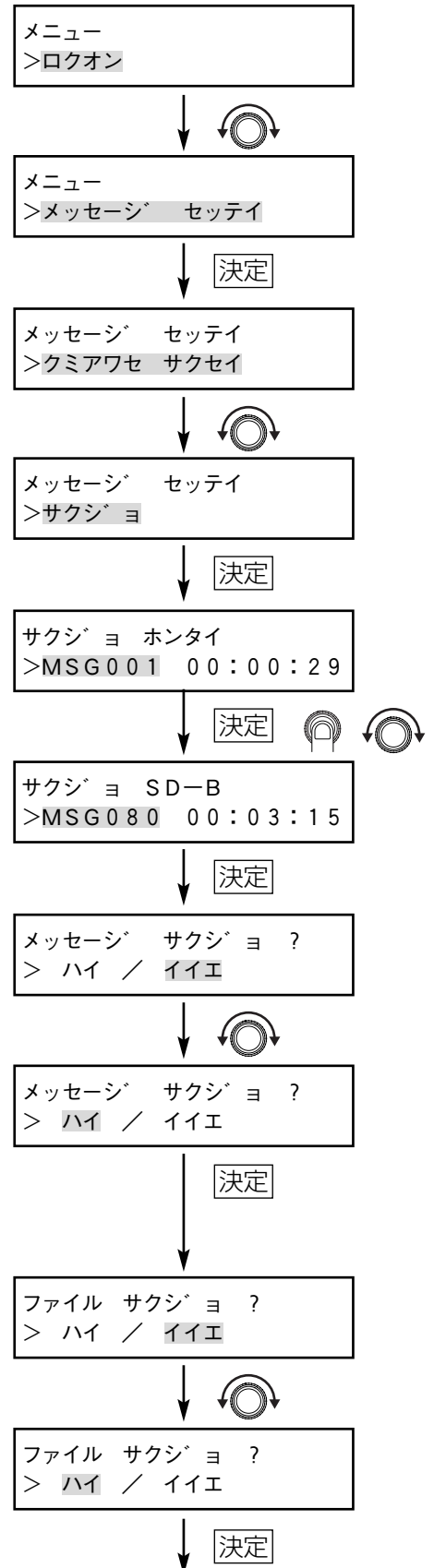
ファイルの削除を中止する場合は、「イイエ」を選択します。手順7の画面になります。



- メッセージの削除では、メッセージ番号への割り当てを解除します。ファイルを削除するには、手順6でファイルの削除をしてください。



- SDメモリーカードの空き容量を増やす場合には、「ハイ」を選択し、ファイルを削除してください。

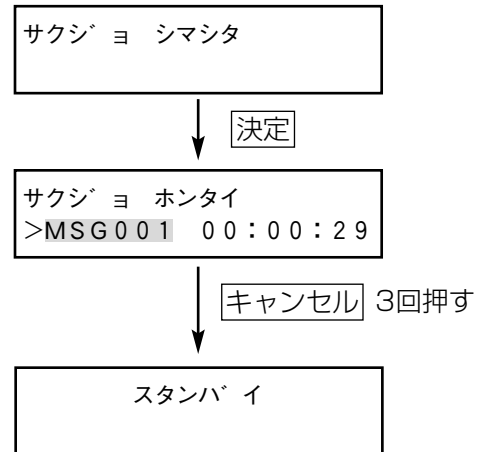



7. [決定] ボタンを押す

削除完了画面が表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押してください。

8. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



-  以下の注意事項を必ずご確認ください。
- 組合せメッセージ/プログラムメッセージ (53ページ) を削除する場合、手順6の画面は表示されません。
 - 手順4で、プロテクトしているメッセージ (本ページ) や組合せメッセージ/プログラムメッセージを削除しようとした場合は、プロテクトされていることを表す画面が表示されます。続いて [キャンセル] ボタンを押すと手順4の画面に戻ります。
 - 組合せメッセージ/プログラムメッセージで使用しているメッセージを削除しようとした場合、2秒間「クミアワセ シヨウチュウ」と表示され、メッセージ削除確認画面に戻ります。
 - 手順6でファイルの削除をしなかった音源データを、再度メッセージとして利用するときは、設定支援ソフトで運用データを編集してください。
 - メッセージとファイルの関係については、19ページをお読みください。

メッセージのプロテクトのしかた

誤操作によるメッセージの削除や設定変更を防止する機能です。メッセージごとのプロテクトだけでなく、メッセージの領域ごとにプロテクトすることもできます。

工場出荷時は内蔵メモリーのメッセージはプロテクト設定されています。

ここでは、SDメモリーカードA面に保存しているメッセージ番号001をプロテクトする場合について説明します。

1. メニュー画面を表示する

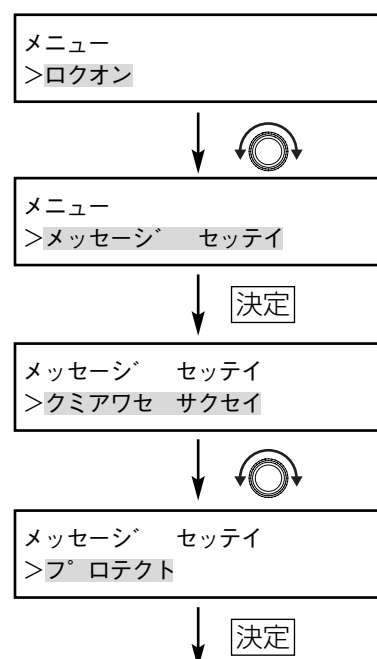
[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. プロテクト画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、プロテクト画面を選択し、[決定] ボタンを押します。



(⇒次ページへ続く)

こんな使いかたもできます

4. プロテクトするメッセージ番号を選択する

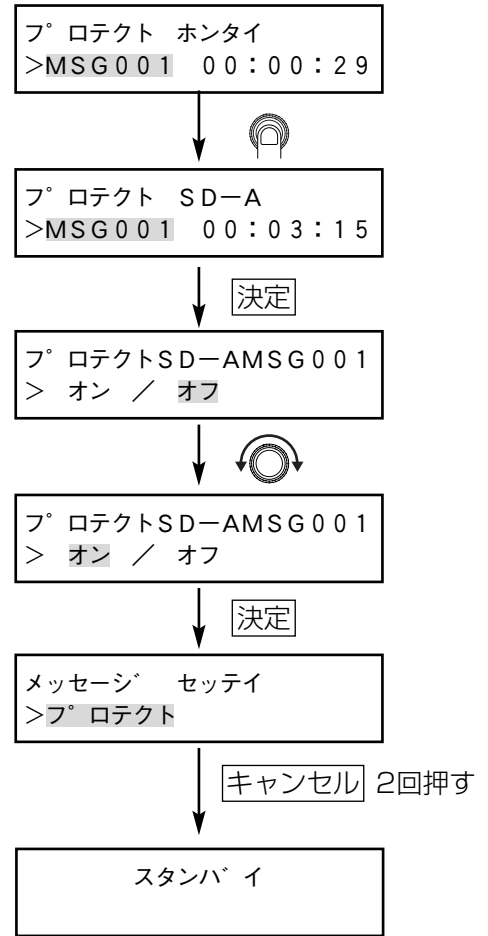
SDメモリーカードA面のメッセージ番号001を選択する場合、画面上は、内蔵メモリーのメッセージ番号001が表示されています。[選択] ダイヤルを1回押して、保存している領域を切り換えます。続いて [選択] ダイヤルを回して、メッセージ番号001を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 「オン」を選択する

メッセージプロテクト確認画面が表示されていることを確認して、「オン」を選択し、[決定] ボタンを押します。メッセージのプロテクトを解除する場合は、「オフ」を選択します。画面は手順3に戻ります。

6. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- 大切なメッセージは、設定支援ソフトを用いて、バックアップしてください。
- メッセージをプロテクトしていても、SDメモリーカードアクセス表示灯が点灯時にSDメモリーカードの抜き差しをすると、データが破壊される場合があります。



- メッセージのプロテクトには、メッセージそのものをプロテクトする方法と、メッセージ保存領域をプロテクトする方法の2通りがあります。上記手順はメッセージそのものをプロテクトする方法を説明しています。メッセージ保存領域をプロテクトするには、手順4で [ゼンリョウウイキ] / [ホンタイ] / [SD-A] / [SD-B] を、[選択] ダイヤルを押して選択してください。

組合せメッセージ／プログラムメッセージの使いかた

店舗などの店内放送では、最初にチャイム音を放送し、続けてあいさつなどの伝えたい内容を放送することがあります。

本機では、SDメモリーカード内に別々に保存されているチャイム音やあいさつなどのメッセージ各種を組合せて、放送内容を作成できます。

■組合せメッセージ／プログラムメッセージとは

組合せメッセージとは、複数のメッセージを組合せて、1つの放送イベントで連続して放送する機能です。途中に無音区間をはさんで、時間間隔を空けて放送できます。

プログラムメッセージとは、複数のメッセージを組合せて、一種類の放送イベントで次々と放送する機能です。途中に無音区間をはさんで、時間間隔を空けて放送できます。

※“放送イベント”とは、接点制御入力（35ページ）や通信接続による再生（43ページ）、機能ボタンでの再生（69ページ）を指しています。

SDメモリーカードに下表のメッセージが録音されている場合を例にそれぞれの動作を説明します。

録音されているメッセージ一覧

メッセージ番号	タイトル名	メッセージ内容
SDカードA面001	定時_開店	「今日は、朝早くからのご来店・・・」
SDカードA面002	CM_商品券	「商品券でお支払いされますと・・・」
SDカードA面003	チャイム4点	「ピンポンパンポン(上がり)」
SDカードA面004	来店	「本日も、ご来店いただきまして・・・」
SDカードA面005	CM_感謝デー	「今日は、お客様感謝デーです。・・・」
SDカードA面006	定時_閉店	「ただいま、閉店のお時間です。明日も・・・」
SDカードA面007	時報_3時	「ただいま、3時になりました。・・・」
SDカードB面001	CM_販促	「ただいま、〇△コーナーでは、・・・」

●組合せメッセージの例

上記メッセージを組合せて、次のような放送内容の組合せメッセージを番号01で作成できます。54ページでは、この組合せメッセージを例に作成のしかたを説明します。

- ステップ1：メッセージ番号SDカードA面004を放送する。
- ステップ2：10分後にメッセージ番号SDカードB面001を放送する。
- ステップ3：続けてメッセージ番号SDカードA面005を放送する。
- ステップ4：10分後にメッセージ番号SDカードA面002を放送する。

●プログラムメッセージの例

上記メッセージを組合せて、次のような放送内容のプログラムメッセージを番号02で作成できます。56ページでは、このプログラムメッセージを例に作成のしかたを説明します。

- ステップ1：メッセージ番号SDカードA面004を放送する。
- ステップ2：放送イベント後、メッセージ番号SDカードB面001を放送する。
- ステップ3：5秒後メッセージ番号SDカードA面005を放送する。
- ステップ4：放送イベント後、メッセージ番号SDカードA面002を放送する。

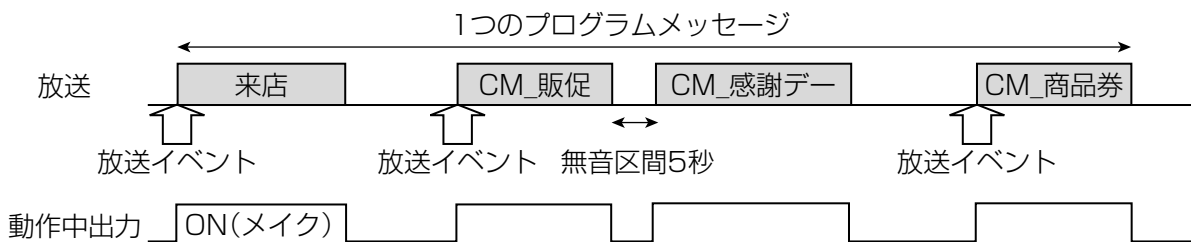
こんな使いかたもできます

前述の設定を放送イベントとして使用して放送する場合、下の図の動作となります。

●組合せメッセージの再生



●プログラムメッセージの再生



- プログラムメッセージ／組合せメッセージはSDメモリーカードのメッセージのみ使用可能です。内蔵メモリー内のメッセージを使用する場合は、SDメモリーカードに運用データをバックアップ（79ページ）してから、設定支援ソフトでメッセージを登録してください。
- 1つの組合せメッセージ／プログラムメッセージには、128メッセージまで設定できます。
- 組合せメッセージ／プログラムメッセージは、合わせて50件まで登録できます。
- 音量レベルの異なるメッセージを組合せて、組合せメッセージおよびプログラムメッセージを作成する際は、音量のばらつきなどをおさえるため、メッセージ個別の音量調節（34ページ）を行ってください。

■組合せメッセージの作成のしかた

53ページで説明した組合せメッセージを作成します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

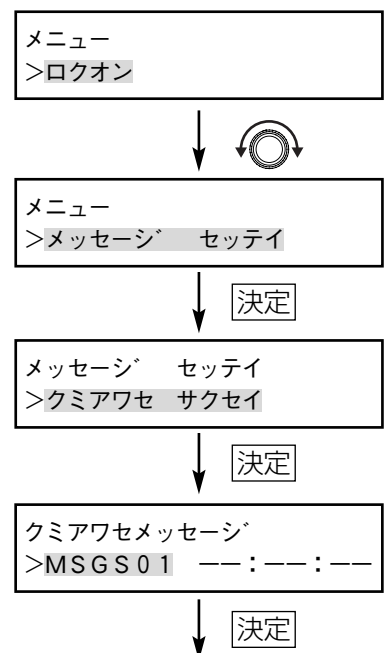
[選択] ダイアルを回転して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 組合せメッセージ作成画面を選択する

組合せメッセージ作成画面が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

4. 作成する組合せメッセージ番号を選択する

組合せメッセージを番号01に割り当てます。[選択] ダイアルで「MSG01」を選択し、[決定] ボタンを押します。



5. ステップ1にメッセージを追加する

「001」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

6. ステップ1のメッセージを選択する

[選択] ダイアルでSDメモリーカードA面のメッセージ番号004を選択し、[決定] ボタンを押します。

7. ステップ1の無音区間の設定をする

10分後に次のメッセージを再生させる場合、無音区間を10分に設定します。[選択] ダイアルを押し、点滅領域を分に合わせ、[選択] ダイアルを回して、表示を「10:00」に設定し、[決定] ボタンを押します。



- 無音区間は、0秒～59秒（1秒間隔）、または1分～30分（1分間隔）を設定できます。1分以上は、1秒間隔の設定（たとえば、1分30秒）はできません。

8. ステップ2にメッセージを追加する

[選択] ダイアルを回して「002」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

9. ステップ2のメッセージを選択する

SDメモリーカードB面のメッセージ番号001を挿入します。
[選択] ダイアルを1回押しすと、SDメモリーカードB面に切り換ります。
[選択] ダイアルで「001」を選択し、[決定] ボタンを押します。

10. ステップ2の無音区間の設定をする

次のメッセージを無音区間なしで再生する場合、無音区間を0秒に設定します。「00:00」と表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。

11. ステップ3にメッセージを追加する

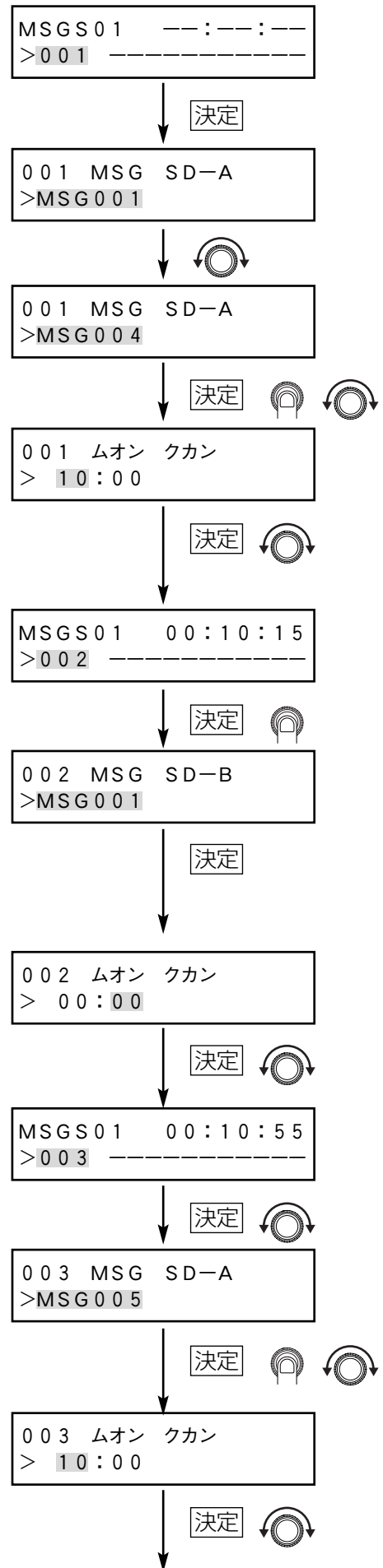
[選択] ダイアルを回して「003」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

12. ステップ3のメッセージを選択する

SDメモリーカードA面のメッセージ番号005を挿入します。
[選択] ダイアルで「005」を選択し、[決定] ボタンを押します。

13. ステップ3の無音区間の設定をする

10分後に次のメッセージを再生させる場合、無音区間を10分に設定します。[選択] ダイアルを押し、点滅領域を分に合わせ、[選択] ダイアルを回して、表示を「10:00」に設定し、[決定] ボタンを押します。



操作のしかた

(⇒次ページへ続く)

こんな使いかたもできます

14. ステップ4にメッセージを追加する

[選択] ダイアルを回して「004」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

15. ステップ4のメッセージを選択する

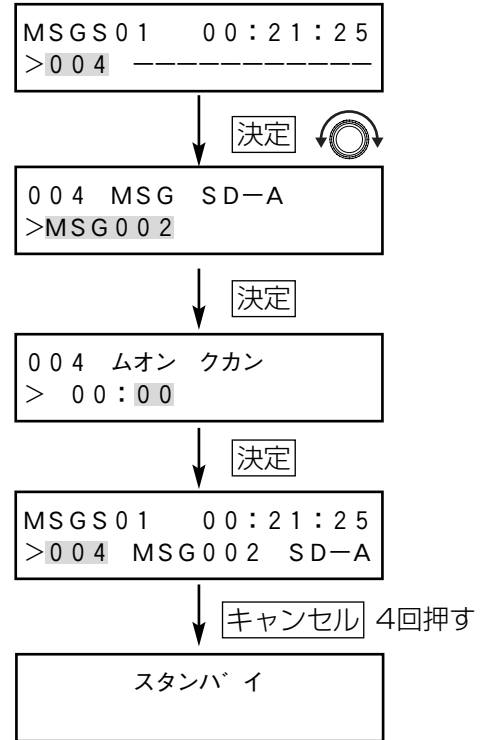
SDメモリーカードA面のメッセージ番号002を挿入します。[選択] ダイアルで「002」を選択し、[決定] ボタンを押します。

16. ステップ4の無音区間の設定をする

組合せメッセージの最後の無音区間を設定します。無音区間を0秒に設定します。「00:00」と表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。

17. 作成メニューを終了する

組合せメッセージの作成が終了しました。[キャンセル] ボタンを4回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- メッセージを放送している間は、無音区間も含めて動作中出力端子から信号が出力されます。
- 1つの組合せメッセージは、24時間以上作成できません。作成中のメッセージが無音区間を含め、24時間以上になった場合は、24時間を超えたメッセージを追加した時点で、「クミアワセ ジカン オーバー」と表示されます。「クミアワセ ジカン オーバー」が表示されたステップ設定は、反映されません。表示後は、[決定] ボタンを押して、修正をしてください。

■プログラムメッセージの作成のしかた

53ページで説明したプログラムメッセージを作成します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

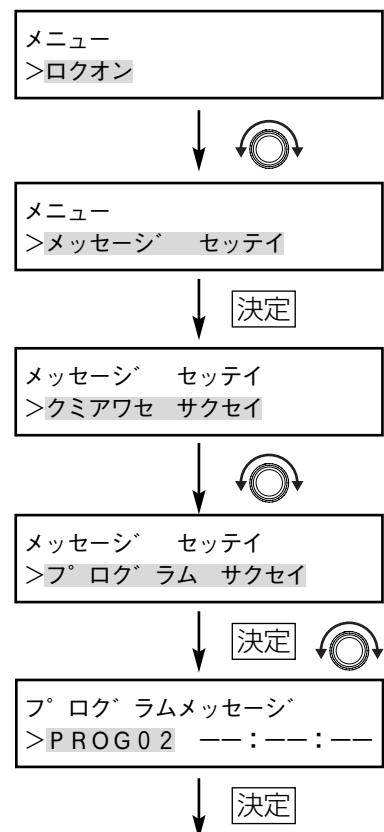
[選択] ダイアルを回転して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. プログラム作成画面を選択する

組合せメッセージ作成画面が表示されていることを確認し、[選択] ダイアルを回して、プログラム作成画面を表示し、[決定] ボタンを押します。

4. 作成するプログラム番号を選択する

作成するプログラムを番号02に割り当てます。[選択] ダイアルで「PROG02」を選択し、[決定] ボタンを押します。



5. ステップ1にメッセージを追加する

「001」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

6. ステップ1のメッセージを選択する

[選択] ダイアルでSDメモリーカードA面のメッセージ番号004を選択し、[決定] ボタンを押します。

7. ステップ1の無音区間の設定をする

放送イベント後に、次のメッセージを再生させる場合、無音区間をイベントに設定します。[選択] ダイアル2回押し、表示を「イベント」に設定し、[決定] ボタンを押します。

8. ステップ2にメッセージを追加する

[選択] ダイアルを回して「002」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

9. ステップ2のメッセージを選択する

SDメモリーカードB面のメッセージ番号001を挿入します。
[選択] ダイアルを1回押すと、SDメモリーカードB面に切り換ります。
[選択] ダイアルで「001」を選択し、[決定] ボタンを押します。

10. ステップ2の無音区間の設定をする

メッセージを5秒後に再生する場合、無音区間を5秒に設定します。点滅領域が「秒」であることを確認して、[選択] ダイアルを回して、表示を「00:05」に設定し、[決定] ボタンを押します。



- 無音区間は、0秒～59秒（1秒間隔）、または1分～30分（1分間隔）を設定できます。1分以上は、1秒間隔の設定（たとえば、1分30秒）はできません。

11. ステップ3にメッセージを追加する

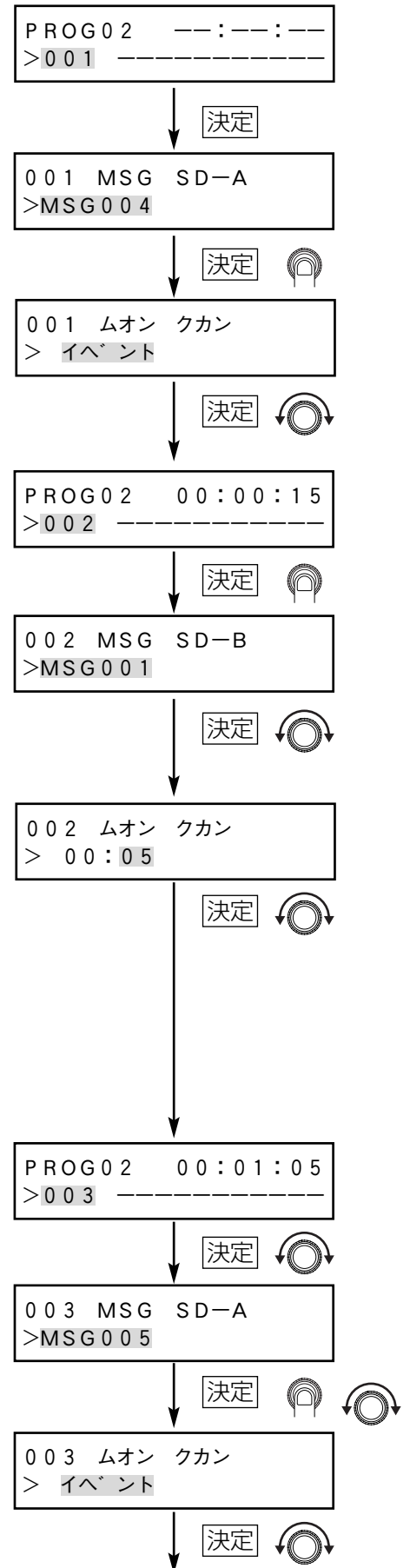
[選択] ダイアルを回して「003」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

12. ステップ3のメッセージを選択する

SDメモリーカードA面のメッセージ番号005を挿入します。
[選択] ダイアルで「005」を選択し、[決定] ボタンを押します。

13. ステップ3の無音区間の設定をする

放送イベント後に、次のメッセージを再生させる場合、無音区間をイベントに設定します。[選択] ダイアル2回押し、表示を「イベント」に設定し、[決定] ボタンを押します。



(⇒次ページへ続く)

こんな使いかたもできます

14. ステップ4にメッセージを追加する

[選択] ダイアルを回して「004」が表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

15. ステップ4のメッセージを選択する

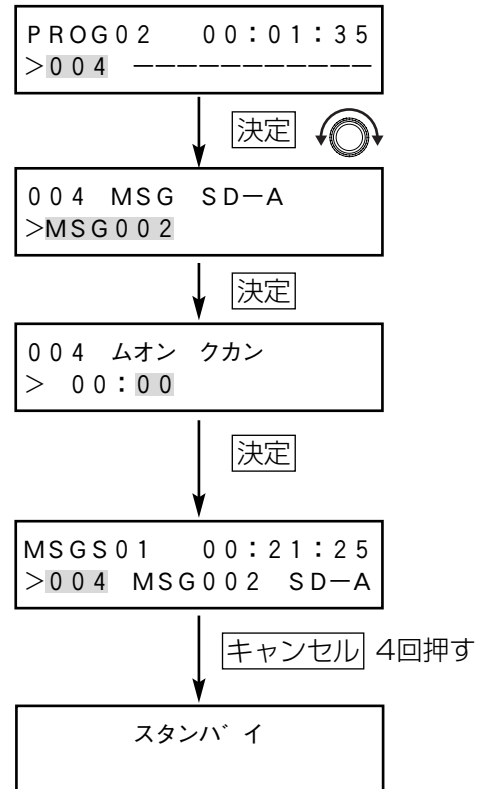
SDメモリーカードA面のメッセージ番号002を挿入します。
[選択] ダイアルで「002」を選択し、[決定] ボタンを押します。

16. ステップ4の無音区間の設定をする

プログラムメッセージの最後の無音区間を設定します。無音区間を0秒に設定します。「00:00」と表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。

17. 作成メニューを終了する

プログラムメッセージの作成が終了しましたので、[キャンセル] ボタンを4回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- 無音区間では、動作中出力端子から信号は出力されません。
- 1つのプログラムメッセージは、24時間をこえて作成できません。作成中に無音区間を含め、24時間以上になった場合は、24時間を超えたメッセージを追加した時点で、「プログラムジカンオーバー」と表示されます。「プログラムジカンオーバー」が表示されたステップ設定は、反映されません。表示後は、[決定] ボタンを押して、修正をしてください。
- 動作中出力信号を出力し、出力音声を無音にする場合は、ブランクメッセージを選択してください。ブランクメッセージは、最大60秒まで、1秒単位で設定できます。ブランクメッセージは、プログラムメッセージを作成するときに、メッセージ選択時に選択できます。

■組合せメッセージの置き換え、挿入、削除のしかた

作成した組合せメッセージの修正手順を説明します。

ここでは、「組合せメッセージの例」(53ページ)のステップ3を、SDメモリーカードA面005からSDメモリーカードA面006に変更する場合を例に説明します。

1. メニュー画面を表示する

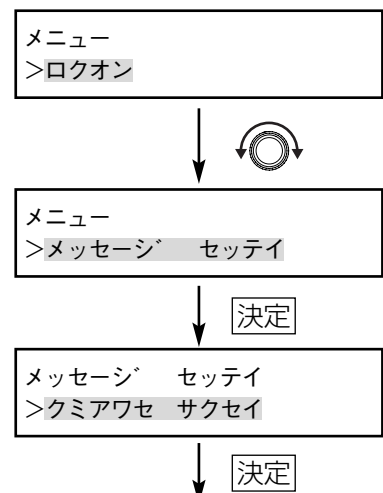
[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 組合せメッセージ作成画面を選択する

組合せメッセージ作成画面が表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。



4. 編集する組合せメッセージ番号を選択する

組合せメッセージ番号01を編集する場合、「MSG01」を
[選択] ダイアルで選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 編集するステップを選択する

ステップ3のメッセージを置き換える場合、[選択] ダイアルを
回して、「003」を選択し、[決定] ボタンを押します。

6. 置き換えを選択する

ステップ3のメッセージを置き換える場合、[選択] ダイアルを
回して、「オキカエ」を選択し、[決定] ボタンを押します



- ステップ3にメッセージを挿入する場合は、手順6で「ソウニュウ」を選択します。
- ステップ3のメッセージを削除する場合は、手順6で「サクジョ」を選択します。

7. 置き換えるメッセージを選択する

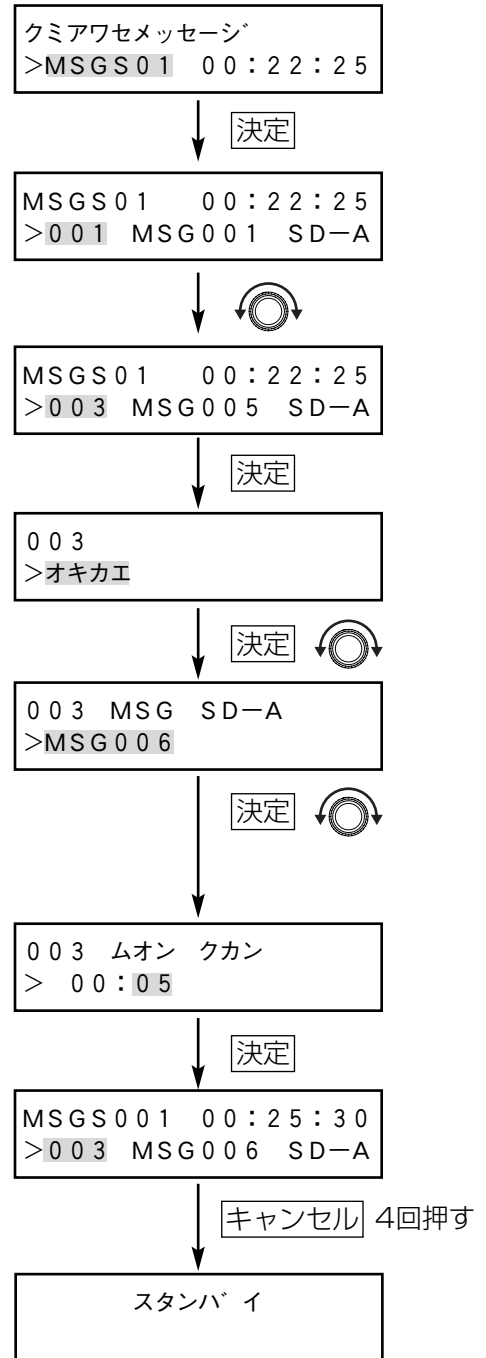
SDメモリーカードA面のメッセージ番号005からSDメモリー
カードA面のメッセージ番号「006」に置き換える場合、
「MSG006」を [選択] ダイアルで選択し、[決定] ボタンを
押します。

8. ステップ3の無音区間の設定をする

無音区間を5秒に変更する場合、点滅領域が秒であることを確
認します。[選択] ダイアルを回して表示を [00:05] に設定
し、[決定] ボタンを押します。

9. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを4回押すと、「スタンバイ」と表示され
ます。



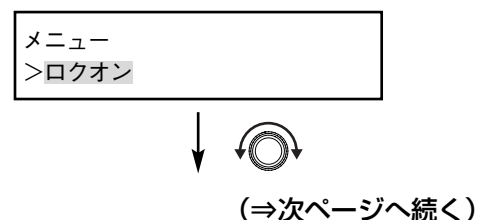
■プログラムメッセージの置き換え、挿入、削除のしかた

作成したプログラムメッセージの修正手順を説明します。

ここでは、「プログラムメッセージの例」(53ページ)のステップ2を、SDメモリーカードB面001からSDメモリーカードA面007に変更する場合を例に説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。



こんな使いかたもできます

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. プログラム作成画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、プログラム作成画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. 編集するプログラム番号を選択する

プログラムメッセージ番号02を編集する場合、「PROG02」を[選択] ダイアルで選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 編集するステップを選択する

ステップ2のメッセージを置き換える場合、[選択] ダイアルを回して、「002」を選択し、[決定] ボタンを押します。

6. 置き換えを選択する

ステップ2のメッセージを置き換える場合、[選択] ダイアルを回して、「オキカエ」を選択し、[決定] ボタンを押します。



- ステップ3にメッセージを挿入する場合は、手順6で「ソウニュウ」を選択します。
- ステップ3のメッセージを削除する場合は、手順6で「サクジョ」を選択します。

7. 置き換えるメッセージを選択する

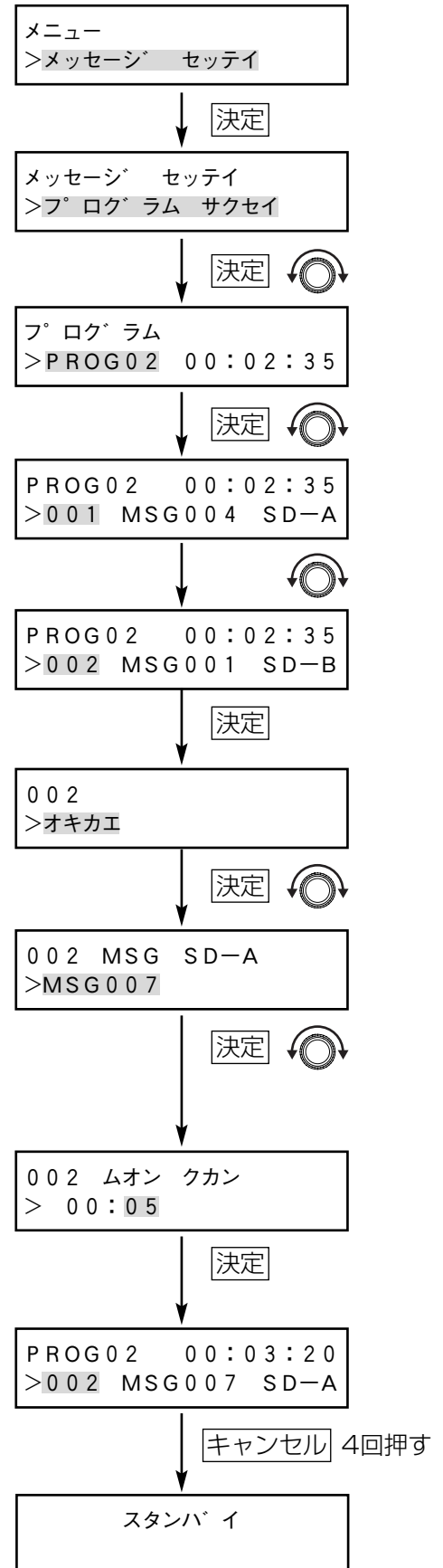
SDメモリーカードB面のメッセージ番号「001」からSDメモリーカードA面のメッセージ番号「007」に置き換える場合、「MSG007」を[選択] ダイアルで選択し、[決定] ボタンを押します。

8. ステップ2の無音区間の設定をする

無音区間を5秒に変更する場合、点滅領域が秒であることを確認して、[選択] ダイアルを回して「00:05」に設定し、[決定] ボタンを押します。

9. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを4回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



■組合せメッセージ／プログラムメッセージの再生のしかた

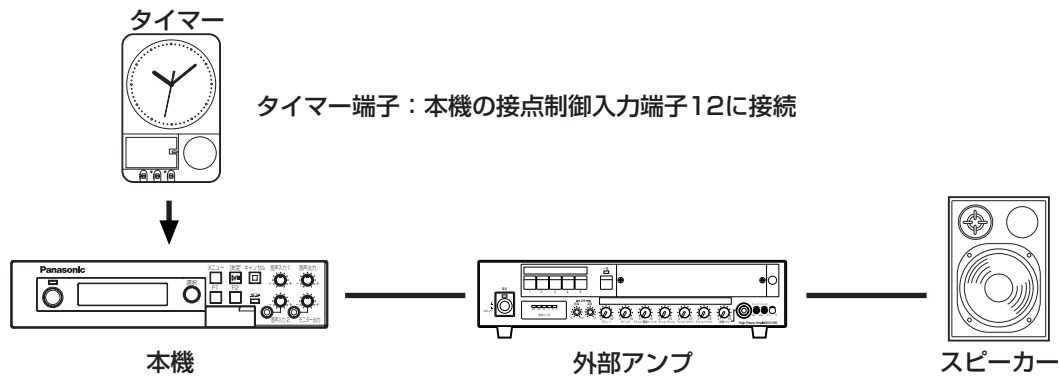
作成した組合せメッセージ／プログラムメッセージは、次の方法で再生できます。


- ・ 選択ダイヤルを使った再生 (27ページ)
- ・ 接点制御入力信号による再生 (35ページ)
- ・ 通信接続による再生 (43ページ)
- ・ 機能ボタンによる再生 (69ページ)

ここでは、タイマーを利用し、「プログラムメッセージの例」(53ページ)に示したプログラムメッセージ番号02を、接点制御入力端子12に割り当てて再生する場合を例に説明します。本機の接点制御入力設定はパルスとします。パルス設定の方法については、36ページをお読みください。

- 10:00:00 → プログラムメッセージ番号02のステップ1
- 10:15:00 → プログラムメッセージ番号02のステップ2およびステップ3
- 10:30:00 → プログラムメッセージ番号02のステップ4

〈システム構成例〉



-  ● プログラムメッセージを接点制御入力信号により再生する場合、接点制御入力端子の動作を「パルス」(41ページ)に設定することをおすすめします。

こんな使いかたもできます

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 接点画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、接点画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. 設定する接点制御入力端子番号を選択する

ここでは、接点制御入力端子12を選択します。

「セッテン12」が表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。

5. 割り当てるメッセージ番号を選択する

ここでは、プログラムメッセージ番号02を割り当てますので、[選択] ダイアルを3回押します。続いて [選択] ダイアルを回して、メッセージ番号02を選択し、[決定] ボタンを押します。

6. メニューを終了する

以上で、接点制御入力端子へのメッセージの割り当てが終了します。[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

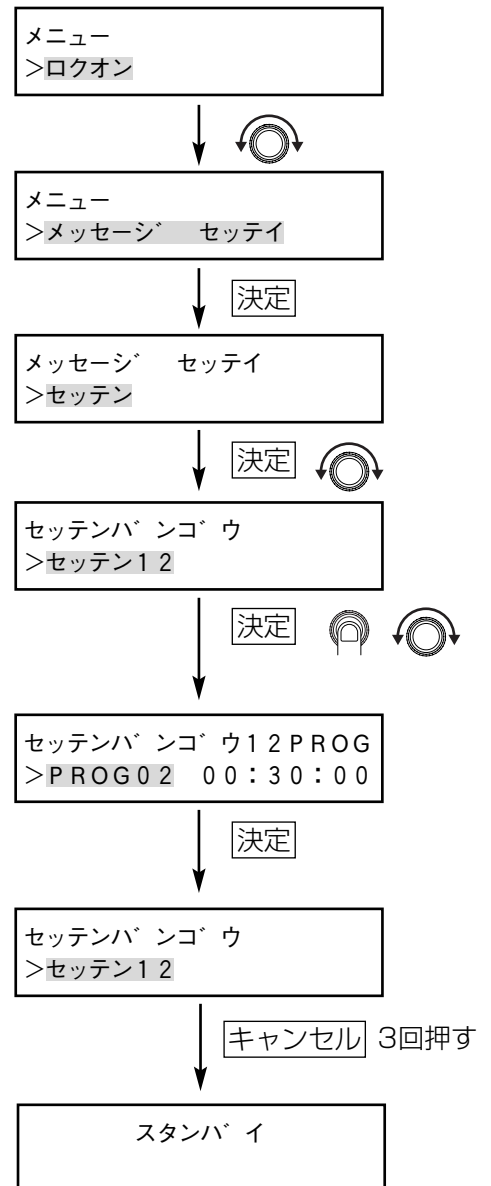
7. タイマー側を設定する

タイマーの動作を以下のように設定します。このとき、タイマーから出力される制御出力信号と本機の接点制御入力の動作を合わせてください。

タイマーのパルス出力を1秒に設定した場合を例に説明します。タイマーの設定方法については、お使いになるタイマーの取扱説明書をお読みください。

- (1) 10:00:00→タイマー側端子から起動信号を出力開始
- (2) 10:00:01→タイマー側端子から起動信号が出力終了
- (3) 10:15:00→タイマー側端子から起動信号を出力開始
- (4) 10:15:01→タイマー側端子から起動信号が出力終了
- (5) 10:30:00→タイマー側端子から起動信号を出力開始
- (6) 10:30:01→タイマー側端子から起動信号が出力終了

指定時刻になると、タイマーから起動信号が本機に入力され、メッセージを再生します。

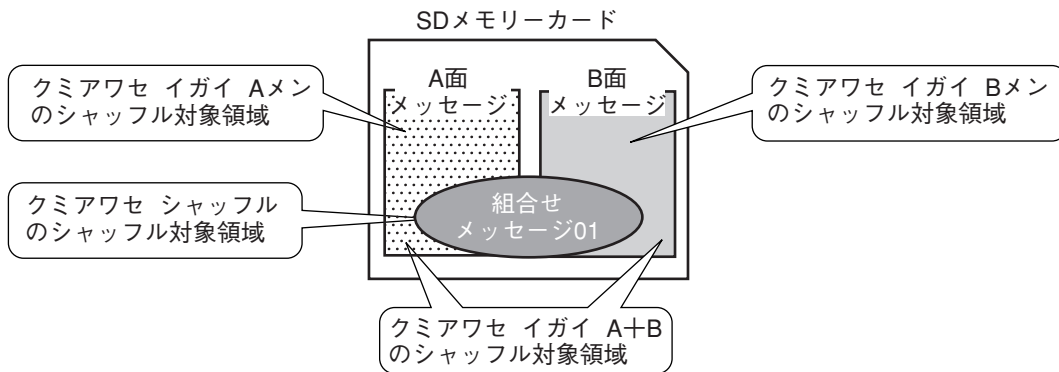


シャッフル再生の使いかた


本機では、組合せメッセージの機能を使って、複数のメッセージの再生順序をシャッフルして再生できます。シャッフル再生には次の4種類の設定があります。

液晶ディスプレイの表記	設定内容
シャッフル ナシ	指定した順序にメッセージを再生します。
クミアワセ シャッフル	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージをシャッフルし、再生します。
クミアワセ イガイ Aメン	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージを除く、SDメモリーカードA面のメッセージをシャッフルし、再生します。
クミアワセ イガイ Bメン	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージを除く、SDメモリーカードB面のメッセージをシャッフルし、再生します。
クミアワセ イガイ A+B	選択した組合せメッセージやプログラムメッセージを構成するメッセージを除く、SDメモリーカードA面とB面のメッセージをシャッフルし、再生します。

組合せメッセージ01を再生したとき、シャッフル対象は次の図のようになります。



ここでは、SDメモリーカードA面のメッセージ番号001から005までに定時放送、チャイムなどのメッセージを、SDメモリーカードA面のメッセージ番号010から030までBGMなどのメッセージがある場合の、機能ボタンによるシャッフル再生の設定について説明します。

- 
 シャッフル再生の設定は、シャッフルするメッセージの数を参考に設定してください。たとえば、20件のメッセージがSDメモリーカード内に保存されており、そのうち15件のメッセージをシャッフルしたい場合は、組合せ以外シャッフルを使用してください。逆に5件のメッセージをシャッフルしたい場合は、組合せシャッフルを使用してください。

■組合せシャッフルの使いかた

1. 組合せメッセージの作成

SDメモリーカードA面のメッセージ番号010から030までをシャッフル再生の対象とし、組合せメッセージ01にSDメモリーカードA面のメッセージ番号010から030までを登録します。組合せメッセージの作成方法については、「組合せメッセージの作成のしかた」(54ページ)をお読みください。

(⇒次ページへ続く)

こんな使いかたもできます

2. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

3. システム設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. シャッフル再生画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、シャッフル再生画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 組合せシャッフルを選択する

[選択] ダイヤルを回して、組合せシャッフルを選択し、[決定] ボタンを押します。

6. 設定メニューを終了する

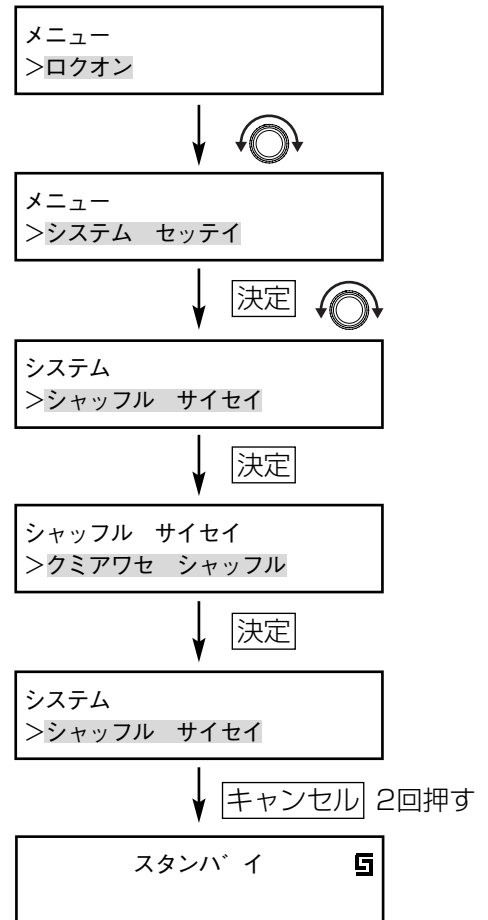
[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

7. メッセージを機能ボタンに割り付ける

作成した組合せメッセージ番号01を [F1] ボタンに設定します。設定の方法については、「機能ボタンの設定」(69ページ)をお読みください。

8. メッセージのシャッフル再生

[F1] ボタンを押します。組合せメッセージに登録しているメッセージをシャッフルし、再生します。



■組合せ以外シャッフルの使いかた

1. 組合せメッセージの作成

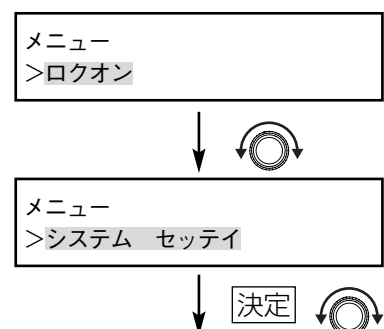
SDメモリーカードA面のメッセージ番号010から030までをシャッフル再生の対象とし、組合せメッセージ番号02にSDメモリーカードA面のメッセージ番号001から005までを登録します。組合せメッセージの作成方法については、「組合せメッセージの作成のしかた」(54ページ)をお読みください。

2. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

3. システム設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。



4. シャッフル再生画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、シャッフル再生画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 組合せ以外シャッフルA面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、組合せ以外シャッフルA面を選択し、[決定] ボタンを押します。

6. 設定メニューを終了する

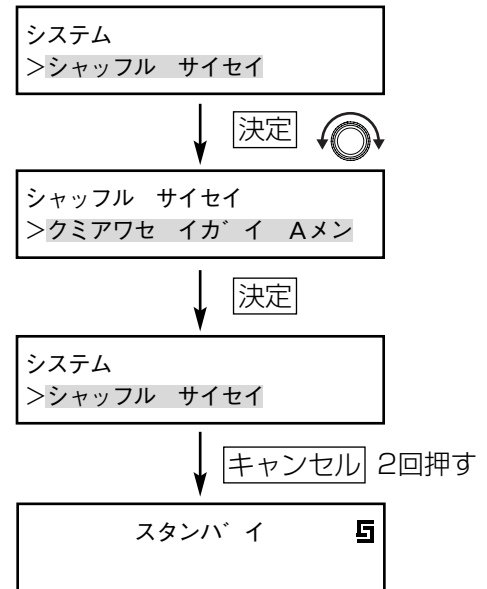
[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

7. メッセージを機能ボタンに割り付ける

作成した組合せメッセージ番号02を [F2] ボタンに設定します。設定の方法については、「機能ボタンの設定」(69ページ)をお読みください。

8. メッセージのシャッフル再生

[F2] ボタンを押します。組合せメッセージを構成するメッセージを除く、SDメモリーカードA面のメッセージをシャッフルし、再生します。設定します。



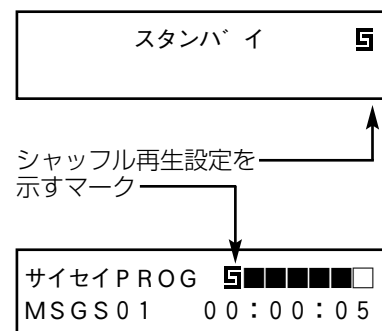
操作のしかた

- 組合せメッセージやプログラムメッセージで無音区間を設定していても、シャッフル再生時は、無効になります。
- 選択した組合せメッセージやプログラムメッセージの繰り返し回数を2回以上に設定し、シャッフル再生することができます。たとえば、繰り返し回数を5回とした場合、シャッフル再生を5回繰り返します。

■シャッフル再生設定時の液晶ディスプレイ表示

シャッフル再生設定時には、液晶ディスプレイにシャッフル再生設定を示すマークが表示されます。

また、メッセージを再生したときも、シャッフル再生設定を示すマークが表示されます。



メッセージのチェックのしかた

組合せメッセージ／プログラムメッセージで使用されているメッセージを強制的に削除した場合、メッセージと音源データが不一致になることがあります。本機では、メッセージのチェックをし、異常がないかを確認できます。異常が発生した場合は、設定支援ソフトで修正できます。修正のしかたは、設定支援ソフトの取扱説明書をお読みください。

ここでは、整合性を確認する方法について説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. データチェック画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、データチェック画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. メッセージのチェックをする

メッセージチェック中は「**」が右に少しずつスクロールします。

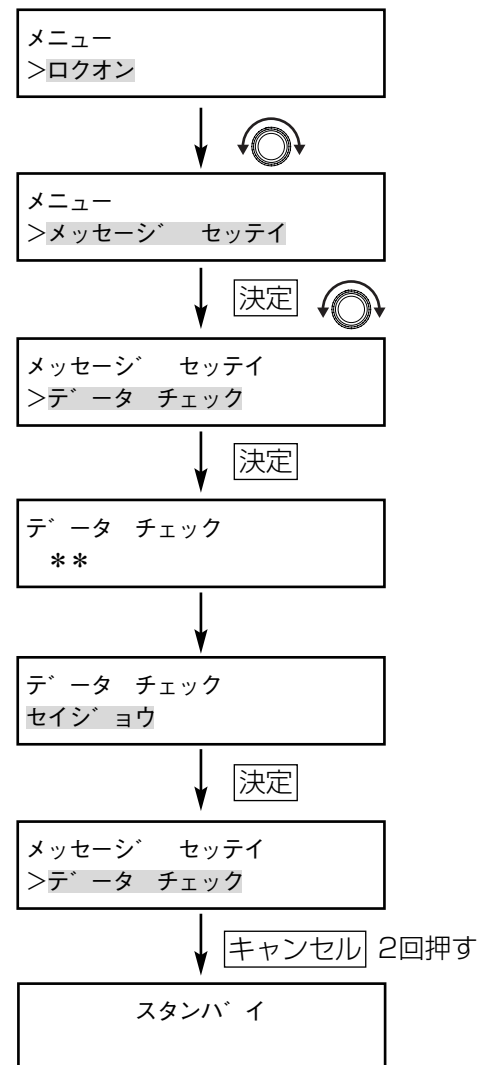
メッセージチェックが完了すると、結果を表示します。

[決定] ボタンを押すと、手順3の画面に戻ります。

「イジョウ」と表示された場合は、設定支援ソフトで修正してください。

5. メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



キーロックの設定／解除のしかた

■キーロックの設定

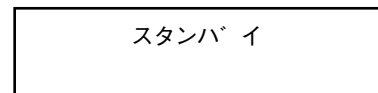
本機の前面パネルの各種ボタンの操作を禁止できます（キーロック）。誤ってボタン操作したり、勝手に機器を操作されることを防止します。



- キーロック状態になると、[選択] ダイアルと [メニュー]、[決定]、[F1]、[F2] の5つのボタン操作ができなくなります。
- [キャンセル] ボタンは常に有効です。キーロックの設定をしても、放送を停止できますので注意してください。

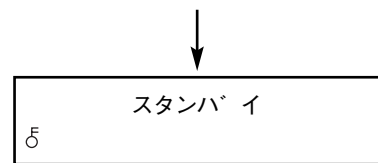
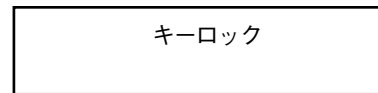
1. スタンバイ状態になっていることを確認する

液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されていることを確認してください。



2. キーロック状態にする

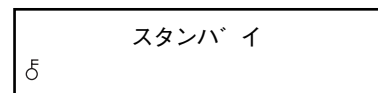
[キャンセル] ボタンを押しながら、[選択] ダイアルを右に3クリック以上回します。
キーロック状態になると、液晶ディスプレイに「キーロック」と約2秒間表示されます。そのあと、液晶ディスプレイの画面左下に鍵マークが表示されます。



■キーロックの解除

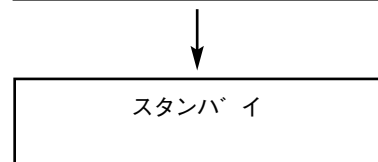
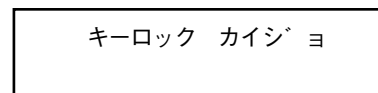
1. スタンバイ状態になっていることを確認する

液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されていることを確認してください。

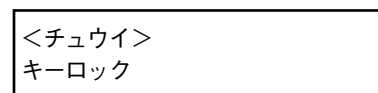


2. キーロックを解除する

[キャンセル] ボタンを押しながら、[選択] ダイアルを右に3クリック以上回します。
キーロック状態が解除されると、液晶ディスプレイに「キーロック カイジヨ」と約2秒間表示されます。



- キーロック中に [選択] ダイアルと [メニュー]、[決定]、[F1]、[F2] を操作すると、右図が4秒間表示されます。



フェードアウト時間の設定のしかた

本機は、接点制御入力のメッセージ指定方式が「ダイレクト」、「ダイレクト+スタート」の場合は、接点制御入力によりメッセージの再生を終了する際に、音量をフェードアウトさせて終了させることができます。（出荷時は0秒に設定されており、すぐに音声は停止します。）

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. システム設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. フェードアウト設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、フェードアウト設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

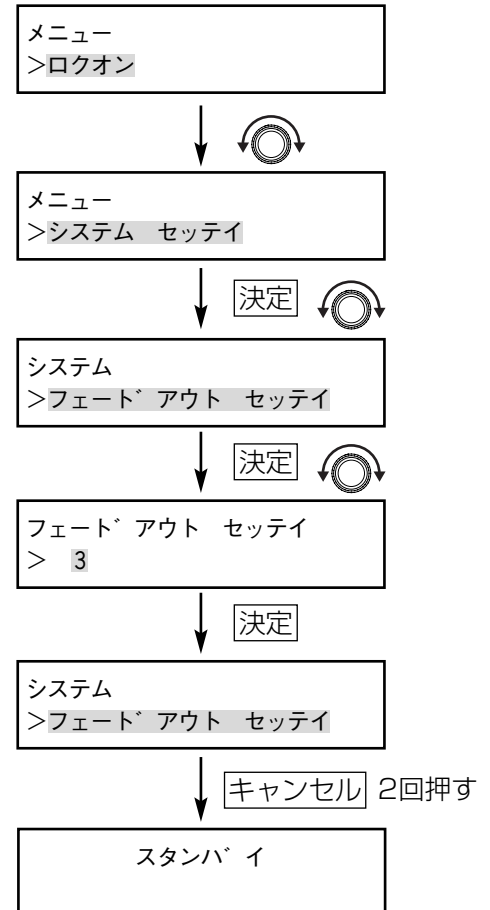
4. フェードアウト時間を設定する

[選択] ダイヤルを回して、フェードアウト時間を選択し、[決定] ボタンを押します。

フェードアウト時間は1～10秒で、1秒間隔で設定できます。0に設定すると、フェードアウトせずに終了します。

5. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- フェードアウト中のレベルメータ表示は、フェードアウト処理の前の音量を元に表示しています。

機能ボタンを使った再生のしかた

本機前面の機能ボタン（F1、F2）に、メッセージ番号を割り当てると、ワンプッシュ操作でメッセージや組合せメッセージを再生できます。

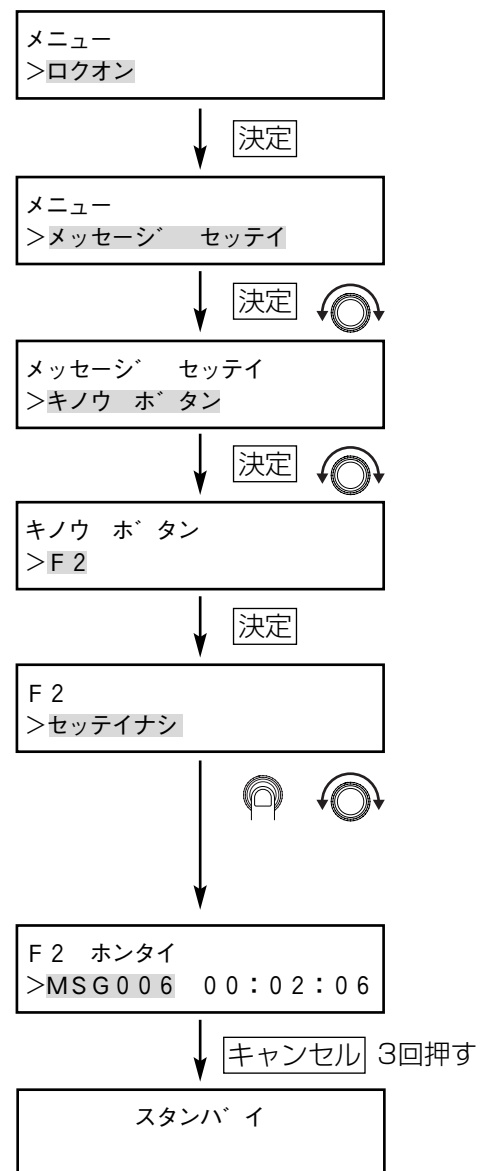
機能ボタンへのメッセージ番号の割り当てについては、「機能ボタンの設定」（本ページ）をお読みください。

■機能ボタンの設定

前面パネルの機能ボタン（F1、F2）にメッセージや組合せメッセージを割り当てます。

ここでは、内蔵メモリーに保存されているメッセージ番号006を [F2] ボタンに割り当てる場合を例に説明します。

1. **メニュー画面を表示する**
[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **メッセージ設定画面を選択する**
[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。
3. **キノウボタン設定画面を選択する**
[選択] ダイアルを回して、キノウボタン設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。
4. **「F2」を選択する**
[選択] ダイアルを回して、「F2」を選択し、[決定] ボタンを押します。
5. **メッセージ番号006を割り当てる**
液晶ディスプレイに現在設定しているメッセージ番号が表示されます。工場出荷時は「セッテイナシ」と表示されています。
[選択] ダイアルを押し表示を「ホンタイ」に変え、[選択] ダイアルを回してメッセージ番号006を選択し、[決定] ボタンを押します。
6. **編集メニューを終了する**
[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」表示されます。



こんな使いかたもできます

■機能ボタンを使った再生

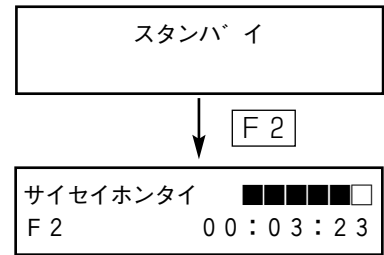
1. 液晶ディスプレイに「スタンバイ」と表示されていることを確認する

メニュー表示や、録音に設定されていないことを確認します。
液晶ディスプレイには「スタンバイ」と表示されています。

2. [F1] ボタンまたは [F2] ボタンを押す

[F1] ボタンまたは [F2] ボタンを押します。機能ボタンに割り当てられたメッセージ番号、または組合せメッセージ番号を再生します。

液晶ディスプレイには、押したボタン、再生時間、再生しているメッセージの領域、レベルメーターが表示されます。



- [選択] ダイアルを1回押すと再生残時間が表示されます。再度押すとメッセージ名称が表示されます。
- メッセージ/組合せメッセージの再生が終了すると、画面が「スタンバイ」に切り換わります。

電源投入時自動再生設定のしかた

本機の電源を投入して、運用中状態（「スタンバイ」表示）になったときに、自動的に再生するメッセージを設定します。

ここでは、SDメモリーカード上の組合せメッセージ番号13を自動再生する場合について説明します。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. システム設定画面を選択する

[選択] ダイヤルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 自動再生設定画面を選択する

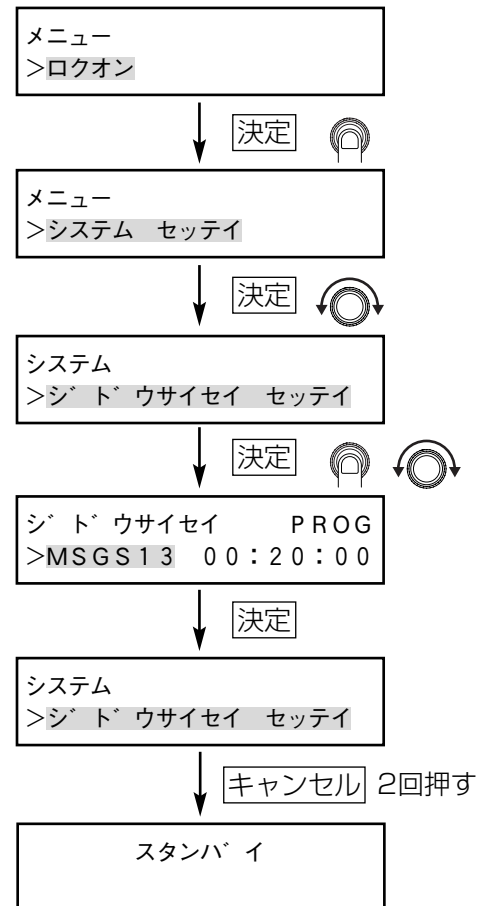
[選択] ダイヤルを回して、自動再生設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. 自動再生するメッセージを選択する

SDメモリーカード上の組合せメッセージ番号13を選択する場合、画面上は、「セッテイナシ」が表示されています。[選択] ダイヤルを押して、保存している領域を「PROG」に切り換えます。続いて [選択] ダイヤルを回して、組合せメッセージ番号13を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- 電源投入時自動再生設定による再生中は、接点制御入力端子や通信接続によるメッセージ再生の入力は無効となります。

再生遅延設定のしかた

動作中出力端子と電源制御入力のあるアンプを接続し、アンプの電源制御を行った場合、アンプの起動に時間がかかる場合があります。接続するアンプによっては、動作中出力信号の出力と同時にメッセージを再生した場合、アンプに接続されているスピーカー出力でメッセージの頭切れが発生する場合があります。

再生遅延設定を行うと、動作中出力信号の出力とメッセージ再生の間隔を設定できます。これにより、メッセージの頭切れを防止できます。

この設定を行うと、本機で再生するすべての音源に適用されます。

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. システム設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 再生遅延設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、再生遅延設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

4. 再生遅延時間を設定する

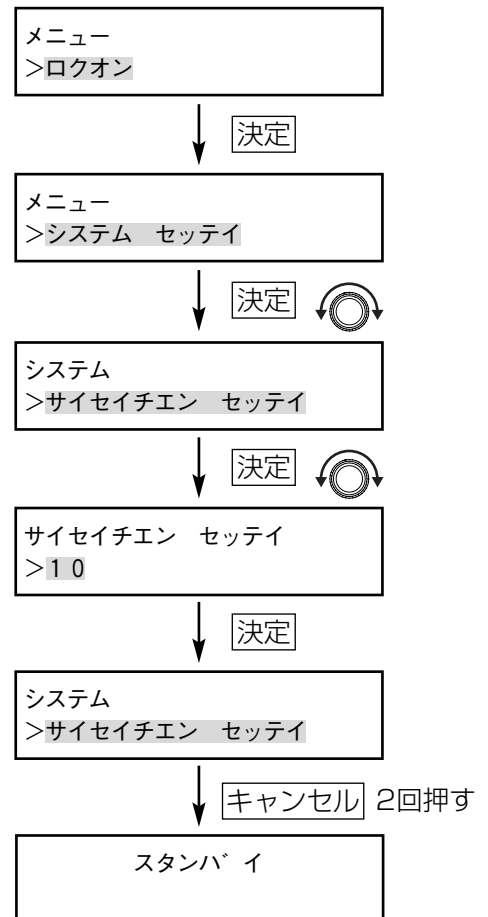
[選択] ダイアルを回して、再生遅延時間を設定し、[決定] ボタンを押します。

再生遅延時間は1～10秒で、1秒間隔で設定できます。0に設定すると、再生遅延はしません。

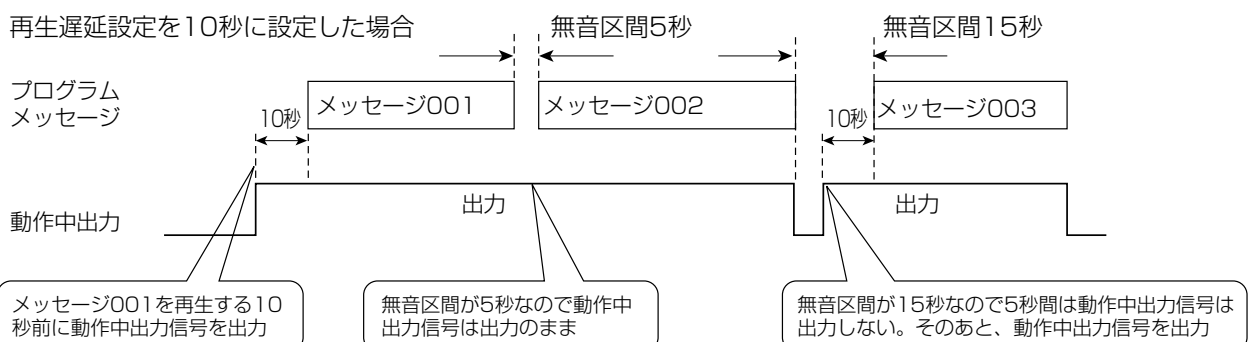
5. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。

設定後、必ずメッセージを再生して、メッセージの頭が切れないことを確認してください。



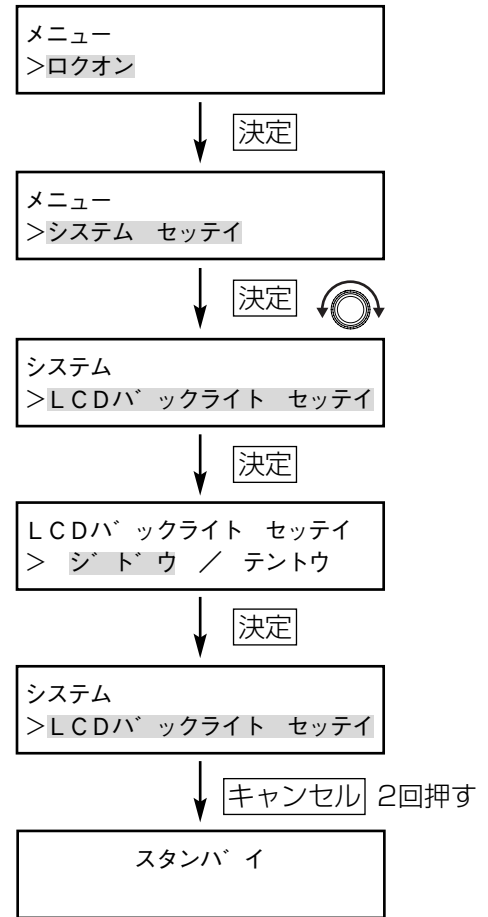
- プログラムなどの無音区間が再生遅延設定より短い場合は、動作中出力信号は、出力されたままです。
- プログラムなどの無音区間が再生遅延設定より長い場合は、動作中出力信号は、いったん出力されなくなったあと、再度出力します（たとえば、無音区間が15秒で、再生遅延設定が10秒の場合、動作中出力信号は5秒間出力停止、10秒間出力となります）。トータルの無音区間は変わりません。（下図をご参照ください。）




液晶ディスプレイ (LCD) バックライトの点灯設定のしかた

LCDバックライトは自動／常時点灯の切り換えができます。

1. **メニュー画面を表示する**
[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **メッセージ設定画面を選択する**
[選択] ダイアルを回して、システム設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。
3. **LCDバックライト設定画面を選択する**
[選択] ダイアルを回して、LCDバックライト設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。
4. **LCDバックライトの設定をする**
LCDバックライトを常時点灯にする場合は、[選択] ダイアルを回して、「テントウ」を選択し、[決定] ボタンを押します。
5. **メニューを終了する**
[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



操作のしかた

 • 「ジドウ」に設定すると、前面パネルの操作や接点制御入力、通信制御による再生ごとに点灯し、約60秒後に自動消灯します。

設定支援ソフトについて

設定支援ソフトでできること

設定支援ソフトでは、次のことが行えます。

- ・運用データの新規作成／編集ができます。作成／編集した運用データは、SDメモリーカードを使って、本機に読み込みます。「運用データについて」の「運用データのロードのしかた」をお読みください。(80ページ)
- ・本機で作成した運用データは、SDメモリーカードを使って、設定支援ソフトで管理できます。「運用データのバックアップのしかた」(79ページ) または「運用データのセーブのしかた」(78ページ)をお読みください。作成した運用データは、設定支援ソフトで管理することをおすすめします。

操作のしかた

設定支援ソフトの動作環境は、以下のとおりです。

対応PC
下記対応のOS（日本語）がインストールされたPC
対応OS
Microsoft® Windows® 2000 Professional Service Pack 4
Microsoft® Windows® XP Professional Service Pack 2
Microsoft® Windows® XP Home Edition Service Pack 2

CPU	Intel® Pentium III® 500 MHz以上
メモリ	128 MB以上（OSの動作条件に依存）
ディスプレイ	High Color（16-bit）以上 解像度 1024×768ピクセル以上
ハードディスク	100 MB以上の空き領域
サウンド	Windows互換サウンドデバイス
インターフェース	SDメモリーカード（最大2 GB）が使用できること
ドライブ	CD-ROMドライブ（設定支援ソフトインストール用）
その他	Adobe® Reader®（取扱説明書を閲覧するため） Microsoft® Direct X 9.0C以降がインストールされていること



- 推奨環境のすべてのPCについて動作を保証するものではありません。
- 上記対応OS以外のWindows環境での動作は保証していません。
- 64ビットOS搭載のPCには対応していません。
- システム管理者権限（Administrator）のユーザーのみでインストールできます。
- インストールしたユーザーのみ使用可能です。
- 自作によるPCでの動作は保証していません。
- ほかのアプリケーションが同時に起動している場合は、上記条件のかぎりではありません。

インストール方法

ここでは、WZ-DP150/250設定支援ソフトのインストール方法について説明します。

1. PCの電源を入れ、Windowsを起動する
2. 付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに入れる

Windowsのスタートメニューで「ファイル名を指定して実行」をクリックし、「*:¥WZ-DP150_250¥setup.exe」と入力し、「OK」をクリックしてください。

*部分はCD-ROMドライブのIDです。(例：CD-ROMドライブがDドライブの場合、「D:¥WZ-DP150_250¥setup.exe」)
セットアップウィザードが表示されます。

3. [次へ] をクリックする

使用許諾画面が表示されます。



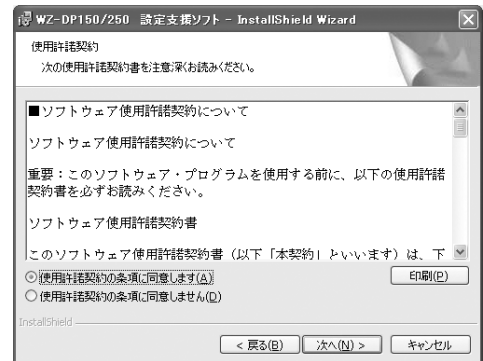
- インストールを中止する場合は、[キャンセル] を押ししてください。



4. 「使用許諾」をよく読み、使用許諾に同意する場合は「使用許諾契約書の条項に同意します」をチェックし、[次へ] をクリックする

インストールが開始されます。

インストールが終了するとセットアップの終了画面が表示されます。



5. [完了] をクリックする

セットアップの終了画面を閉じます。



- インストールが完了すると、デスクトップ上にショートカットアイコンが自動的に作成されます。また、「スタート」 - 「プログラム」メニューにショートカットが自動的に作成されます。



6. CD-ROMドライブから付属のCD-ROMを取り出す



- 設定支援ソフトの使用方法については、WZ-DP150/250設定支援ソフト取扱説明書をお読みください。

操作のしかた

アンインストール方法

ここでは、WZ-DP150/250設定支援ソフトのアンインストール方法について説明します。

1. 「コントロールパネル」を表示する

Windowsの「スタート」メニューから「コントロールパネル」を選びます。

Windows2000をご使用の場合は「スタート」メニューから「設定」を選択し、続けて「コントロールパネル」を選択します。

2. 「プログラムの追加と削除」をクリック

プログラムの追加と削除画面が表示されます。

Windows2000をご使用の場合は、「アプリケーションの追加と削除」をクリックしてください。

3. 「WZ-DP150/250設定支援ソフト」をクリックし、「削除」をクリックする

確認画面が表示されます。



4. 「はい」をクリックする

「WZ-DP150/250設定支援ソフト」が削除されます。



- 確認画面で「いいえ」をクリックすると、アンインストールを中止します。

運用データについて（応用編）

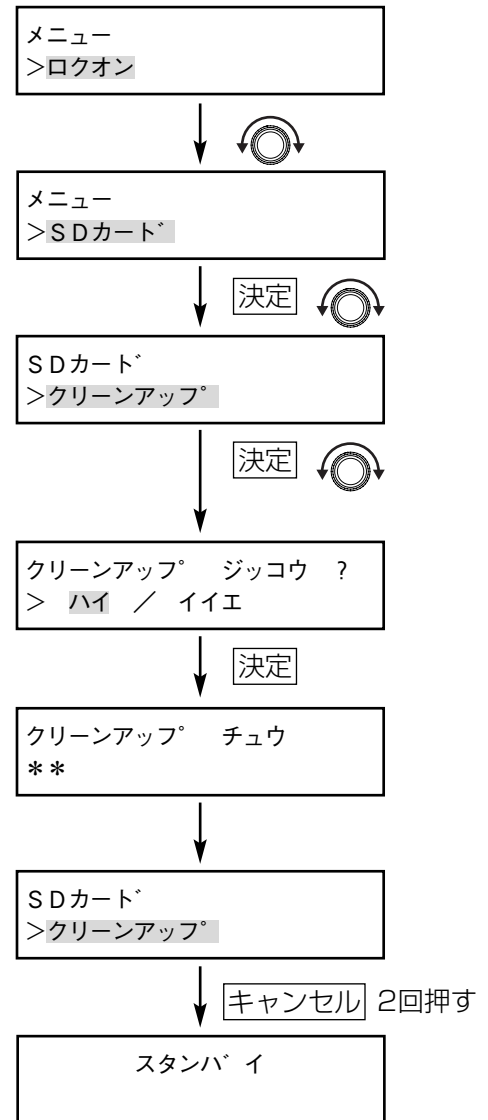
音源データのクリーンアップ

SDメモリーカードの音源ファイルで、メッセージとして使用していないものを自動的に削除できます。SDメモリーカードの容量が不足したときに使用してください。

- 1. メニュー画面を表示する**
[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
- 2. SDカード画面を選択する**
[選択] ダイヤルを回して、「SDカード」を選択し、[決定] ボタンを押します。
- 3. クリーンアップ画面を選択する**
画面上に、「ウンヨウデータカンリ」と表示されていることを確認し、[選択] ダイヤルを回して、「クリーンアップ」を選択し、[決定] ボタンを押します。
- 4. 「ハイ」を選択する**
[選択] ダイヤルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。
- 5. クリーンアップが実行されます**
クリーンアップが実行されます。画面上は「**」が表示され、右に移動します。
- 6. 編集メニューを終了する**
クリーンアップが終了すると、手順3の画面に戻ります。[キャンセル] ボタンを2回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- クリーンアップ中はSDメモリーカードを抜かないでください。正常に動作しなくなったり、データが破壊されることがあります。



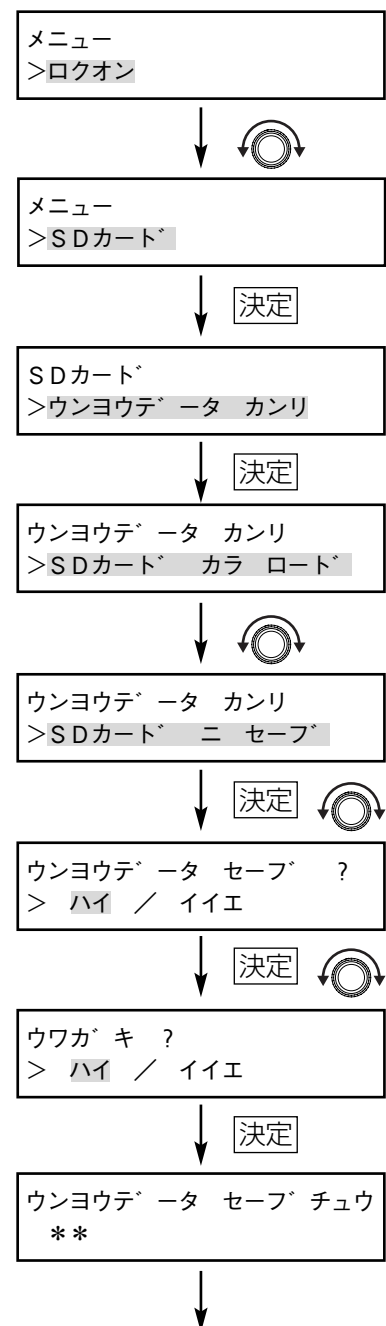
運用データのセーブ、バックアップ、ロードの方法

本機の設定をSDメモリーカードに保存する方法として、「セーブ」と「バックアップ」の2種類があります。「セーブ」は内蔵メモリーに保存されている内容をSDメモリーカードに更新します。本機で録音したメッセージを別のWZ-DP150/250で使用する場合に使用します。「バックアップ」は運用データすべてをバックアップします。設定支援ソフトで管理する場合に使用します。

設定支援ソフトで作成／編集した運用データを有効にするには、運用データをSDメモリーカードからロード（読み込み）します。

■運用データのセーブのしかた

- 1. メニュー画面を表示する**
[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
- 2. SDカード画面を選択する**
[選択] ダイアルを回して、SDカード画面を選択し、[決定] ボタンを押します。
- 3. 運用管理画面を選択する**
画面上に、「ウンヨウデータ カンリ」と表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。
- 4. 「SDカード ニ セーブ」を選択する**
画面上に、「SDカード カラ ロード」が表示されていることを確認し、[選択] ダイアルを回して、「SDカード ニ セーブ」を選択し、[決定] ボタンを押します。
- 5. 「ハイ」を選択する**
データ更新確認画面が表示されます。[選択] ダイアルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。
- 6. さらに「ハイ」を選択する**
上書き確認画面が表示されます。[選択] ダイアルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

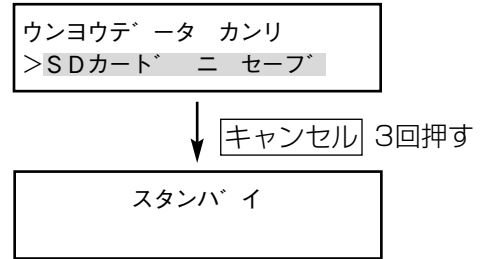


7. 編集メニューを終了する

内蔵メモリーの情報にSDメモリーカードにセーブします。
セーブが終了したあと、[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- 運用データの更新時間は最大10秒です。



■運用データのバックアップのしかた

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. SDカード画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、SDカード画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 運用管理画面を選択する

画面上に、「ウソヨウデータ カンリ」と表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

4. 「SDカードニバックアップ」を選択する

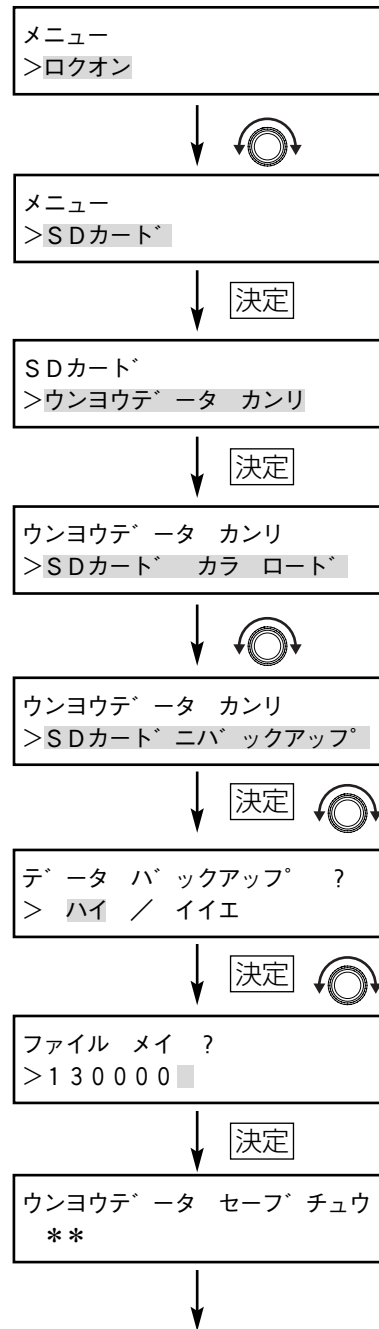
画面上に、「SDカード カラ ロード」が表示されていることを確認し、[選択] ダイアルを回して「SDカードニバックアップ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

5. 「ハイ」を選択する

データバックアップ確認画面が表示されます。[選択] ダイアルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

6. バックアップするファイル名を入力する

バックアップするファイル名を入力します。「文字入力のしかた」(31ページ)をお読みください。
本機側で、6文字分の名称候補を表示しますので、修正して[決定] ボタンを押してください。

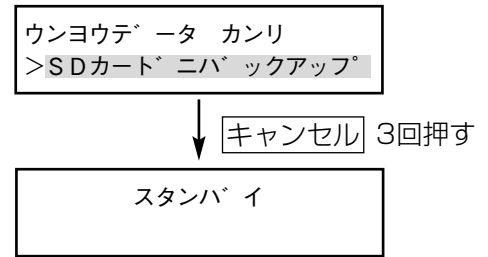


(⇒次ページへ続く)

運用データについて（応用編）

7. 編集メニューを終了する

運用データをSDメモリーカードにバックアップします。バックアップが終了したあと、[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- 保存する際、SDメモリーカードの容量が不足していると、「SDカード ヨウリョウフソク」と2秒間表示され、手順5の画面に戻ります。たとえば、運用データが500 MBあった場合、SDメモリーカードの空き容量は500 MB以上必要です。
- 入力したファイル名と同じファイル名でSDメモリーカード内に保存されている場合、「ウワガキ」確認画面が表示されます。「ハイ」を選択すると入力したファイル名で上書き保存し、「イイエ」を選択すると、手順6の画面に戻ります。
- 運用データが1 GBあった場合のバックアップ時間は約11分かかります。

■運用データのロードのしかた

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. SDカード画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、SDカード画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. 運用管理画面を選択する

画面上に、「ウノヨウデータ カンリ」と表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。

4. 「SDカード カラ ロード」を選択する

画面上に、「SDカード カラ ロード」と表示されていることを確認し、[決定] ボタンを押します。



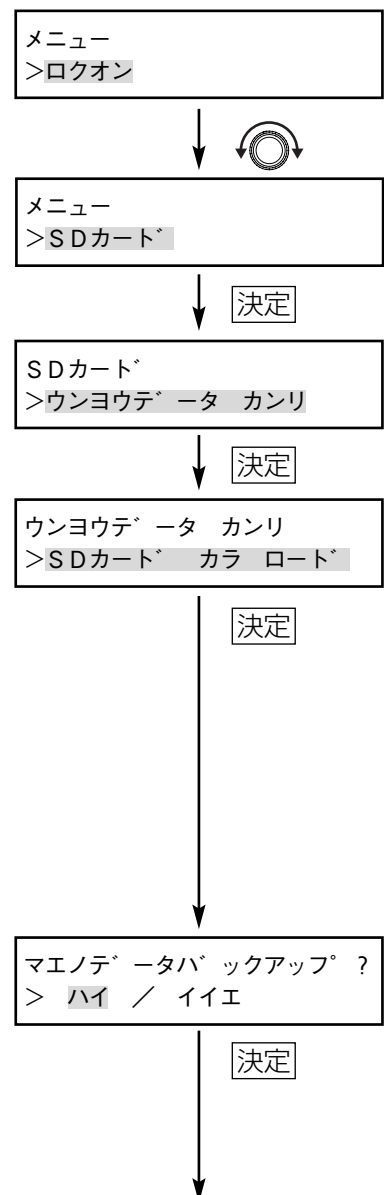
- 内蔵メモリーに保存しているメッセージをプロテクトしているときにロードすると、「ホンタイ プロテクト チュウ」と表示されます。[決定] ボタンを押したあと、上書き確認画面が表示されます。「ハイ」を選択すると、手順5の画面が表示されます。「イイエ」を選択すると手順4の画面に戻ります。

5. 内蔵メモリーの音源データをバックアップする

[選択] ダイアルを回して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。



- 「イイエ」を選択すると、内蔵メモリーに保存されたメッセージが削除されます。



6. バックアップする音源データのファイル名を入力する

6文字分の名称候補が表示されます。ファイル名を変えたい場合は、「文字入力のしかた」（31ページ）をお読みください。ファイル名を決定したら、[決定] ボタンを押します。



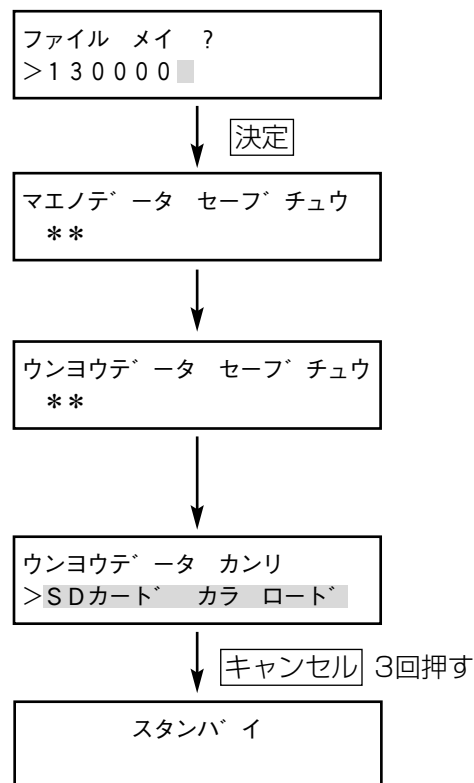
- 同じファイル名がSDメモリーカード上にある場合は、上書き確認画面が表示されます。
- 設定支援ソフトでバックアップした音源データを取り込み、使用できます。設定支援ソフトでの音源データの取り込み方法については、設定支援ソフト取扱説明書をお読みください。
- 運用データを読み込む時間は最大2分かかります。

7. 編集メニューを終了する

音源データの保存、運用データのロードを行います。運用データのロードが終了したあと、[キャンセル] ボタンを3回押すと、「スタンバイ」と表示されます。



- ロードすると、内蔵メモリーに保存されているメッセージデータも上書きされます。
- ロードするファイルに異常があると、「データエラー」と表示され、データがロードされません。設定支援ソフトで再度修正してください。
- 内蔵メモリー容量以上のデータをロードした場合、「ヨウリョウオーバー」と表示され、データがロードされません。設定支援ソフトで再度修正してください。



内蔵メモリーについて(応用編)

内蔵メモリーの録音空き容量を増やす方法 DP250

- ・本機は、工場出荷時は8つのメッセージが内蔵メモリーに登録されています。
- ・この内蔵メモリーに登録されているメッセージを削除することで、内蔵メモリーの録音空き容量を約7.5 MBまで増やすことができます。
- ・工場出荷時は内蔵メモリーに登録されているメッセージはプロテクトされています。プロテクトされているメッセージを削除するには、プロテクトを解除してからメッセージを削除してください。
- ・設定支援ソフトを使って内蔵メモリーのメッセージをクリアし、作成した運用データを内蔵メモリーにロードすると、内蔵メモリーの録音空き容量を増やすことができます。メッセージのクリアについての詳細は、設定支援ソフト取扱説明書の「メッセージの作成」をご覧ください。
- ・以下に内蔵メモリーに登録されているメッセージを削除して、録音容量を増やす場合について説明します。

操作のしかた

1. メニュー画面を表示する

[メニュー] ボタンを押して、メニュー画面を表示します。

2. メッセージ設定画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、メッセージ設定画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

3. プロテクト画面を選択する

[選択] ダイアルを回してプロテクト画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

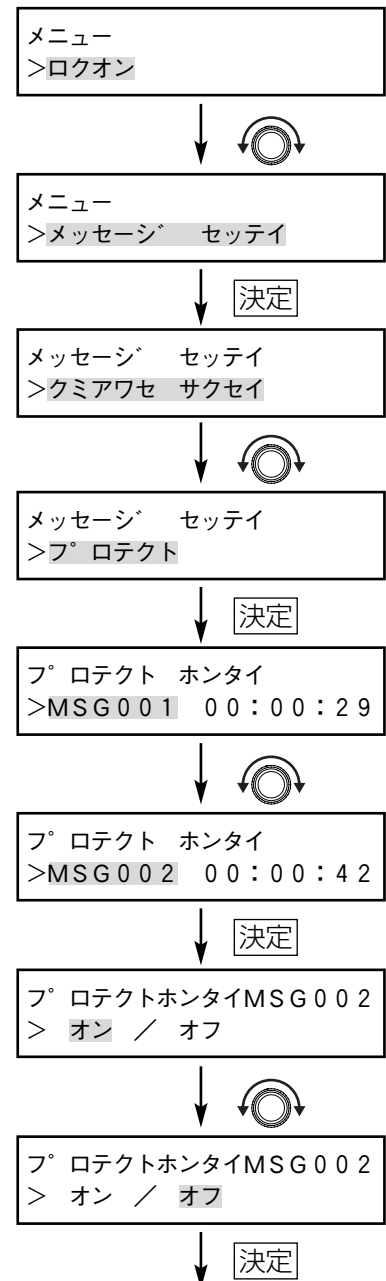
4. プロテクトを解除するメッセージ番号を選択する

内蔵メモリーのメッセージを選択する場合は、「プロテクト ホンタイ」と表示されていることを確認します。[選択] ダイアルを回して、プロテクトを解除するメッセージを選択し [決定] ボタンを押します。

5. 「オフ」を選択する

メッセージプロテクト確認画面が表示されていることを確認して、「オフ」を選択し、[決定]ボタンを押します。選択したメッセージのプロテクトが解除されます。

続けて他メッセージのプロテクトを解除する場合は3~5の操作を繰り返し、削除するメッセージのプロテクトを解除します。



6. 削除画面を選択する

[選択] ダイアルを回して、削除画面を選択し、[決定] ボタンを押します。

7. 削除するメッセージ番号を選択する

内蔵メモリーのメッセージを選択する場合は、「サクジヨ ホンタイ」と表示されていることを確認します。[選択] ダイアルを回して、削除するメッセージを選択し、[決定] ボタンを押します。



- メッセージがプロテクトされている状態で削除を実行すると、下記の画面が表示され、メッセージを削除することができません。
[キャンセル] ボタンを押し、3~5の操作を行ってメッセージのプロテクトを解除してから削除を行ってください。

```
MSG001
フ°ロテクト
```

8. 「ハイ」を選択する

メッセージ削除確認画面が表示されていることを確認して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

9. ファイルの削除で「ハイ」を選択する

ファイルの削除確認画面が表示されていることを確認して、「ハイ」を選択し、[決定] ボタンを押します。

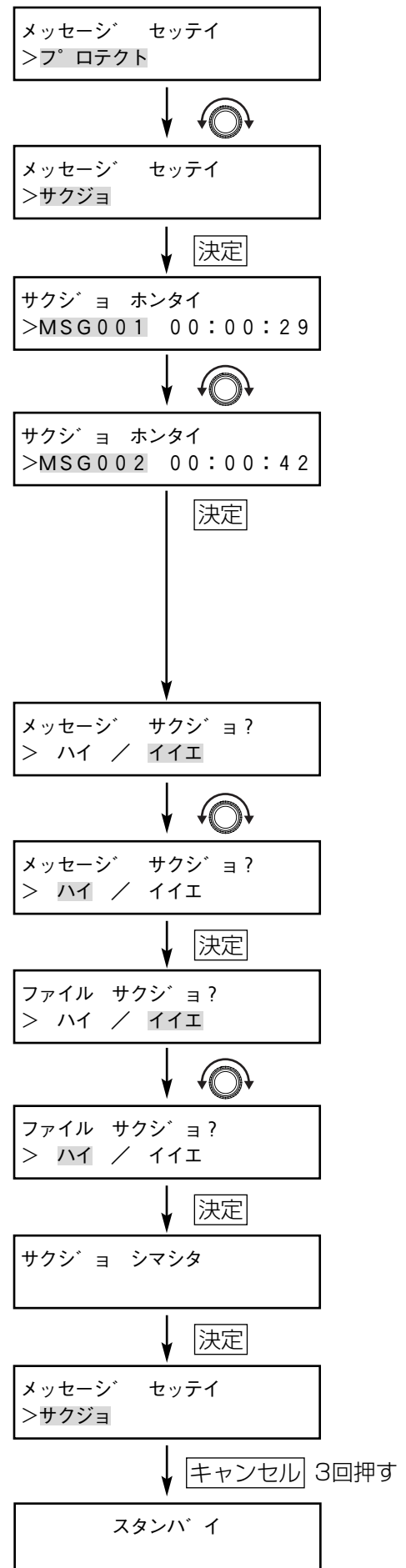
10. [決定] ボタンを押す

削除完了画面が表示されていることを確認して、[決定] ボタンを押します。

続けて他のメッセージを削除する場合は6~10の操作を繰り返し、複数のメッセージを削除します。

11. 編集メニューを終了する

[キャンセル] ボタンを3回押すと「スタンバイ」と表示されます。



工場出荷時のメッセージをリストアする方法

- ・設定支援ソフトを使って、工場出荷時の内蔵メモリーに登録されているメッセージをリストアすることができます。
- ・本機に付属されているCD-ROMには、内蔵メモリーに登録されているメッセージと同じ音源ファイルが含まれています。これらの音源ファイルを、設定支援ソフトで内蔵メモリーにメッセージとして割り当て、本機にロードすると内蔵メモリーのメッセージをリストアすることができます。
- ・内蔵メモリーに登録されているメッセージをリストアする方法は、以下のとおりです。

1. 内蔵メモリーデータをSDメモリーカードにセーブする **本機**

本機の設定情報や内蔵メモリーのメッセージをSDメモリーカードに書き出します。
SDメモリーカードに書き出す方法については、「運用データのセーブのしかた」をお読みください。

2. SDメモリーカードの運用データを設定支援ソフトで読み込む **支援ソフト**

設定支援ソフトでSDメモリーカードの運用データ「ICPLAYER」を選択し、書き出した運用データを読み込みます。

設定支援ソフトで運用データを読み込む方法については、設定支援ソフト取扱説明書の「運用データの読み込み」をお読みください。

3. CD-ROMから音源ファイルをライブラリに登録する **支援ソフト**

設定支援ソフトでCD-ROMにある音源ファイルをライブラリに登録します。ライブラリに登録した音源ファイルはメッセージとして登録することができます。

音源ファイルをライブラリに登録する方法については、設定支援ソフト取扱説明書の「ライブラリの登録」をお読みください。

CD-ROM

└--- 内蔵音源	: 内蔵音源フォルダ
└--- MSG001.MP3	: ウェストミンスターの鐘
└--- MSG002.MP3	: ウェストミンスターの鐘+重音
└--- MSG003.MP3	: 重音
└--- MSG004.MP3	: おもいで
└--- MSG005.MP3	: ラジオ体操第一
└--- MSG006.MP3	: 蛍の光
└--- MSG007.MP3	: コールサイン上り
└--- MSG008.MP3	: コールサイン下り

4. 内蔵メモリーにメッセージを登録する **支援ソフト**

3.でライブラリに登録した音源ファイルを、設定支援ソフトで内蔵メモリーにメッセージとして登録します。メッセージの登録方法については、設定支援ソフト取扱説明書の「メッセージの作成」をお読みください。

5. 運用データをSDメモリーカードに保存する **支援ソフト**

メッセージの登録が完了したら編集した運用データをSDメモリーカードに保存します。運用データの保存方法については、設定支援ソフト取扱説明書の「運用データの保存」をお読みください。

6. 運用データをロードする **本機**

設定支援ソフトで編集した運用データを本機にロードして、本機の内蔵メモリーに設定情報や内蔵メッセージをロードします。

SDメモリーカードから運用データをロードする方法については、「運用データの自動ロード」(25ページ)や「運用データのロードのしかた」(80ページ)をお読みください。

取り扱い上のお願い

設置上のお願い

⚠ 警告

工事は必ず販売店に依頼してください。

工事を行う前に、接続する機器の電源スイッチを「切」にしてください。また、「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

●電源スイッチについて

本機は電源スイッチを「切」にただけでは電源は遮断されません。電源を遮断するときはACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、外部DC電源使用時は、電源供給用のユーロブロックソケットを外してください。

●電源について

ACアダプターの電源プラグは、必ず遮断装置を介して、次のいずれかの方法で接続してください。

- 本機を電源コンセントやブレーカーへ容易に手が届く場所に設置する。
- 3.0 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは、保護アース導体を除くすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 電源制御ユニット（WU-L62）などの電源を遮断できる装置のコンセントを介して接続する。

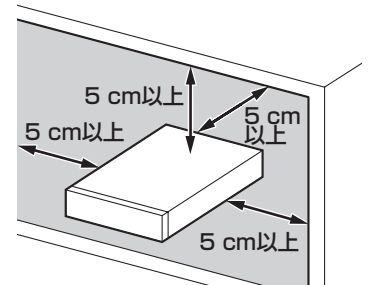
ACアダプターを使わず外部からDC24 Vを供給する場合も、供給機器の電源に対して上記の方法をとってください。自動車用のバッテリーには接続しないでください。

●静電気について

静電気による破損を防止するため、作業を始める前に金属部に手を触れ、人体に帯電している静電気を放電してください。

●設置場所について

- 本機は室内専用機器です。
以下の場所に設置しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所、温風吹き出し口の近く
 - ・水気（湿気）の多い場所、ほこりの多い場所、結露しやすい場所
 - ・厨房など蒸気や油分の多い場所
 - ・スピーカーやテレビ、ワイヤレスマイク受信機などの近く（雑音や誤動作の原因となることがあります）
- 必ず横置きに（水平）に設置してください。
- 壁の近くに設置する場合は、壁から5 cm以上離してください。
- 本機をパワーアンプなど大電力機器の近くに配置するとトランスの漏えい磁束の影響でハムノイズ*が発生することがあります。この場合は、本機との間隔をハムノイズ*が発生しない位置まで離してください。

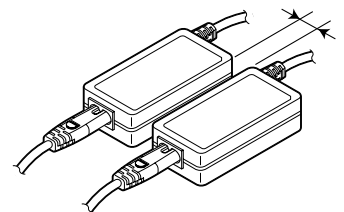


●ACアダプターについて

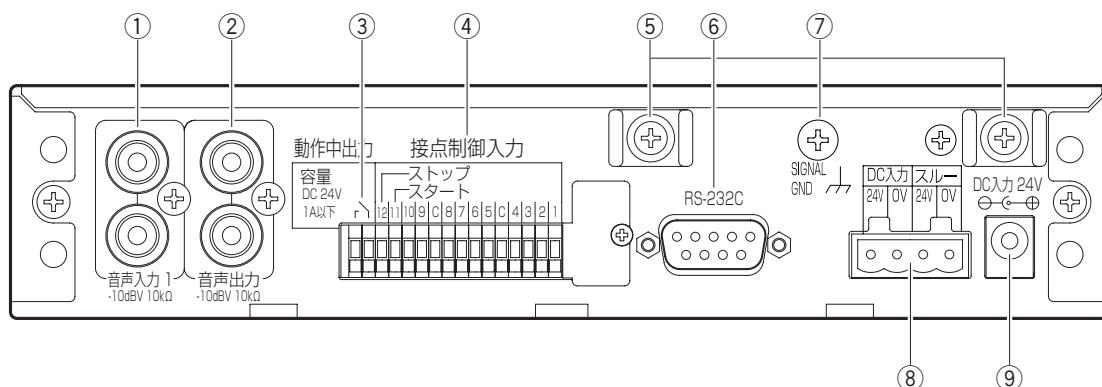
- ACアダプターは、ミキサーやグラフィックイコライザーの近くに置いたり、本機の天面に載せたりしないでください。ハムノイズ*が発生することがあります。
- ACアダプターは、発熱量の多い機器（電力増幅ユニットやパワーアンプなど）から離して設置してください。
- ACアダプターは使用中に温度が高くなる場合があります。複数台設置する場合は、上下に重ねないでください。横に並べる場合は、必ず3 cm以上離して設置してください。

※ハムノイズとは、AC電源（100 V）の影響で音声に混入する「ブーン」という雑音のことです。

横に置く場合は、3 cm以上離す



各部のなまえと働き (後面パネル)



① 音声入力1端子 [音声入力1 -10 dBV 10 kΩ]

外部機器 (CDミュージックプレーヤーなど) の音声を入力します。この音声入力を本機で録音したり、本機で再生した音声とミキシングして音声出力に出力したりできます。

なお、端子は2つありますが、本機内部でモノラルミックスされます。

② 音声出力端子 [音声出力1 -10 dBV 10 kΩ]

本機の再生音を出力します。また、音声入力1端子の音声をモノラルで出力したり、本機の再生音とミキシングして出力できます。端子は2つありますが、同じ音声が出力されます。

③ 動作中出力端子 [動作中出力]

本機から音声を再生しているときにメイク信号を出力します。

④ 制御入力端子 [接点制御入力]

タイマーやスイッチ類を接続し、メッセージ再生を開始させるための端子です。無電圧メイクおよびオープンコレクター出力を持った機器に接続してください。(制御電流3 mA)

⑤ ケーブルクランプ

本機に接続したケーブルを束線する際に利用してください。(91ページ)

⑥ RS-232C用コネクタ [RS-232C]

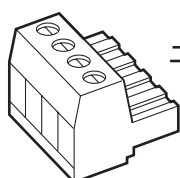
本機を外部制御するとき 사용합니다。ケーブルはRS-232C用クロスケーブルを使用します。プログラムコントローラ (WZ-610) によって制御します。

⑦ アース端子 [SIGNAL GND]

外部機器 (CDミュージックプレーヤーなど) と組合せてシステムとして運用する場合は、各機器間の電位差をなくすため、各機器のアース端子を接続します。

⑧ DC24 V入力端子 [DC入力 (24 V、0 V)、スルー (24 V、0 V)]

付属のACアダプターを使わないで、電源制御ユニットなどの外部機器からDC24 Vを供給する場合に使用します。付属のユーロブロックソケットに接続してください。(89ページ)



ユーロブロックソケット

⑨ ACアダプター用端子

付属のACアダプターを接続します。必ず本機付属のACアダプターを使用してください。

ラックへの取り付けかた

■ラックアングルについて

本機をラックに取り付ける際のラックアングルは、次のいずれかをお使いください。

1台取付時 : 1台取り付け用ラックアングルセット (現地調達)

2台取付時 : 2台取り付け用ラックアングルセット (現地調達)

ラックアングルセットのお買い求め・設置は、お買い上げの販売店へご依頼ください。

■ラックについて

本機を取り付けるラックは、次のいずれかをお使いください。

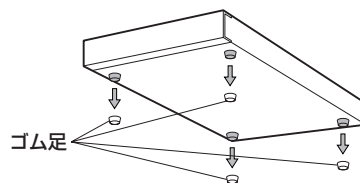
スタンダードラック : WU-RS80 収納ユニット数29U (当社製)

ロングラック : WU-RL85 収納ユニット数41U (当社製)

EIA規格相当品 : EIA19型、奥行き450 mm以上のもの

1. 底面のゴム足 (4個) を取り外す

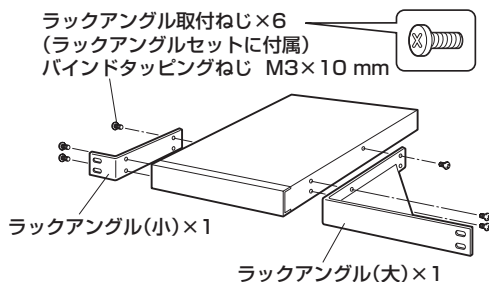
(ゴム足は両面テープで固定されています)



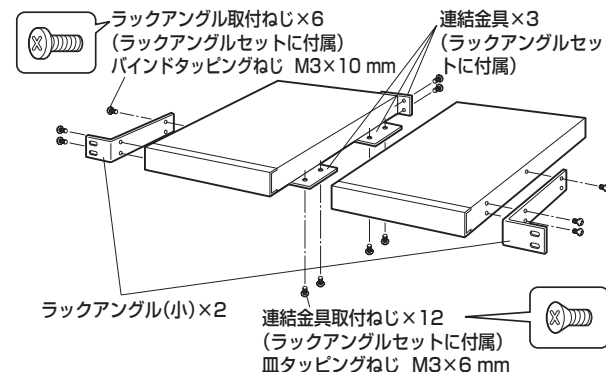
2. 本機両側面にラックアングルを取り付け、ラックアングル取付ねじで確実に固定する

ねじ (M3) の締付トルクは、98~118 N·cm {10~12 kgf·cm} です。

・1台取付時

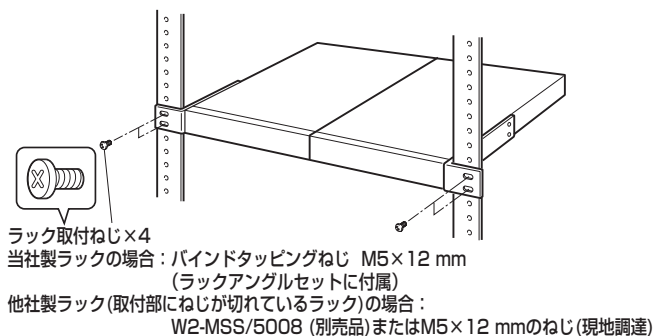


・2台取付時



3. 本機をラックに取り付け、ラック取付ねじ4本で、確実に固定する

ねじ (M5) の締付トルクは、157~177 N·cm {16~18 kgf·cm} です。



- ラック内の温度は、+45℃以上にならないようにしてください。また ACアダプターは+40℃以上にならないよう、発熱量の多い機器 (電力増幅ユニットやパワーアンプなど) から離し、ラック下部に配置してください。
- 本機は発熱量の多い機器 (電力増幅ユニットやパワーアンプなど) の近くに設置しないでください。やむをえず、近くに設置する場合は、上下に1U (44 mm) 以上の間隔をあけてください。
- 本機を複数台ラックマウントする際は、最大3段積み (6台) までとし、それ以上の場合は上下に1Uの間隔を空けてください。
- 他社製ラック (取付部にねじが切れているラック) に取り付ける場合は、別売りのラック取付ねじ (W2-MSS/5008)、またはM5×12 mmのねじ4本 (現地調達) が必要です。ラックアングルセットに付属のラック取付ねじ (バインドタッピングねじM5×12 mm) を使用すると、ラック取付部のねじ山を壊すおそれがあります。

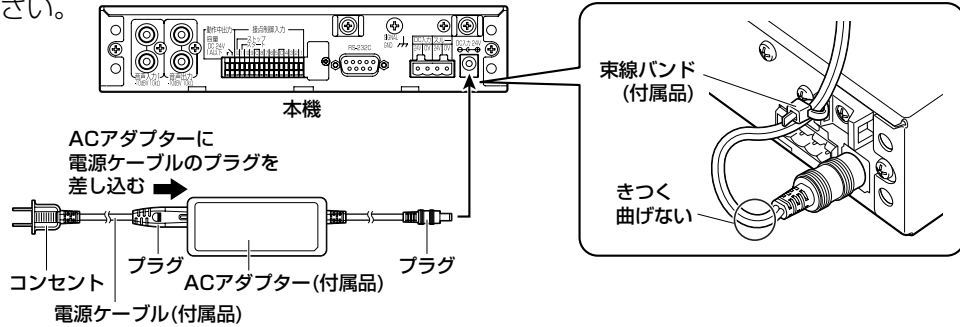
接続のしかた

ACアダプターとの接続

本機をAC100 Vで使用するときは、付属のACアダプターと電源ケーブルを使用します。

電源ケーブルのプラグをACアダプターに差し込み、ACアダプターのプラグを本機後面のACアダプター用端子に接続してください。

また、ACアダプターのプラグが誤って抜けないように、束線バンド（付属品）を使ってACアダプターのプラグの根元を固定してお使いください。

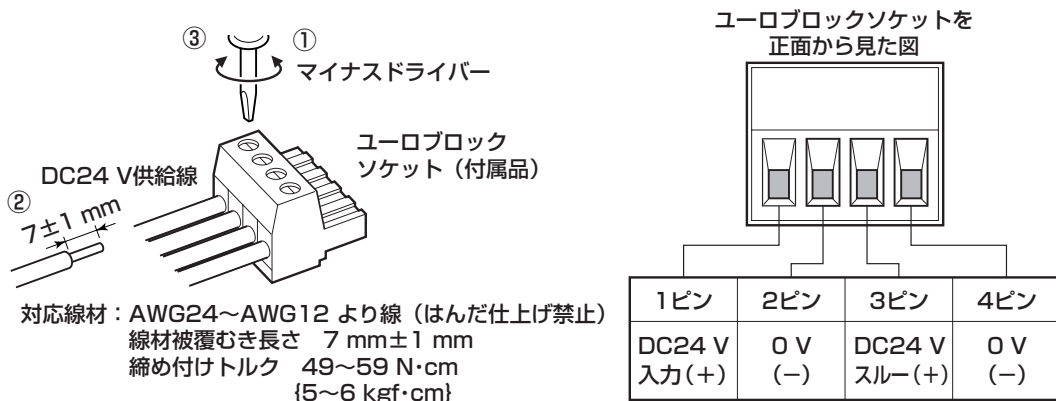


- **重要** ACアダプターは、落下したり強い衝撃や振動が加わらないラック底面などの安定した場所に設置してお使いください。本機をラックに取り付けた場合も同様に設置して、ACアダプターのケーブルにACアダプター本体（黒い箱の部分）の重量がかかるような設置はしないでください。
 - 本機専用ACアダプターと外部DC電源の両方から同時に電源を供給する使いかたはしないでください。
 - ACアダプターは、ミキサーやグラフィックイコライザーの近くに置かないでください。ノイズの原因となることがあります。
- メモ**
- 本機が複数台あるなど、ACアダプターの設置が困難な場合は、外部DC電源から電源を供給する方法もあります。

外部DC電源との接続

本機をDC24 Vで使用する場合、本機後面のDC24 V入力端子（ユーロブロックコネクター）にDC24 V供給線を接続します。必ずユーロブロックソケット（付属品）にDC24 V供給線を接続したあと、本機に接続してください。

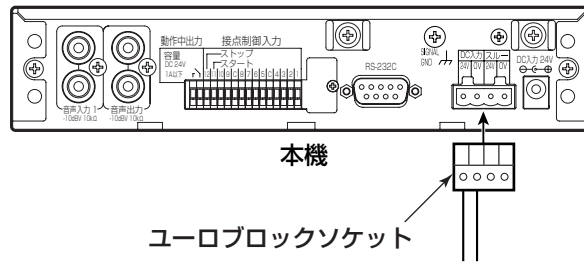
- **重要** 必ず外部DC電源の電源を切の状態、ユーロブロックソケットとDC24 V供給線を接続してください。



- ①ユーロブロックソケット（付属品）の上部のねじを、マイナスイドライバーでゆるめる
- ②線材先端の被覆をむき、ユーロブロックソケットに差し込む
- ③ユーロブロックソケットの上部のねじを、マイナスイドライバーで確実に締め付ける

- ・ DC24 V入力は、必ず1ピンに接続してください。3ピンに接続しても機器内部にはDC24 Vが供給されません。
- ・ 外部機器からDC24 Vを供給する場合、3ピンのDC24 Vスルー端子を使って、わたり接続できます。わたり接続は最大4台までとしてください。(最大電流1 A)また、このDC24 Vスルー端子は、内部で過電流保護されています。

接続のしかた

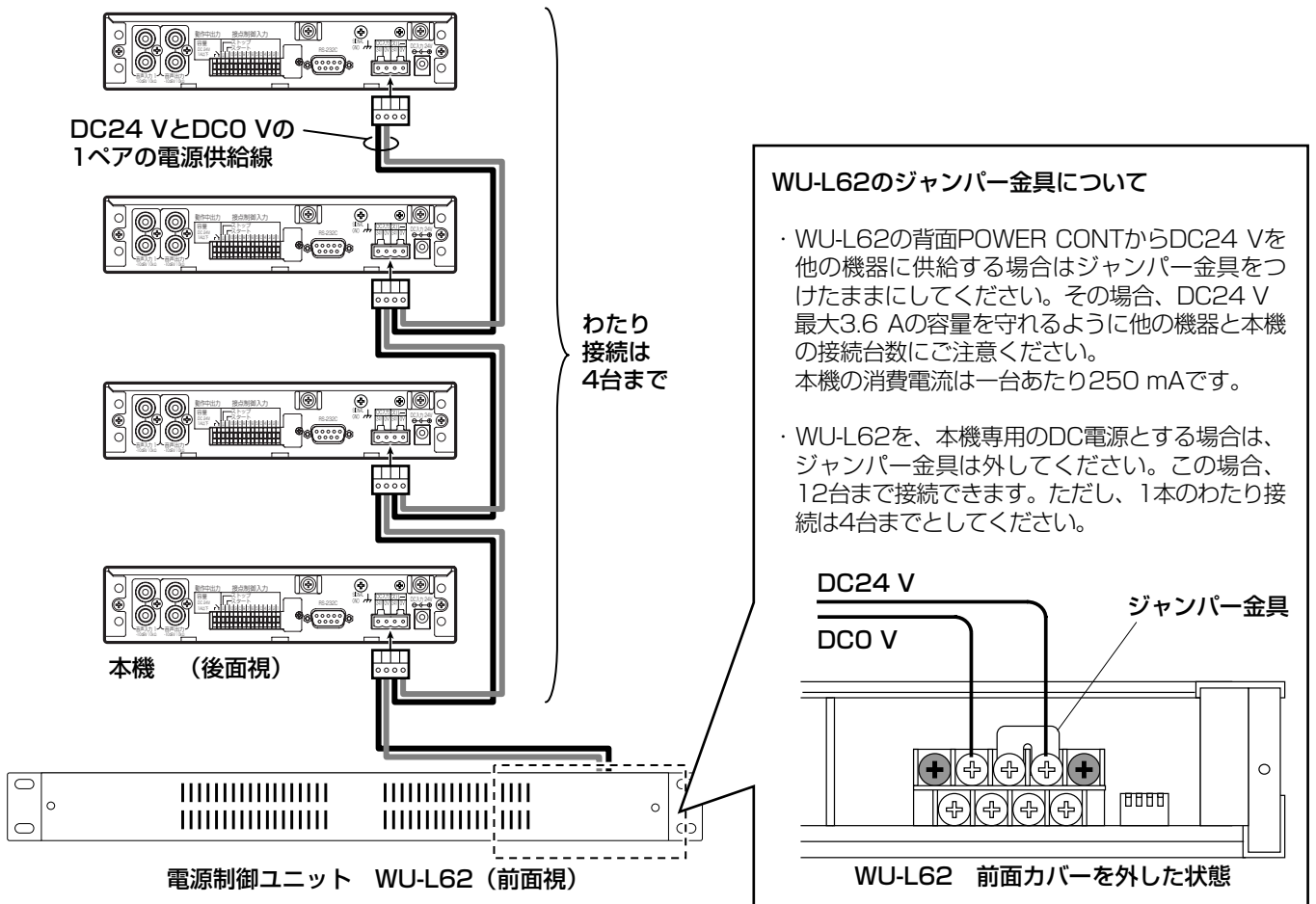


- 極性 (+, -) を正しく接続してください。逆に接続すると本機のみならず、ほかのシステム接続機器にも悪影響を与えますので、十分注意してください。
- DC24 V以外は接続しないでください。
- ユーロブロックソケットは根元まで確実に差し込んでください。
- 本機専用ACアダプターをご使用の場合、3ピンのDC24 Vスルー端子からはDC24 Vは供給できません。

■電源制御ユニット (WU-L62) との接続

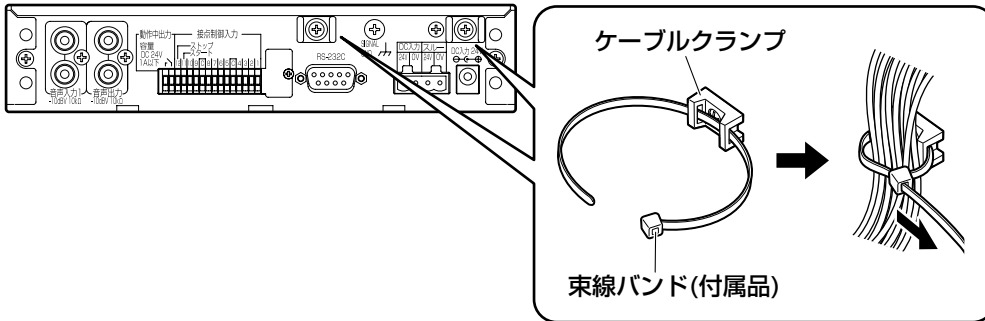
・DC24 Vを電源制御ユニット (WU-L62) から供給することができます。本機が複数ある場合、DC24 V供給用ユーロブロックソケットでわたりをとって接続できます。1本のわたり系統に供給するのは、最大4台までとしてください。

詳しくは電源制御ユニット (WU-L62) の取扱説明書をお読みください。

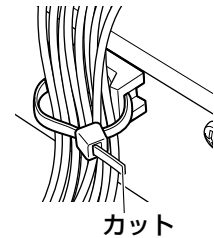


ケーブルの処理について

束線バンド（付属品）を使用して、接続したケーブルをケーブルクランプに固定できます。



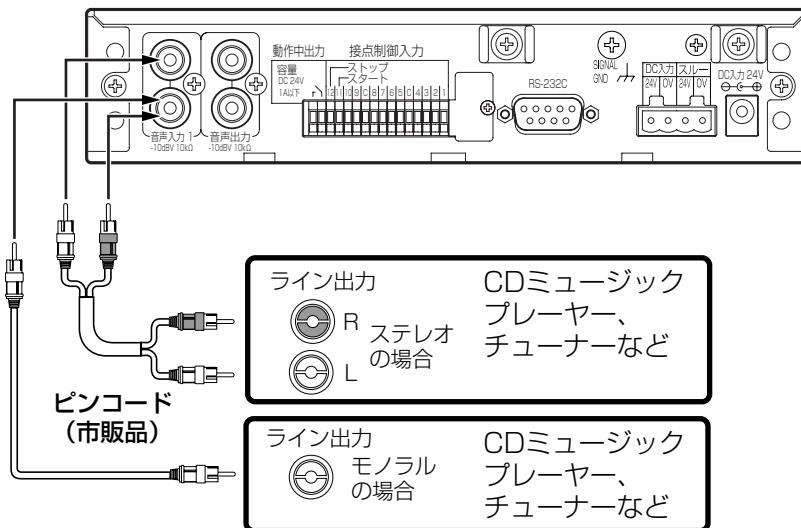
束線バンドの余った部分はカットしてください。



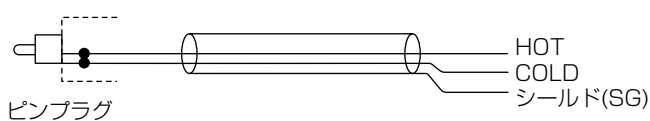
音楽再生機器との接続

CDミュージックプレーヤー、ラジオ、有線放送のチューナーなどを接続します。

- ・本機の外部入力端子と、接続する機器のライン出力端子をピンコード（市販品）で接続します。なお、再生機器がステレオ出力の場合も、本機内部でモノラルになります。
 - ・モノラル機器と接続する場合は、外部入力端子のL側、R側どちらかに接続してください。
- 詳しくは、お使いの音楽再生機器の取扱説明書をお読みください。



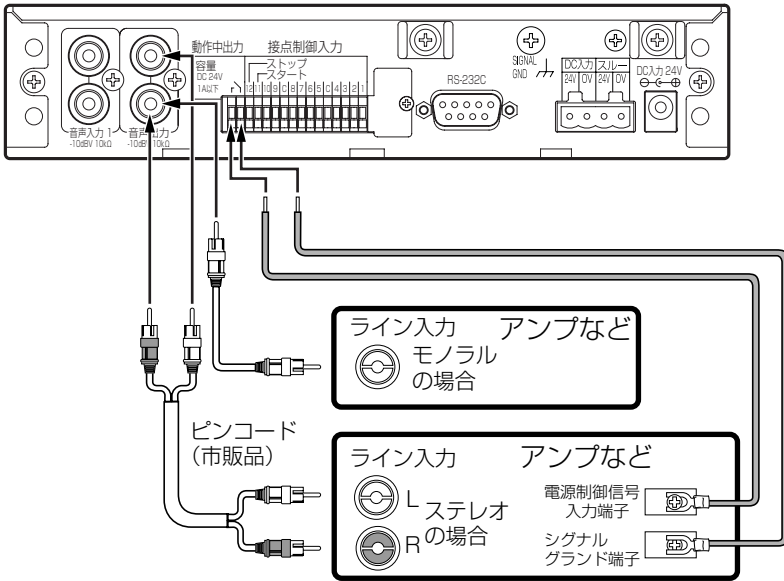
■バランス（平衡型）機器との接続方法



- ・ハム音などが発生する場合は、ユニット間のシグナルグラウンドを接続するか、またはピンプラグ側のCOLDとシールド（SG）を接続してください。

アンプとの接続

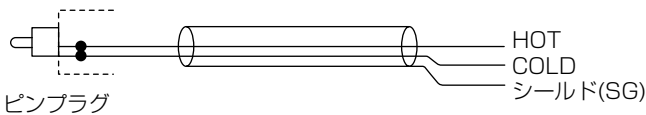
- ・本機のライン出力端子とアンプのライン入力端子をピンコード（市販品）で接続します。
 - ・モノラルアンプと接続する場合は、ライン出力端子のL側またはR側のどちらかとアンプのライン出力端子を接続してください。
 - ・電源制御端子を備えているアンプは、本機の制御入力端子にある動作中出力端子と接続することにより、動作中出力信号を使用して電源の入／切ができます。リレーを使用していますので極性はありません。
- 詳しくは、お使いのアンプの取扱説明書をお読みください。



動作中出力端子 対応線材

対応線材	単線：φ0.32 mm (AWG28) から φ0.65 mm (AWG22) より線：0.08 mm ² (AWG28) から 0.32 mm ² (AWG22) 素線径φ0.12以上
線材むき長さ	10±1 mm

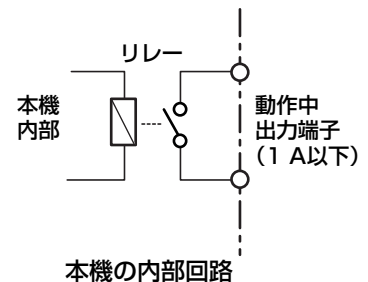
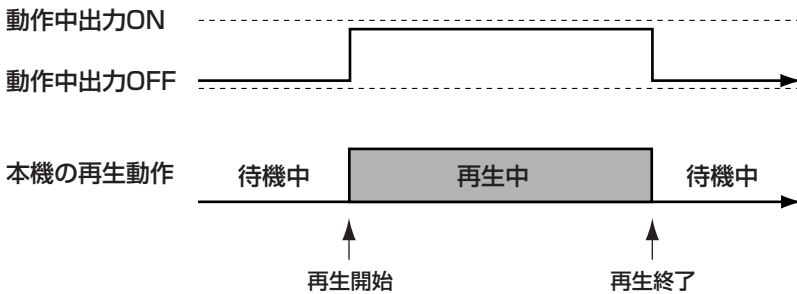
■ バランス（平衡型）機器との接続方法



- ・ハム音などが発生する場合は、ユニット間のシグナルグランドを接続するか、またはピンプラグ側のCOLDとシールド（SG）を接続してください。

■ 動作中接点出力の接続方法

- ・本機の制御入力端子にある動作中出力端子は、おもにアンプの電源を制御する目的で装備されています。
- ・動作としては、メッセージの再生をしている間だけ、端子内部にあるリレーがメイク（ショート）します。再生が終わると切れます。



・アンプ電源の立ち上がり時間が必要な場合は、再生遅延設定（72ページ）を行ってください。

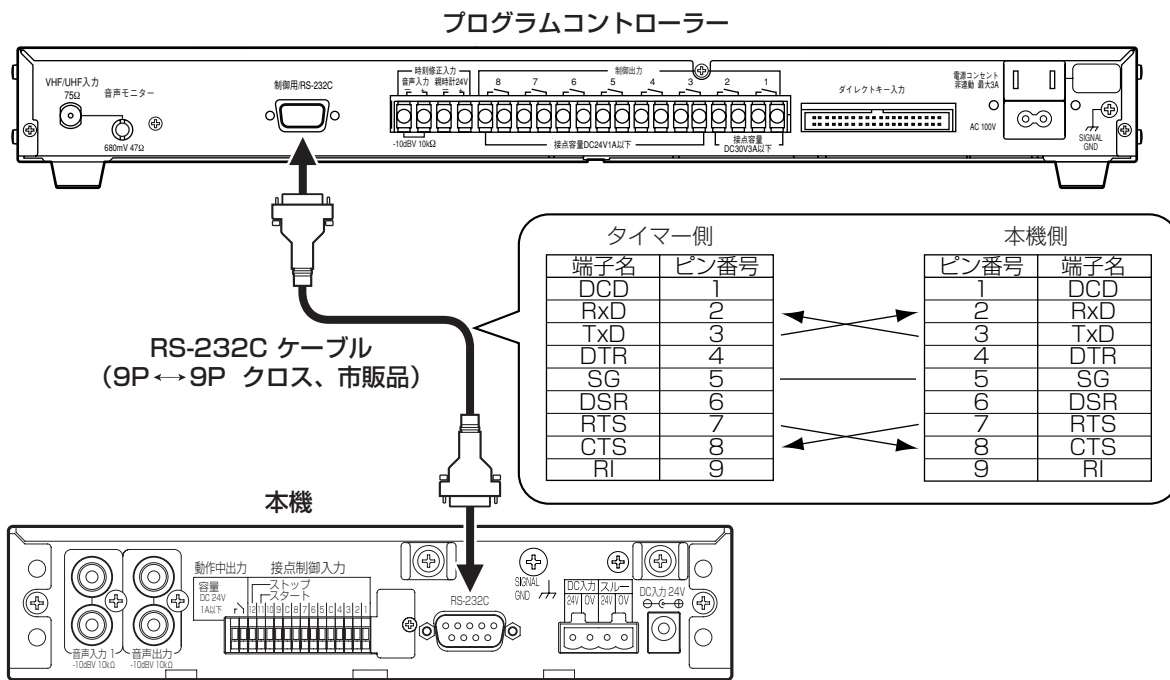
プログラムコントローラーとの接続

プログラムコントローラー（WZ-610）を例にとり、説明します。プログラムコントローラー（WZ-650）の場合も同様です。

詳しくは、お使いのプログラムコントローラーの取扱説明書をお読みください。

■プログラムコントローラー（RS-232Cコネクター）との接続

本機後面のRS-232Cコネクターとプログラムコントローラー（WZ-610）のRS-232Cコネクターを、市販のRS-232Cケーブル（9Pメス-9Pメス、クロス）で接続します。



プログラムコントローラーからRS-232Cコマンドを利用して、本機のSDメモリーカード内のメッセージを直接指定して再生できます。プログラムコントローラーの設定（ディスク番号、チャンネル番号、曲番号）は以下のとおりです。

ディスク番号	1	SDメモリーカードA面のメッセージを指定します
	2	SDメモリーカードB面のメッセージを指定します
	3、4	使用しないでください
	5	組合せメッセージ/プログラムメッセージを指定します
チャンネル番号	0	本機では常に「0」に設定してください
	1～8	使用しないでください
曲番号	1～99	メッセージ番号を指定します

●内蔵メモリーのメッセージは、RS-232Cコマンドでは指定できません。プログラムコントローラーから内蔵メモリーのメッセージを再生したい場合は、プログラムコントローラーの出力接点を使って再生させてください。（次ページ）

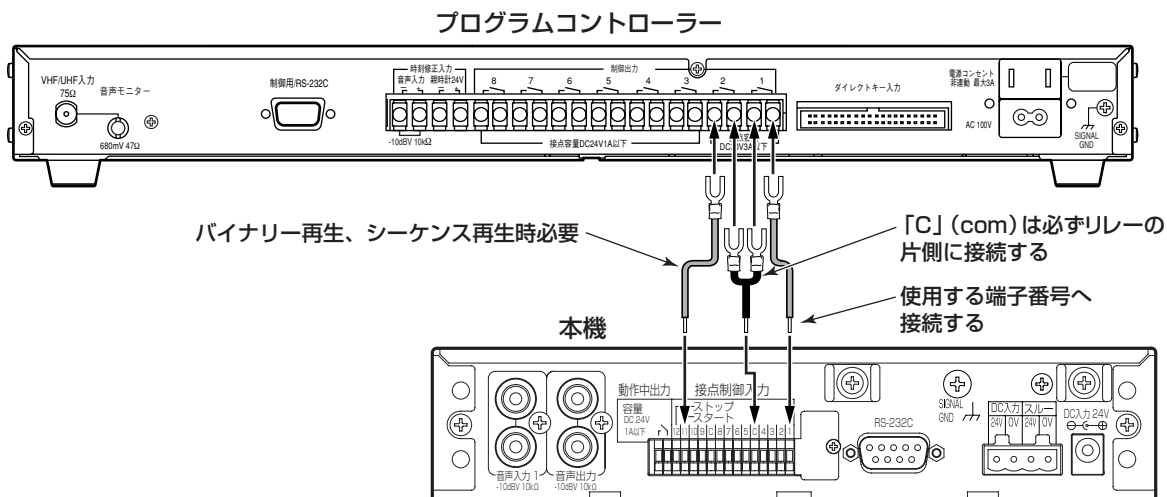
なお、RS-232Cで再生させたい場合は、設定支援ソフトを使って、付属のCD-ROMに収録されている内蔵メモリーのメッセージと同じ音源ファイルをSDメモリーカード内にメッセージとして登録し、そのSDメモリーカード内のメッセージをRS-232Cコマンドを使って再生させる方法もあります。

（設定支援ソフト取扱説明書の「ライブラリの登録」「メッセージの作成」をお読みください。）

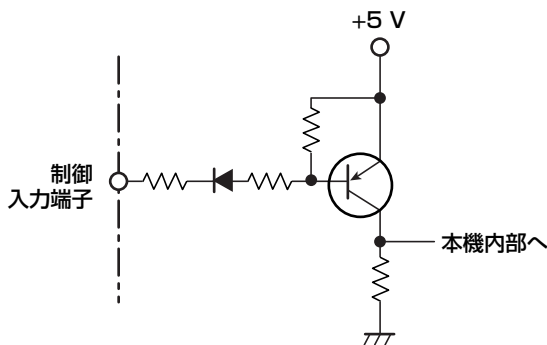
接続のしかた

■出力接点との接続

本機をプログラムコントローラー（WZ-610）の出力接点を使用して制御する場合は、以下のように接続します。プログラムコントローラー側接点に極性はありません。
この接続では、制御は一般タイマーと同じ動作になります。



設置・設定



本機の内部回路

制御入力端子 対応線材

対応線材	単線：φ0.32 mm (AWG28) からφ0.65 mm (AWG22) より線：0.08 mm ² (AWG28) から0.32 mm ² (AWG22) 素線径φ0.12以上
線材むき長さ	10±1 mm

プログラムコントローラー（WZ-610）と接続する場合の、線材とY型端子の例
線材：AWG#22
Y型端子：V1.25-Y3A（日本圧着端子製造株式会社）



- 本機の接点制御入力端子は12端子あります。プログラムコントローラーや一般タイマーと接続する場合、目的とする動作に合わせてプログラムコントローラーやタイマーの台数を増設し、接続してください。

例1：ダイレクト再生

選曲するメッセージ、またはプログラムの数だけ接点制御が必要となります。

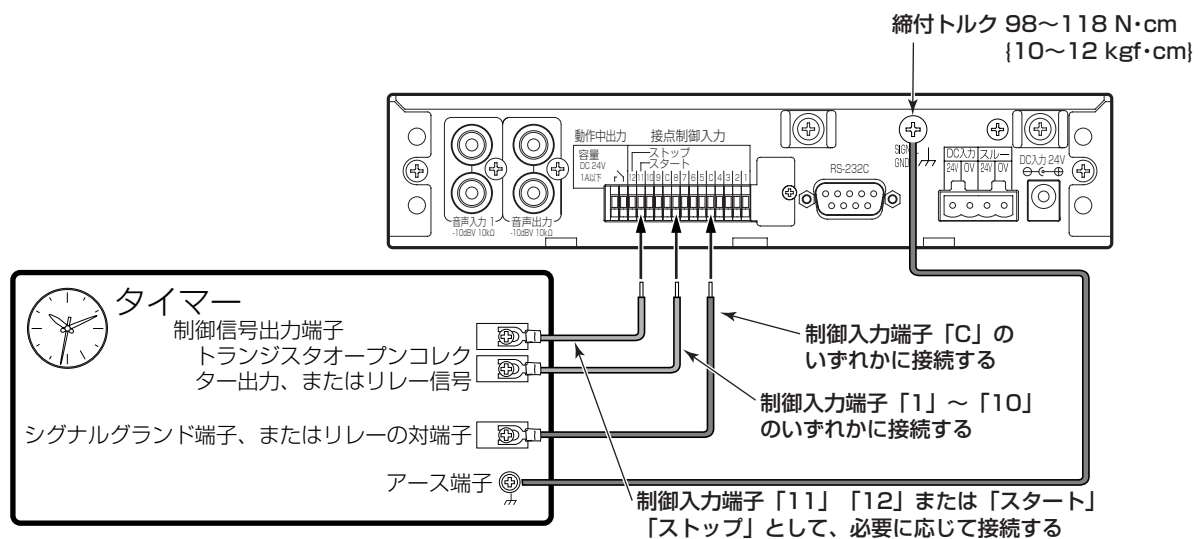
例2：バイナリー再生

選曲するメッセージやプログラムの数により、必要な接点数が変わります。また、内部音源／SDメモリーカードの選択、スタート制御のために、さらに2～4接点使用します。詳しくは40ページをお読みください。

制御入力端子の接続

■一般タイマー

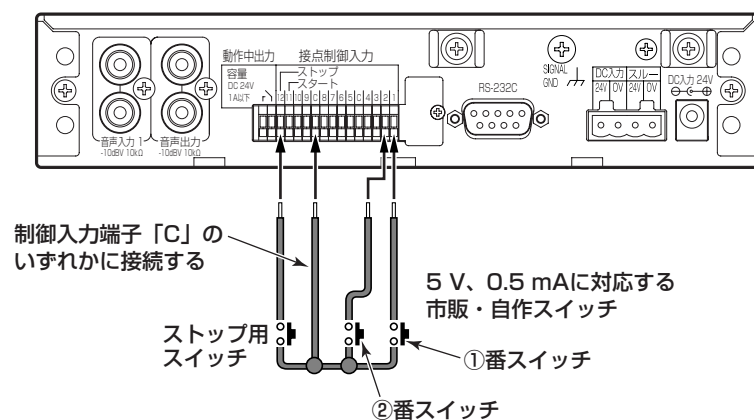
タイマーの出力接点で本機の再生をスタートさせる場合は、以下のように接続します。
 タイマーから出力される制御信号がトランジスタオープンコレクター出力の場合は、アース端子同士を接続します。
 詳しくは、お使いのタイマーの取扱説明書をお読みください。



設置・設定

■スイッチ

市販されているスイッチ、または自作のスイッチを接続する場合は、以下のように接続します。
 スイッチは、跳ね返り型スイッチ（押している間はON：パルス接点向き）、トグル型スイッチ（ON/OFFを切り換える：保持接点向き）のどちらでも接続できます。運用形態に合わせてスイッチを選択してください。
 演奏停止に使用するストップ用スイッチも接続されることをおすすめします。



前面へのマイク・音源機器の接続

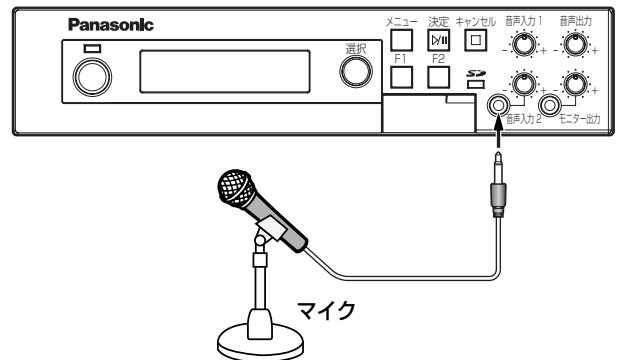
本機前面の音声入力2端子にマイクなどを接続して、録音や放送に使用できます。

φ3.5 複式フォンプラグに対応しています。入力はバランス型です。

- ・WZ-DP250では、マイクと、ラインレベルの音源機器を接続できます。
- ・WZ-DP150では、マイクのみ接続できます。

■マイクとの接続

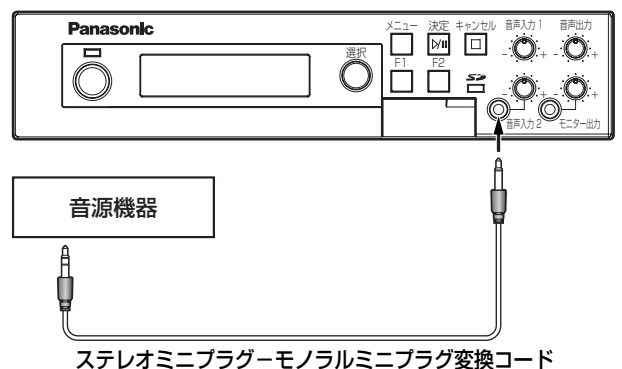
- ・本機前面の音声入力2端子にマイクを接続します。
- ・WZ-DP250では、入力レベルを「マイク」に設定する必要があります。本機の録音画面の中で録音時のレベルを「マイク」にします。(28ページ) **DP250**
- ・WZ-DP150では、入力レベルはマイクレベル固定ですので、レベルに関する設定の必要はありません。**DP150**
- ・音声入力2つまみを調節して、マイクの音量を調節できます。
- ・ダイナミックマイク、電池などの電源内蔵タイプのコンデンサマイクがお使いいただけます。外部から電源を供給するタイプのコンデンサマイクはお使いいただけません。
詳しくは、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。
- ・ミキシング機能をお使いの場合は、スイッチ付きマイクのご使用をおすすめします。スイッチがないマイクの場合、マイク周囲の音声そのまま放送されたり、マイク周囲の音声を検知して入力1の音声ミュートされたりする場合があります。



- ・ノイズ音が放送されるのを防ぐため、マイクプラグを抜き差しするときは、本機の音声入力2つまみまたは音声出力つまみのボリュームを絞ってから行ってください。

■音源機器との接続 **DP250**

- ※WZ-DP150ではこの機能はお使いいただけません。
 - ・本機前面の音声入力2端子に接続します。
 - ・入力レベルを「ライン」に設定する必要があります。本機の録音画面の中で録音時のレベルを「ライン」にします。(28ページ)
 - ・音声入力2つまみを調節して、音量を調節できます。
 - ・ステレオ音声の音源機器を接続する場合は、市販のコードやアダプターによって、ステレオ音声をモノラルに変換したあとにφ3.5モノラルミニプラグで本機に接続してください。ステレオミニプラグを直接接続すると、音声を本機に正しく入力できません。
- 右の図は、ステレオミニプラグーモノラルミニプラグ変換コードを用いた例です。

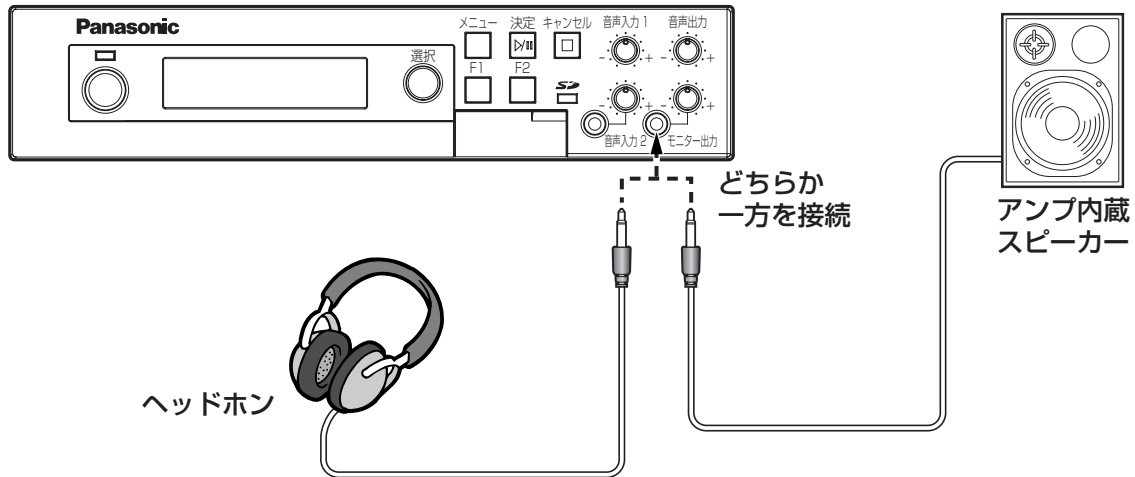


アンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンとの接続

モニター出力端子にアンプ内蔵スピーカーまたはヘッドホンを接続すると、本機で録音した音声の試聴確認や、実際の再生の音声をモニターできます。

ステレオヘッドホンを接続すると、両チャンネルにモノラルの音声が出力されます。

詳しくは、お使いのアンプ内蔵スピーカー、ヘッドホンの取扱説明書をお読みください。



- 重要**
- アンプ内蔵スピーカーやヘッドホンをお使いの場合、耳を傷めないようにモニター出力つまみで音量を適切に調節してお使いください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときや、この表以外の症状のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
電源が入らない	<ul style="list-style-type: none"> ● ACアダプターのプラグが抜けていませんか？ ➔ プラグを正しく接続してください。 プラグの抜け防止に、ケーブルクランプを使用することをおすすめします。 	89
	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーロブロックソケットが抜けていませんか？ ➔ ユーロブロックソケットを正しく接続してください。 	89
	<ul style="list-style-type: none"> ● ユーロブロックソケットの配線が間違っていますか？ ➔ ユーロブロックソケットを正しく配線してください。 	89
メッセージが再生できない	<ul style="list-style-type: none"> ● SDメモリーカードが入っていますか？ ➔ SDメモリーカードを入れてください。 	23
	<ul style="list-style-type: none"> ● 音声出力つまみが左に回されていませんか？ ➔ 右に回すと音が出ます。 適切な出力レベルに調節してお使いください。 	12
選択したメッセージを再生できない	<ul style="list-style-type: none"> ● タイマーで再生する場合： 接点制御入力の割り付けは正しいですか？ 後面の接点制御入力の接続は正しいですか？ ➔ 接点制御入力の割り付けと接続を確認してください。 	35、95
	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムコントローラー（WZ-610）で再生する場合： RS-232Cケーブルは接続されていますか？ ストレートケーブルを使っていませんか？ ➔ クロスケーブルを使ってください。 	93
再生音をモニター出力から聞けない	<ul style="list-style-type: none"> ● モニター出力つまみが左に回されていませんか？ ➔ 右に回すと音が出ます。 適切な出力レベルに調節してお使いください。 	13

必要なとき

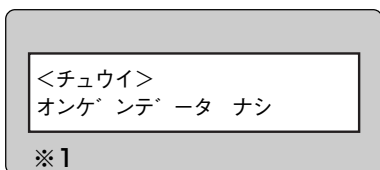
症 状	原 因 ・ 対 策	参照ページ
録音できない	<ul style="list-style-type: none"> ●SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチがLOCK状態になっていませんか？ ➔書き込み禁止スイッチを解除してください。 	11
	<ul style="list-style-type: none"> ●SDメモリーカードは本機でフォーマットされていますか？ ➔本機でフォーマットしてからお使いください。それでも改善しない場合は、PCでSD規格に準拠したSDメモリーカードフォーマットソフトウェアを使ってフォーマットしてください。 	23
	<ul style="list-style-type: none"> ●録音しようとしているメモリー（本機またはSDメモリーカード）がいっぱいになっていませんか？ ➔メモリーの音声データを減らしてください。クリーンアップ機能が便利です。 	77
録音ファイルはできているが、音が入っていない	<ul style="list-style-type: none"> ●ミキシングの設定は正しくされていますか？ ➔正しく設定してください。 	48
音声入力1からステレオ音源を録音する場合に、片方のチャンネルしか録音できない	<ul style="list-style-type: none"> ●音源機器から音声入力1へのピンコードの接続で、片方のチャンネルの接続が外れていませんか？ ➔両チャンネルのピンコードを接続してください。 	91
音声入力2から録音する場合、録音した音がおかしい（音楽でボーカル音だけが小さいなど）	<ul style="list-style-type: none"> ●音源機器からのコード接続で、ステレオミニプラグを本機の音声入力2に接続していませんか？ ➔ステレオミニプラグーモノラルミニプラグ変換コードを介して接続してください。 	96
設定支援ソフトがインストールできない	<ul style="list-style-type: none"> ●インストールしようとしているPCは、動作環境を満たしていますか？ ➔動作環境をご確認ください。 	74

必要なとき

故障かな!?

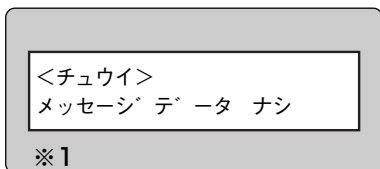
■エラー画面一覧

液晶ディスプレイ表示



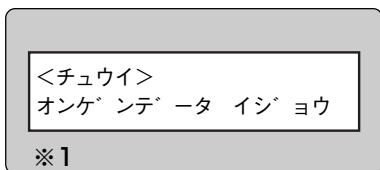
- メッセージと音源データが一致しません。
- ➡78ページの運用データの更新をしたあと、設定支援ソフトでメッセージのチェックをしてください。

66,
設定支援ソフト
取扱説明書



- 割り当てられていない音源データを再生した際に表示されます。
- ➡設定を見直してください。

—



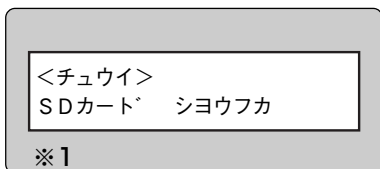
- 本機でサポートしていない音源データを使用しています。
- ➡設定支援ソフトで、運用データを作成し、使用してください。

—



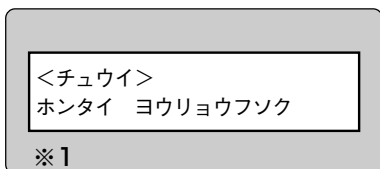
- キーロック中に前面パネルのボタン操作をした際に表示されます。
- ➡キーロックを解除して、前面パネルのボタン操作をしてください。

67



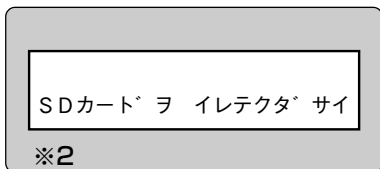
- SDメモリーカードが使用できません。
- ➡SDメモリーカードを交換してください。

—



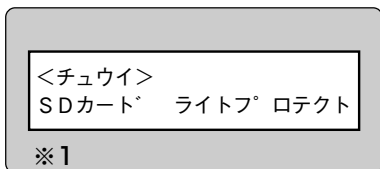
- 本機の内蔵メモリーの容量が不足しています。
- ➡メモリーの音声データを減らしてください。

82



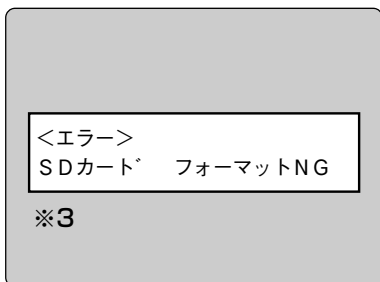
- SDメモリーカードが未挿入のときに表示されます。
- ➡SDメモリーカードを挿入してください。

23



- SDメモリーカードのライトプロテクトがONになっています。
- ➡ライトプロテクトを解除して再度挿入してください。

11



- SDメモリーカードが不正規フォーマットになっています。
- ➡本機でフォーマットをして使用してください。
- ➡それでも改善しない場合は、PCでSD規格に準拠したSDメモリーカードフォーマットソフトウェアを使ってフォーマットしてください。

—

必要なとき

液晶ディスプレイ表示	原因・対策	参照ページ
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <チュウイ> SDカード ヨウリョウフソク </div> ※1	<ul style="list-style-type: none"> ●SDメモリーカードの空き容量が不足しています。 ➡SDメモリーカードの空き容量を増やしてください。 	—
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <チュウイ> Flashカキコミ </div> ※2	<ul style="list-style-type: none"> ●内蔵メモリーに書き込む際にエラーが発生しました。 ➡再度、書き込みを行ってください。再度表示される場合は、お買い上げの販売店に問い合わせください。 	—
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <チュウイ> SDカード ライトエラー </div> ※2	<ul style="list-style-type: none"> ●SDメモリーカードの書き込みに失敗しました。 ➡SDメモリーカードに問題がないことを確認してください。 ➡PCでSD規格に準拠したSDメモリーカードフォーマットソフトウェアを使ってフォーマットしてください。 ➡本機の電源をOFF/ONしてください。 ➡SDメモリーカードを交換してください。 	—
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <チュウイ> SDカード リードエラー </div> ※2	<ul style="list-style-type: none"> ●SDメモリーカードの読み込みに失敗しました。 ➡SDメモリーカードに問題がないことを確認してください。 ➡PCでSD規格に準拠したSDメモリーカードフォーマットソフトウェアを使ってフォーマットしてください。 ➡本機の電源をOFF/ONしてください。 ➡SDメモリーカードを交換してください。 	—
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ナイゾ ウオンゲン ヨウリョウオーバー </div> ※3	<ul style="list-style-type: none"> ●内蔵メモリーに書き込もうとしたデータのサイズが8 MBを超えています。 ➡設定支援ソフトで内蔵メモリーに書き込むデータサイズを確認してください。 	21

必要なとき

※1：約4秒間表示されます。画面表示を消したい場合は [キャンセル] ボタンを押してください。

※2：画面表示を消したい場合は [キャンセル] ボタンを押してください。

※3：[キャンセル] ボタンを押してください。フォーマット画面になります。

仕様

●基本仕様

電源	DC24 V (AC100 V用ACアダプター付属) コネクター：ACアダプター用ジャックおよびユーロブロック用コネクター
消費電力、消費電流	ACアダプター使用時：6 W (電源スイッチで電源「切」のとき0.5 W) DC24 V入力時：250 mA
寸法	幅210 mm 高さ44 mm 奥行き300 mm (突起部含まず)
使用温度範囲	0℃～+45℃ (ACアダプターのみ 0℃～+40℃)
質量	約1.8 kg (ACアダプター含まず)
仕上げ	前面パネル：AVライトグレー色ABS樹脂 (マンセルN8近似色) カバー：AVライトグレー色塗装鋼板 (マンセルN8近似色)

●入出力

音声入出力	音声入力1 (後面) コネクター：ピンジャック 不平衡 系統数：2 (内部にてモノラルミックス) 定格入力レベル：-10 dBV (可変、調節つまみ付) 最大入力レベル：+10 dBV 周波数特性：20 Hz～20 kHz (+1 dB、-3 dB 調節つまみ中央) 50 Hz～20 kHz (+1 dB、-3 dB 調節つまみ右回しきり) ダイナミックレンジ：90 dB (IHF-A) 入力インピーダンス：10 k Ω
	音声入力2 (前面) コネクター： ϕ 3.5 複式フォンジャック 平衡 系統数：1 定格入力レベル： [WZ-DP150] -35 dBV～-65 dBV (可変、調節つまみ付) [WZ-DP250] -10 dBV～-65 dBV (可変、調節つまみ付) 周波数特性：20 Hz～20 kHz (+1 dB、-3 dB 調節つまみ中央) 50 Hz～20 kHz (+1 dB、-3 dB 調節つまみ右回しきり) 入力インピーダンス：10 k Ω
	音声出力 (後面) コネクター：ピンジャック 不平衡 系統数：2、モノラル 定格出力レベル：-10 dBV (可変、調節つまみ付) 最大出力レベル：+10 dBV 周波数特性：20 Hz～20 kHz (+1 dB、-3 dB) ダイナミックレンジ：90 dB (IHF-A) 適合負荷インピーダンス：10 k Ω 以上
	モニター出力 (前面) コネクター： ϕ 3.5 複式フォンジャック 系統数：1、モノラル (ステレオヘッドホン接続時は両チャンネルにモノラル出力) 最大出力：10 mW (32 Ω) 出力調節つまみ付き 周波数特性：100 Hz～15 kHz 適合負荷インピーダンス：16 Ω 以上
制御入出力	RS-232C 接続対象機器：プログラムコントローラー (WZ-610) コネクター：D-SUB 9ピン オス、 対応ケーブル：RS-232C クロスケーブル
	制御入力 方式：12ビットダイレクト/10ビットダイレクト+スタート、ストップ/7ビットバイナリー+制御2ビット+スタート、ストップ/12ビットパルス/10ビットパルス+スタート、ストップ コネクター：スクリューレス端子台、2.5 mm ピッチ 適合線材：AWG#22 (ϕ 0.65)～#28 接点形式：無電圧メイクおよびオープンコレクター出力に対応 (制御電流3 mA)
	動作中出力 接点形式：リレー出力 接点容量：1 A コネクター：スクリューレス端子台、2.5 mm ピッチ 適合線材：AWG#22 (ϕ 0.65)～#28

●録音・再生仕様

蓄積メディア	カードスロット	SDメモリーカード用スロット：1 対応容量： 64 MB～2 GB SDメモリーカード（動作確認済み） ：パナソニック株式会社製（64 MB、128 MB、256 MB、512 MB、1 GB、2 GB） SDHCメモリーカードには対応していません。
	内蔵メモリー	フラッシュメモリー：8 MB
音声データ形式	再生	高音質： WAV形式、モノラル、20 Hz～20 kHz 標準： 独自形式、モノラル、20 Hz～20 kHz エコノミー：独自形式、モノラル、20 Hz～11 kHz MP3（MPEG Audio Layer3）： CBRのみ対応 128 kbps／44.1 kHz、ステレオ、20 Hz～20 kHz （両チャンネルがミキシングされてモノラル再生） 64 kbps／44.1 kHz、モノラル、20 Hz～20 kHz
	録音 （WZ-DP250のみ）	高音質： WAV形式、モノラル、20 Hz～20 kHz 標準： 独自形式、モノラル、20 Hz～20 kHz エコノミー：独自形式、モノラル、20 Hz～11 kHz

●録音・再生時間について

形式	SDメモリーカード 1 GBあたりの蓄積時間	内蔵メモリーでの 最大蓄積時間※
高音質	約3.3時間	約1.5分
標準	約13時間	約6分
エコノミー	約19時間	約9分
MP3（MPEG Audio Layer3） （再生のみ）	128 kbps／44.1 kHz ステレオ	約18時間 約8分
	64 kbps／44.1 kHz モノラル	約36時間 約16分

WZ-DP250での、1つのメッセージでの連続録音時間は、最長30分です。

※内蔵メモリー内のメッセージを全て削除した状態での最大蓄積時間

●制御方法と、制御可能なメッセージ数

	メッセージ数	プログラムメッセージと 組合せメッセージの合計数
本体操作	内蔵メモリー：127 SDメモリーカードA面：127 SDメモリーカードB面：127	50※
ダイレクト パルス	12（スタート、ストップなし）、10（スタートストップあり）※ 12（スタート、ストップなし）、10（スタートストップあり）※	
バイナリー	内蔵メモリー：127 SDメモリーカードA面：127 SDメモリーカードB面：127	50※
RS-232C	SDメモリーカードA面：99 SDメモリーカードB面：99	50※

※内蔵メモリー、SDメモリーカードA面、B面すべてでの合計

仕様

■工場出荷時の設定

大項目	小項目	初期値
内蔵メモリーのメッセージ 録音設定※1	本体	MSG001～MSG008
	入力切り換え	音声入力2
	入力レベル	マイクレベル
	録音方式	高音質
接点設定	接点動作設定	ダイレクト
	接点番号1	本体MSG001
	接点番号2	本体MSG002
	接点番号3	本体MSG003
	接点番号4	本体MSG004
	接点番号5	本体MSG005
	接点番号6	本体MSG006
	接点番号7	本体MSG007
	接点番号8	本体MSG008
	接点番号9	設定なし
	接点番号10	設定なし
	接点番号11	設定なし
	接点番号12	設定なし
再生設定	機能ボタン1、2	設定なし
	ミキシング設定	優先度設定なし
	音声入力2端子有効設定	無効
	シャッフル再生	シャッフル再生なし
	フェードアウト設定	0秒
	起動時自動再生	なし
	再生遅延設定	0秒
プロテクト設定	なし ただし、内蔵メモリーのメッセージはプロテクト	
液晶ディスプレイバックライト設定	自動	

※1 録音設定は、WZ-DP250のみ設定可能です。

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このデジタルICプレーヤー、デジタルICレコーダーの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年保有しています。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

94～97ページにしたがってご確認のあと、なお異常のあるときは、電源スイッチを「切」にしてから、ACアダプターをご使用の場合は電源プラグを抜いて、外部DC電源をご使用の場合はその電源を切って、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定にしたがって、出張修理をさせていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、お客さまのご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

製品名	デジタルICプレーヤー、 デジタルICレコーダー
品番	WZ-DP150, WZ-DP250
お買い上げ日	年 月 日
故障の状況	できるだけ具体的に

必要
な
と
き

■当社製品のお買物・取り扱い方法・その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

フリーダイヤル

パナハ ヨイフ

0120-878-410 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）

ホームページからのお問い合わせは <https://sec.panasonic.biz/solution/info/>

ご相談窓口における個人情報のお取り扱いについて

パナソニック株式会社および関係会社（以下「当社」）は、お客様の個人情報やご相談内容をご相談への対応や修理、その確認などのために利用し、その記録を残すことがあります。また、折り返し電話をさせていただくための、ナンバーディスプレイを採用している場合があります。当社は、お客様の個人情報を、適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に提供しません。お問い合わせはご相談された窓口にご連絡ください。

便利メモ おぼえのため 記入されると 便利です	お買い上げ日	年	月	日	品番	WZ-DP150, WZ-DP250
	販売店名	電話（	）	—		

パナソニック システムネットワークス株式会社

〒153-8687 東京都目黒区下目黒二丁目3番8号